



秦石初心集

卷

79  
782



茶齋初心集

半日庵





○ 桑之湯刻限

○ 昼の桑の湯

正午

○ 夜を起し桑の湯

暮六時古に七時

○ 朝の桑の湯

朝六時半時

○ 暁の桑の湯

夜を起すと云

朝七時半時古に七時

○ 飯後の桑の湯

桑子の桑

朝夕飯後

○ 不時の桑の湯



○ 松系揚座の事曰路次粒分座の道迄廿斗大樽の  
 揚之改修と申又正月末二月入梅と云候  
 揚座相風爐より水路次と申揚座の事と  
 至程不揚と云

○ 水桶物由路次、次由路次、捨

● 素揚座中の式

○ 杉系座等路次向の事

○ 琴座と云一、四時合掛路次水と云

一 潜り戸さう海戸或、雪地の戸と云らと云

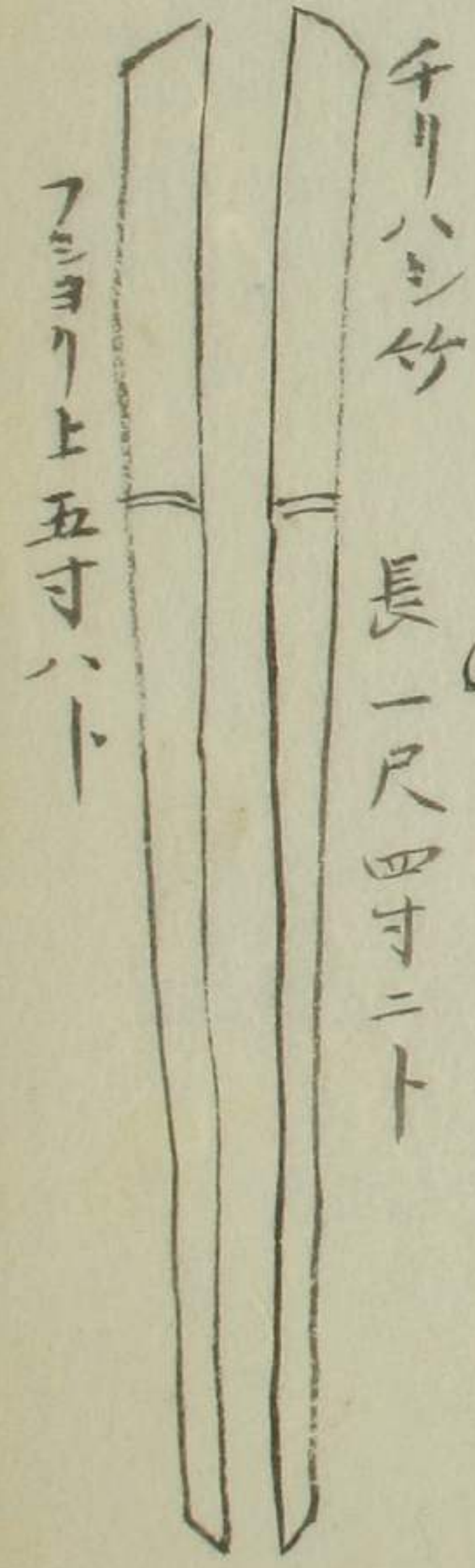
〜の由〜

○ 路次仕極、月介、合をメ切直夫分由路次

と接一、客待合、何時年とも、之苦極

〜の〜

○ ちりり窓、長き窓、少入ちりり窓、之と云

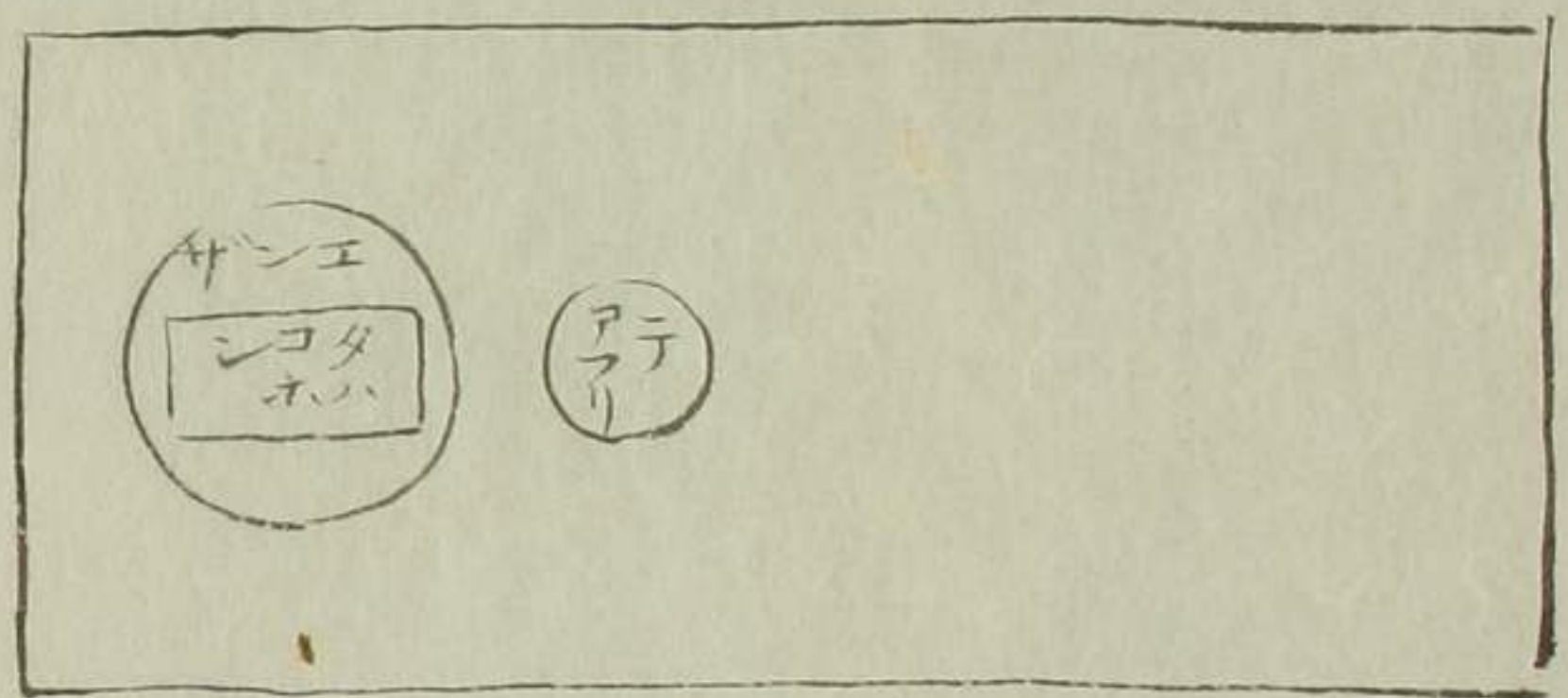


千りハシ竹 長一尺四寸二ト  
 フニヨリ上五寸八ト

△客侍合(急)  
たし...  
七氣能...  
后...

△粉...  
急...  
候...  
待合

△末...  
初...  
候...



夏...  
急...  
雨...  
急...

由...  
千...  
和...  
七...



(一) 勝手事

(一) 浪...  
候...  
候...

(一) 午...  
候...  
候...

(一) 言...  
水...  
中...  
入...  
候...







膳出頂

○ 膳不残出挨拶 〰 膳手口

○ 引箱 手箱 或手箱 膳手口出 膳手口 〰

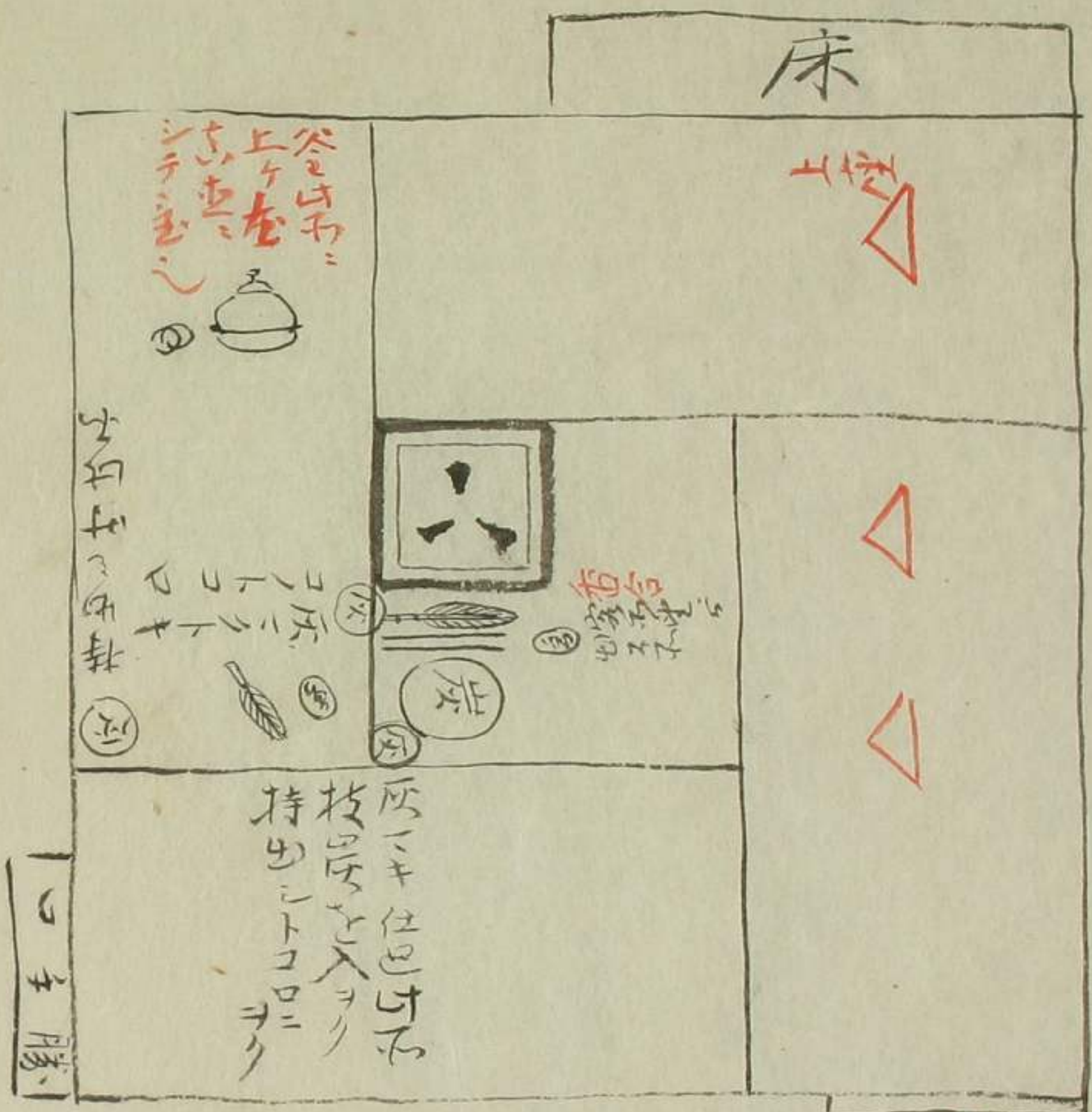
○ 飯鉢出 飯上蓋、飯手口 汁 〰

○ 中酒出 此はけしめの敷 五三層のせ持出 けしめ 〰

○ 燗 燗酒、燗茶、燗湯 〰

○ 飯鉢出 汁 〰 事 〰

○ 中酒 かき、せり、持心、上客、飯、けしめ、今、一編



クハリ口

巾一丁下小間合挨拶より何と申し一飯出さし

清手より出しく明色時ふ何と申し

○膳多口明し及よあ出る或は枯口のよあ

けし 平の坪

○河端川膳多口

○取寄ふ寸くす端し一而持出盡事致し

能程不進挨拶より何と申し

○湯を湯盆より出上家へ給し色を多し

但し湯物極く枯口より

扱より取給し膳多口

○膳多口明し湯多し持出湯桶

△竹の枝形の手旗の大きさを多し

けし湯を何と申し  
相至膳川  
いしと香はさし

○膳多口明し膳川

けし膳川より葉を多し

○客中より膳多口

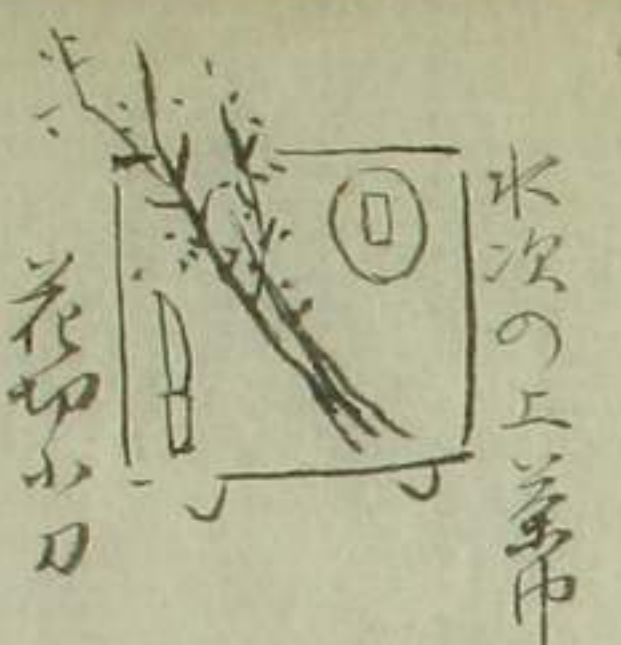
けし膳川より葉を多し

○客中より時先炭を細申し一はり後へ扱一葉

取仕込め扱し水を入花入を扱花を扱花を

細水建く柄抄蓋を仕込ます少中炭を明し

膳川の掛糸より葉を多し掛糸を是谷の葉より



水次の上葉

花切の口

△花を入

坐中相帯を捲くとき、上は花入を中帯に花入を掛る

○水生水垢を主骨薬入主骨丈分水汗水と薬

○水垢を洗い水垢を洗い、湯桶に湯桶に

○薬の事

○上へ亭を出し、○中へ別人出入、通る来る

○心へ心へ喚瀆是は常神田薬の事

○伴も人伴も人心へ心へ喚瀆又志せらるる

○大大中中大大又志せらるる

○喚瀆抄紙

○大大中中大大世五つ一五

○其其上上下下足足智智改改事事也也

○客客水水入入事事也也

○客客水水入入事事也也

○客客水水入入事事也也

○客客水水入入事事也也

○客客水水入入事事也也

○ 室の世時花の挨拶云々

○ 濃茶且お事奉り云々

○ 室の式次第

○ 茶の舞道具の終り云々の茶中持出所

→ 持出所を指す事云々 世時所を指す

茶中持出所と云々

○ 炭の舞と云々 出 多くと云々 出 二つとも指

手口云々 自ら云々 煙云々 持出所云々 後

→ 後 出 葉子出 濃茶且事云々

○ 茶の世時花の挨拶云々

○ 室の世時花の挨拶云々

侍合云々 一礼云々 入室云々

茶の湯

○ 室の世時花の挨拶云々

室の世時花の挨拶云々

○ 朝茶の湯事云々

くまの湯に水をとけ仕方前同

○ 粉を釜釜に掛るの掛は幸六つ付は仕方  
前同

○ 初釜の時何れも長く川に片と持て釜に水と  
うー片と持入て又出て釜を掛る炭平川の

○ 水極ては時掛く朝葉の湯を幸六つ付  
とて粉を釜釜に掛る釜釜より湯の水を入  
釜釜に掛る一鉢うーくは夜を幸六つ付

のん持るは 但所解の時も炭解は粉初釜の

○ 夜を釜の葉の湯を七つ付掃除は炭釜水  
をとけ目をて外待合は多きと多き何れも七つ付  
て炭釜とよみ水桶所は炭釜をよも内掛は

高生は炭とよも

但所待合は釜釜に掛る中の時  
多きとよも何れも炭釜に水  
桶の所は炭釜をよも  
○ 中浦戸に掛るは釜釜に掛るは  
往來をよも炭釜に掛るは

待合

上

□ 炭

炭釜に掛るは  
炭釜に掛るは  
炭釜に掛るは



△ ○ 跡の葉の向を葉の向に跡又葉の向に  
 空の空の跡 待命 燈の跡 圓の葉の出の葉  
 空の葉の向に葉の向に 空の葉の向に葉の向に  
 ○ 跡の葉の向の葉の水拾はす初葉の葉の葉  
 千の葉の向に葉の向に 空の葉の向に葉の向に  
 空の葉の向に葉の向に 空の葉の向に葉の向に  
 葉の向に葉の向に 葉の向に葉の向に  
 葉の向に葉の向に 葉の向に葉の向に  
 葉の向に葉の向に 葉の向に葉の向に

持出葉の向に

○ 葉の向に葉の向に葉の向に葉の向に  
 葉の向に葉の向に 葉の向に葉の向に  
 葉の向に葉の向に 葉の向に葉の向に

○ 葉の向に葉の向に葉の向に葉の向に  
 葉の向に葉の向に 葉の向に葉の向に  
 葉の向に葉の向に 葉の向に葉の向に

○ 不時葉の向に葉

△ ○ 不時葉の向に葉の向に葉の向に葉の向に

しこ 盆お 内飯 水と 杉 杉屋 振盃

○宗廟の時も考胡さるる時以来の物 桑の湯五

こ 桑の湯 桑の湯 九ら 多時 半時の桑の湯

八ら 桑の湯 桑の湯 桑の湯 桑の湯 桑の湯

の湯 湯事 桑の湯 桑の湯 桑の湯 桑の湯

○一宗の桑の湯事

△○一宗の桑の湯 桑の湯 桑の湯 桑の湯 桑の湯

も お供さるる 桑の湯 桑の湯 桑の湯 桑の湯

宗廟 桑の湯 桑の湯 桑の湯 桑の湯

○初儀を以て 桑の湯 桑の湯 桑の湯 桑の湯

お供さるる 桑の湯 桑の湯 桑の湯 桑の湯

を 持入又出 桑の湯 桑の湯 桑の湯 桑の湯

入 宗廟 桑の湯

○桑の時にお供さるる 桑の湯 桑の湯 桑の湯 桑の湯

桑の湯 桑の湯 桑の湯 桑の湯 桑の湯 桑の湯

主宗廟の時 桑の湯 桑の湯 桑の湯 桑の湯 桑の湯



左右一尺下リ

カケ物釘中九ト下リ

舟釘 長一尺ト  
出九ト

八子一ト  
カワニト  
下托ニト

一 三尺六寸

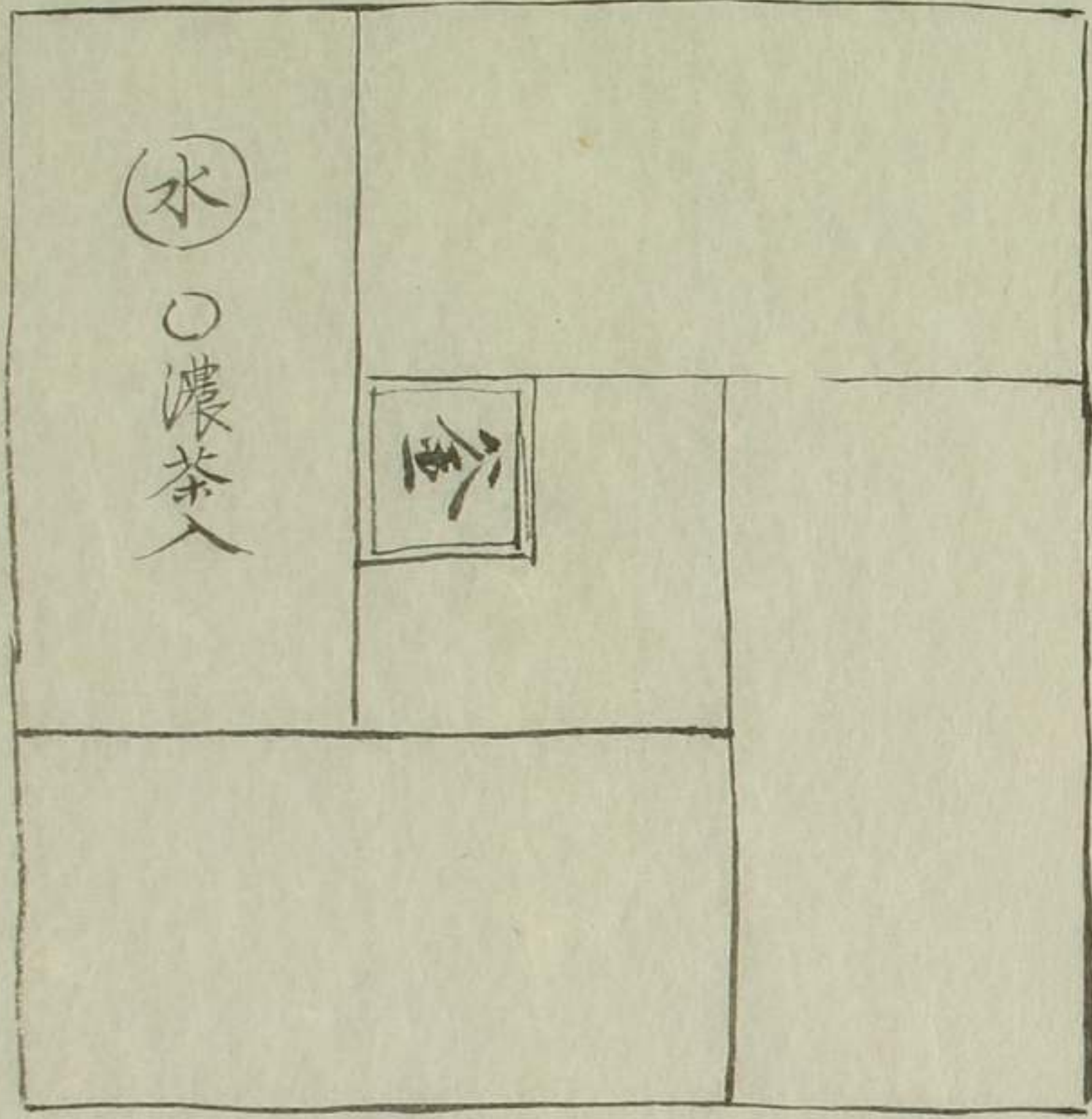
麻スミ物カケ釘四尺八寸

柱釘三尺七寸

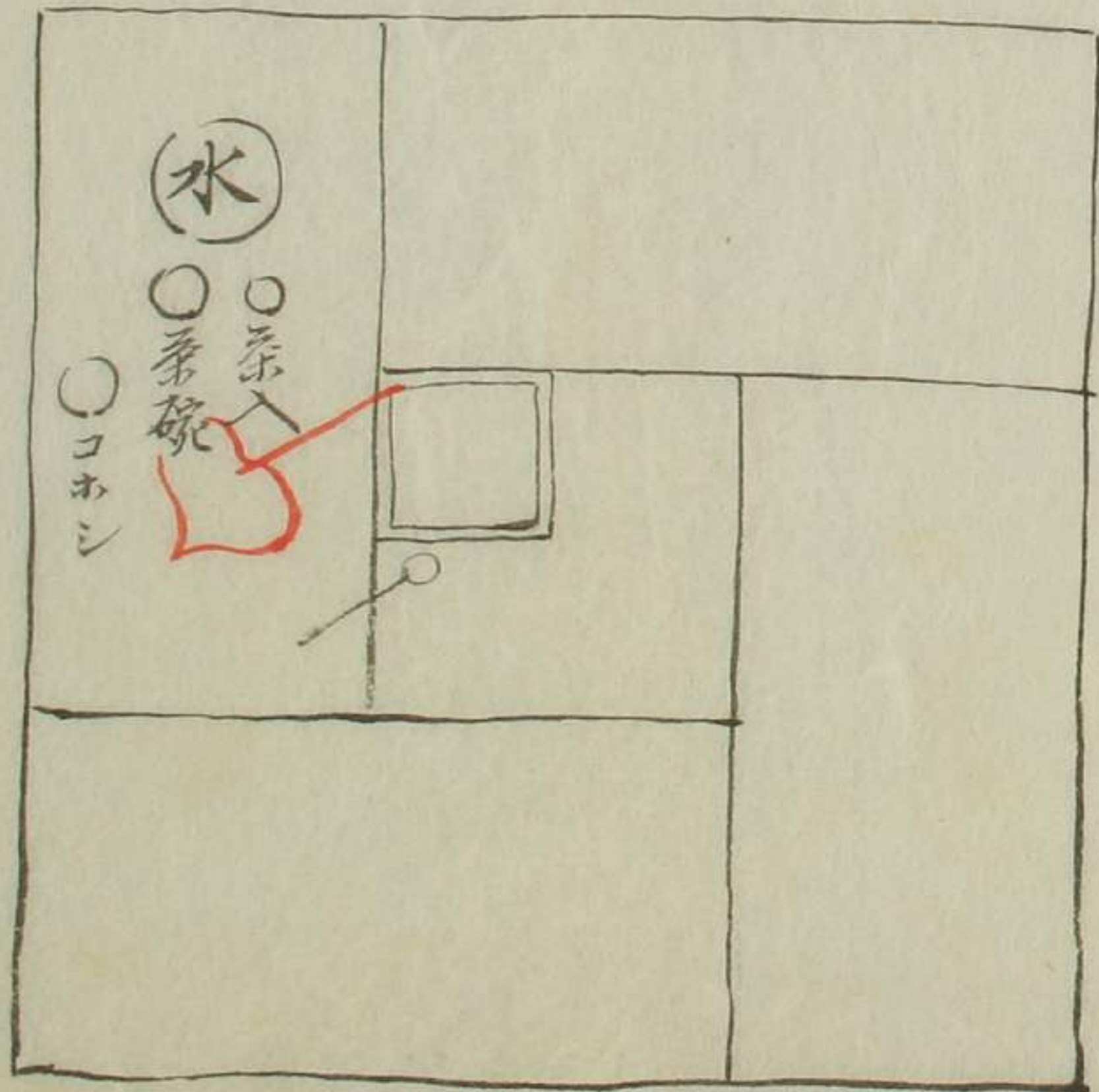
カケ板釘五尺



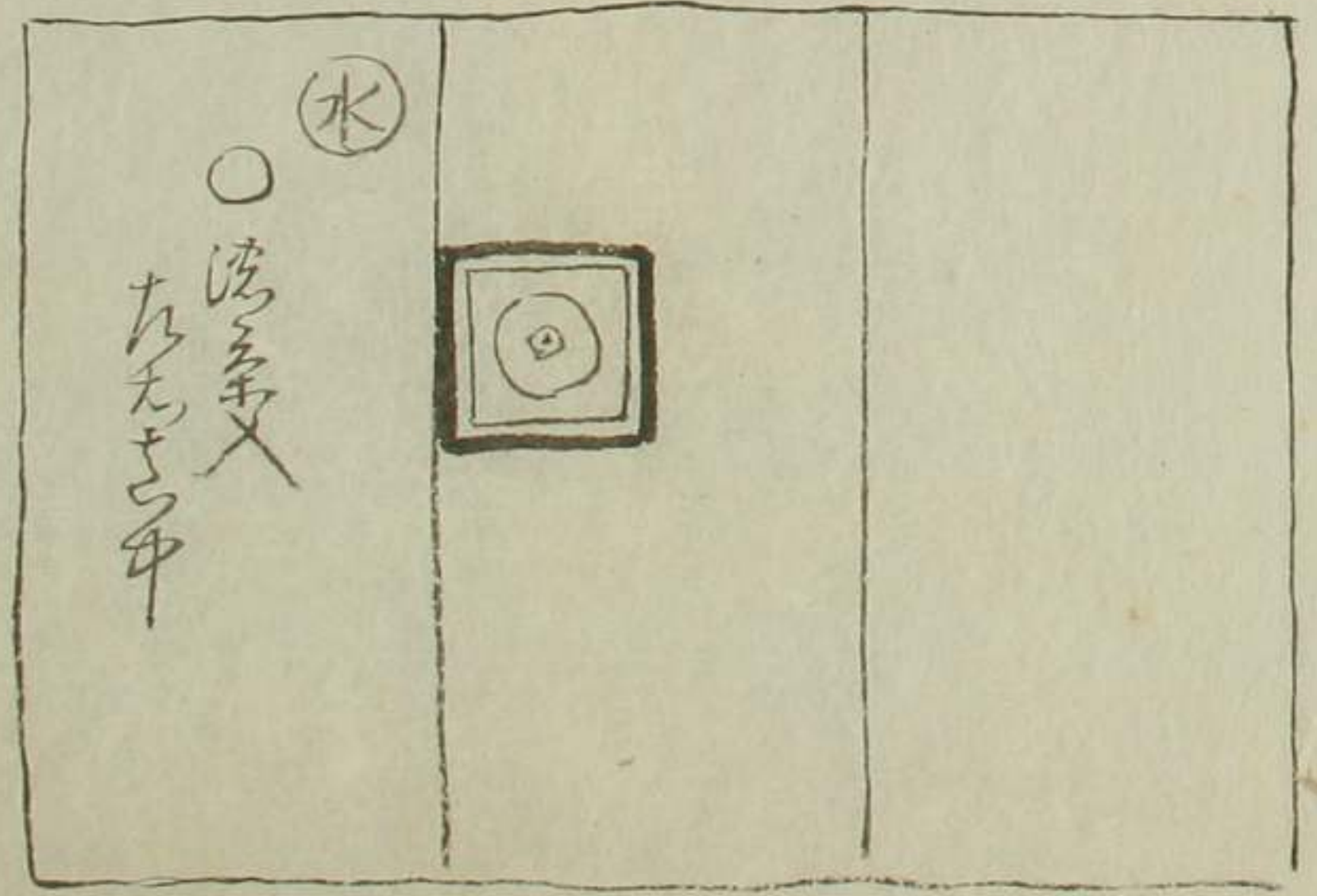
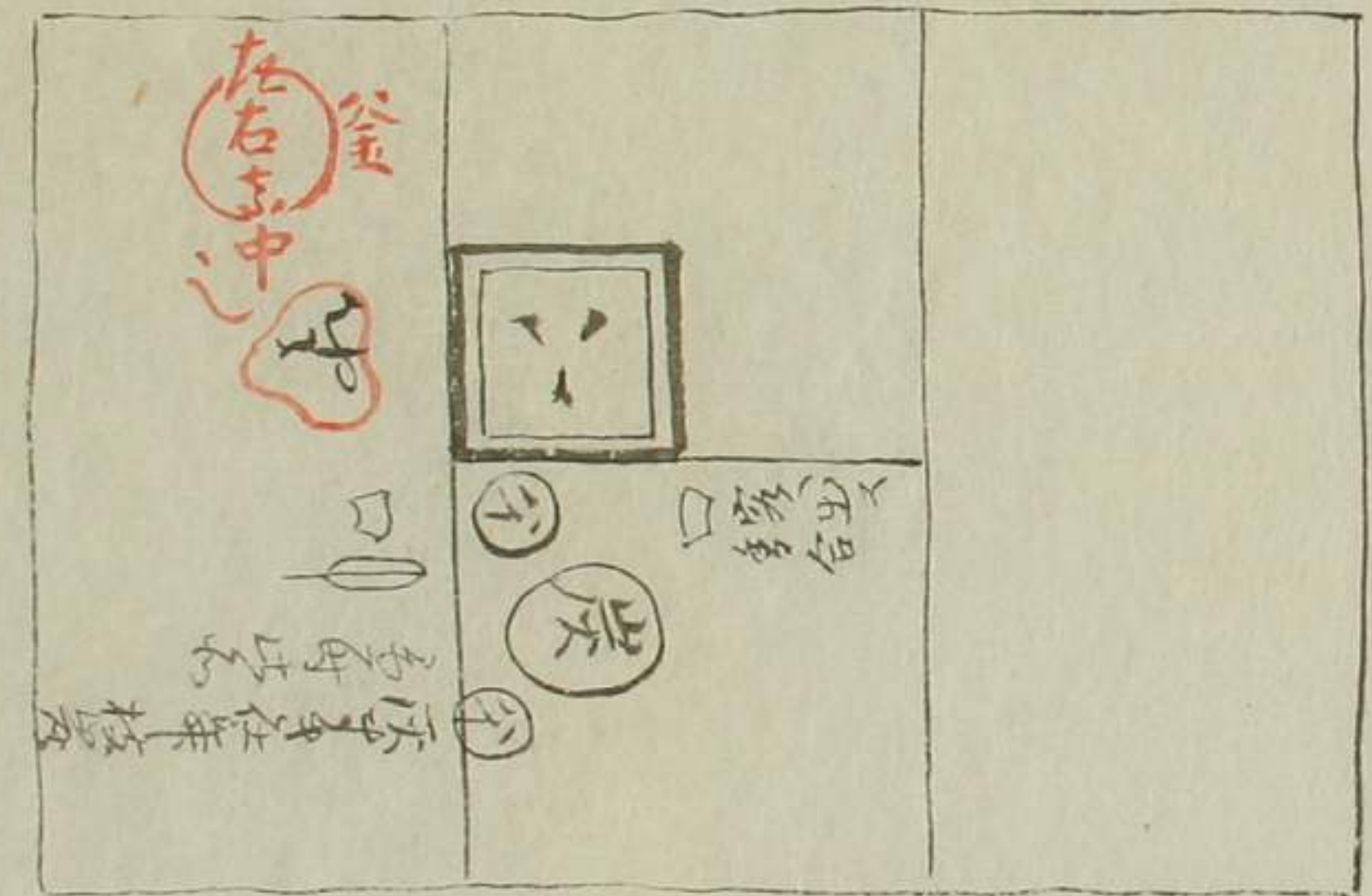
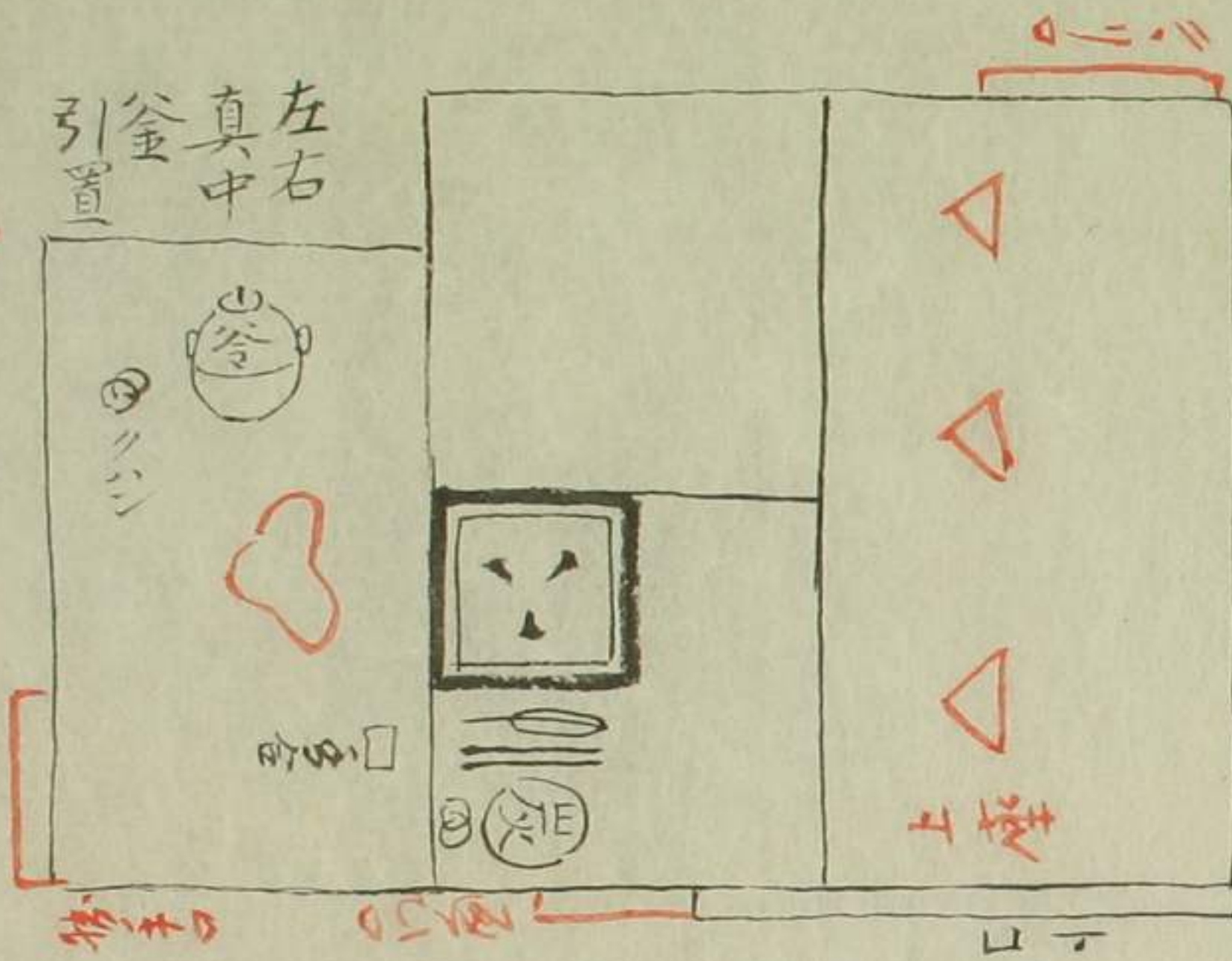




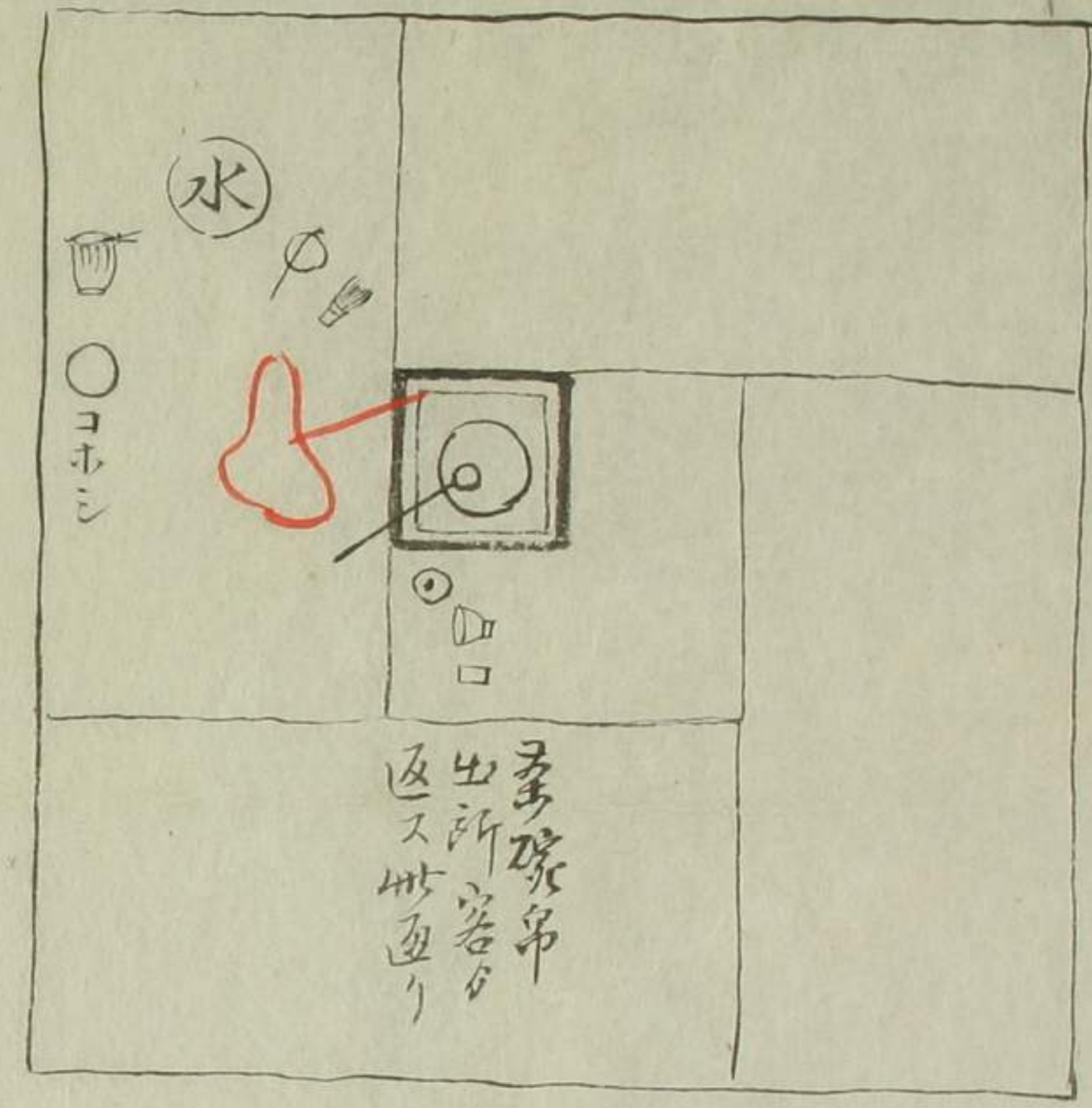
四五半茶合



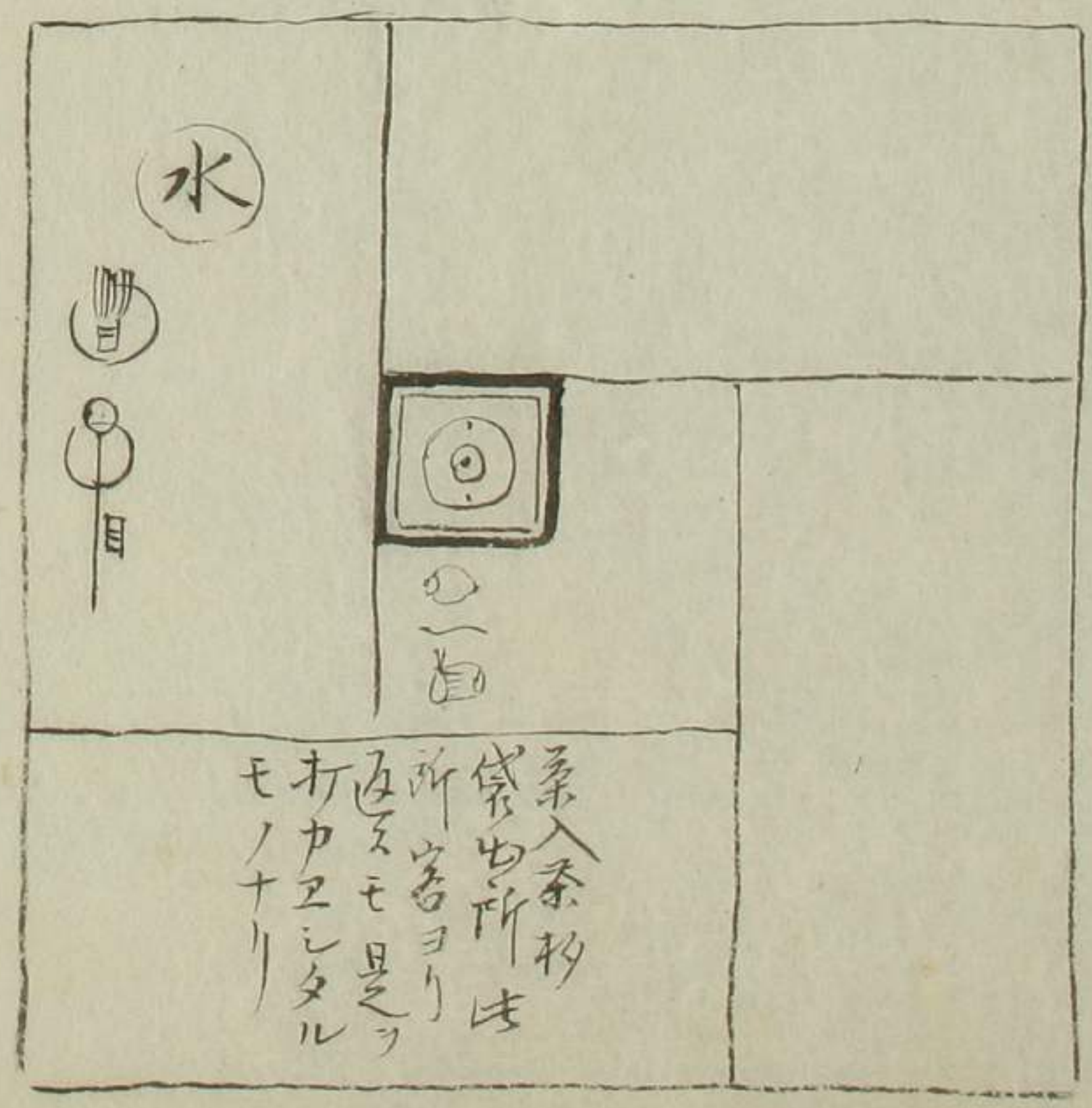
炭茶碗丁



目置合

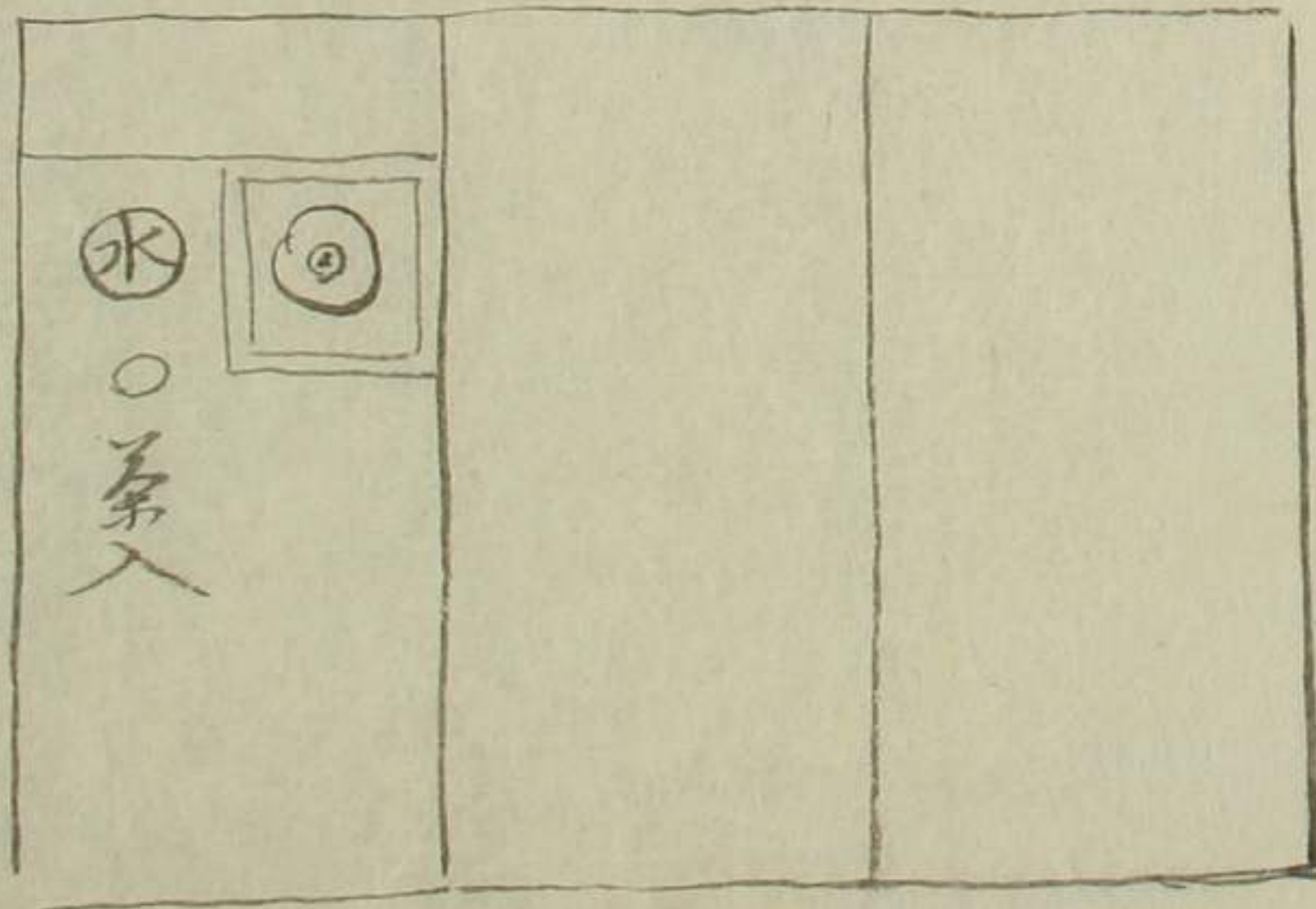
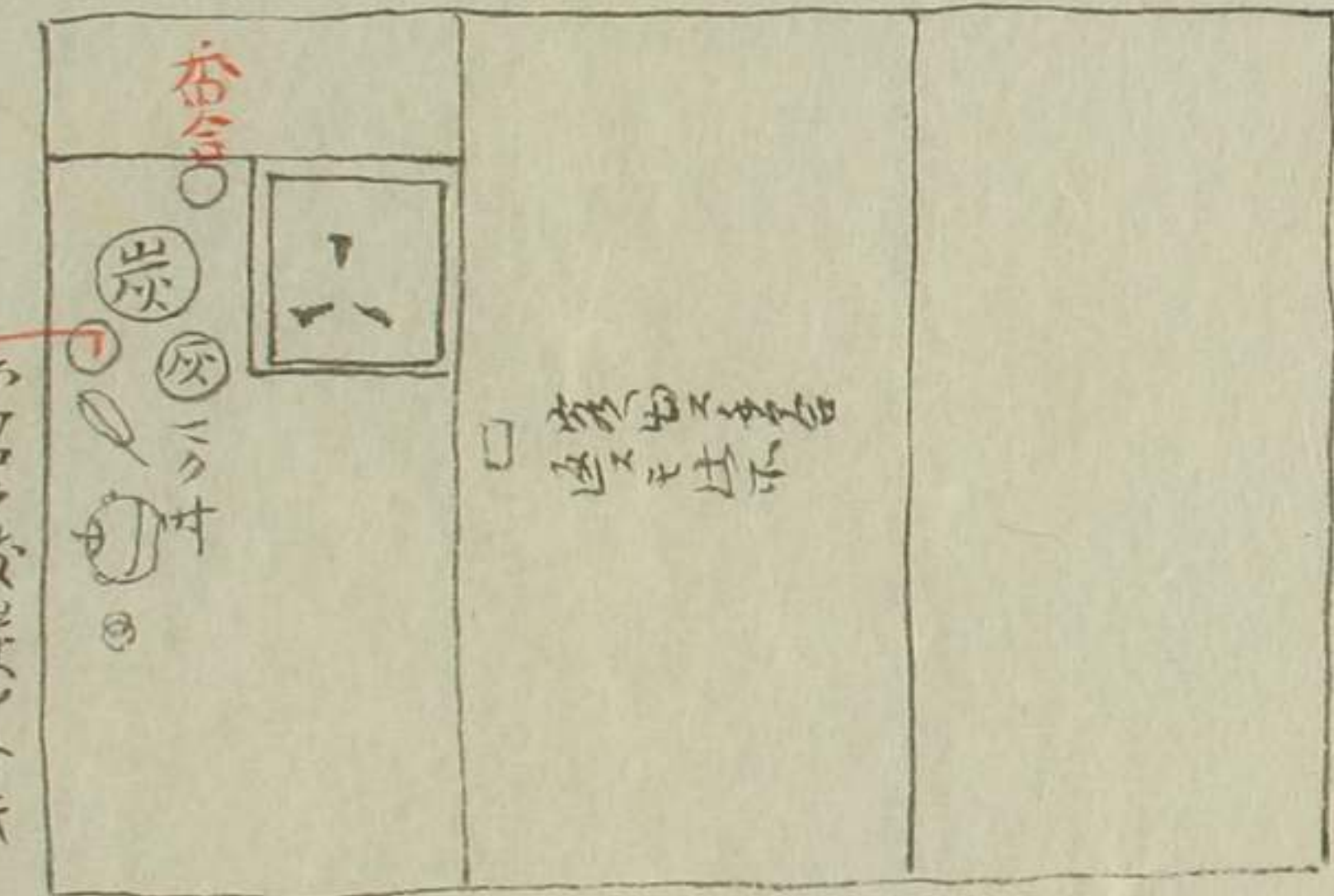
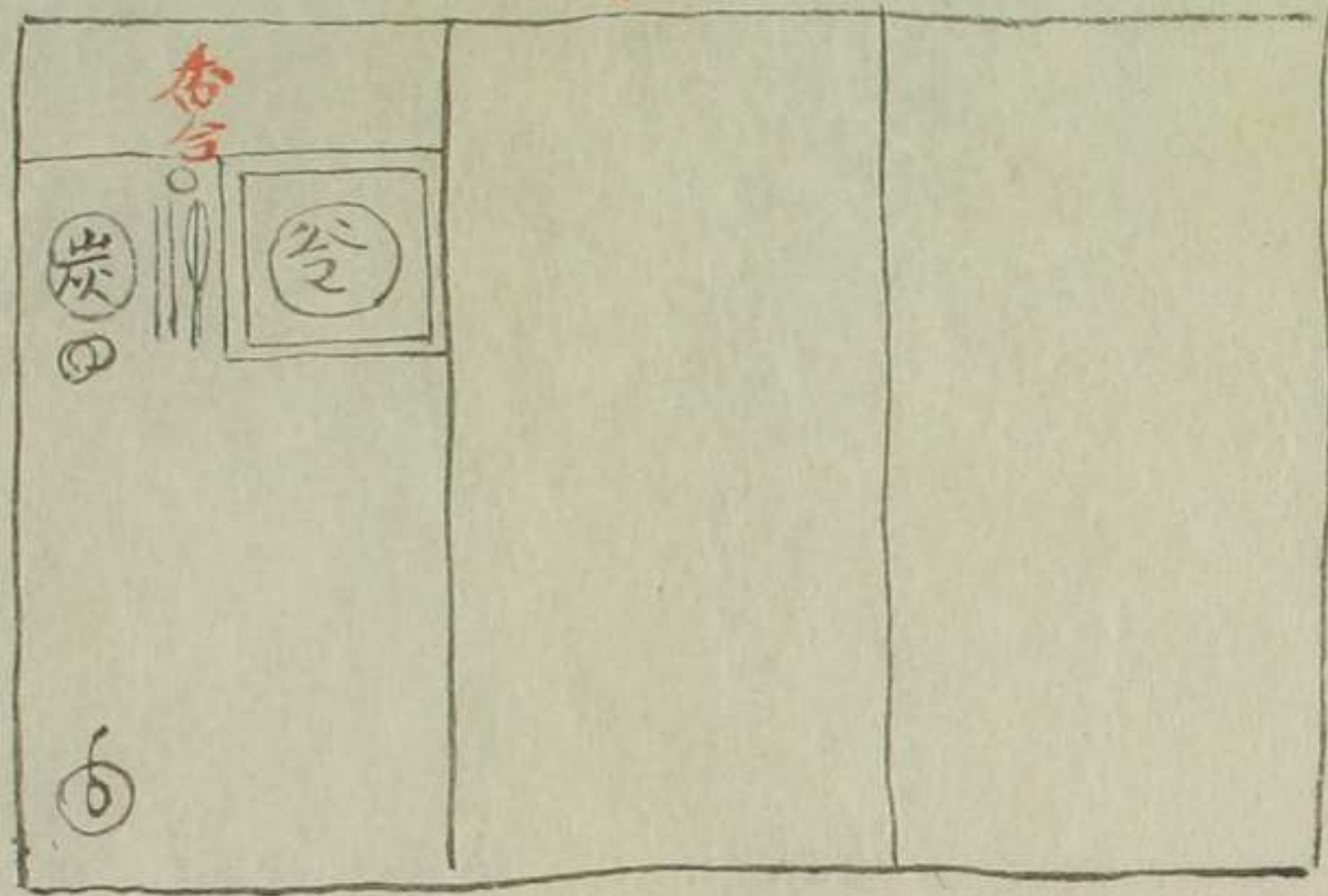


土所  
出所  
区

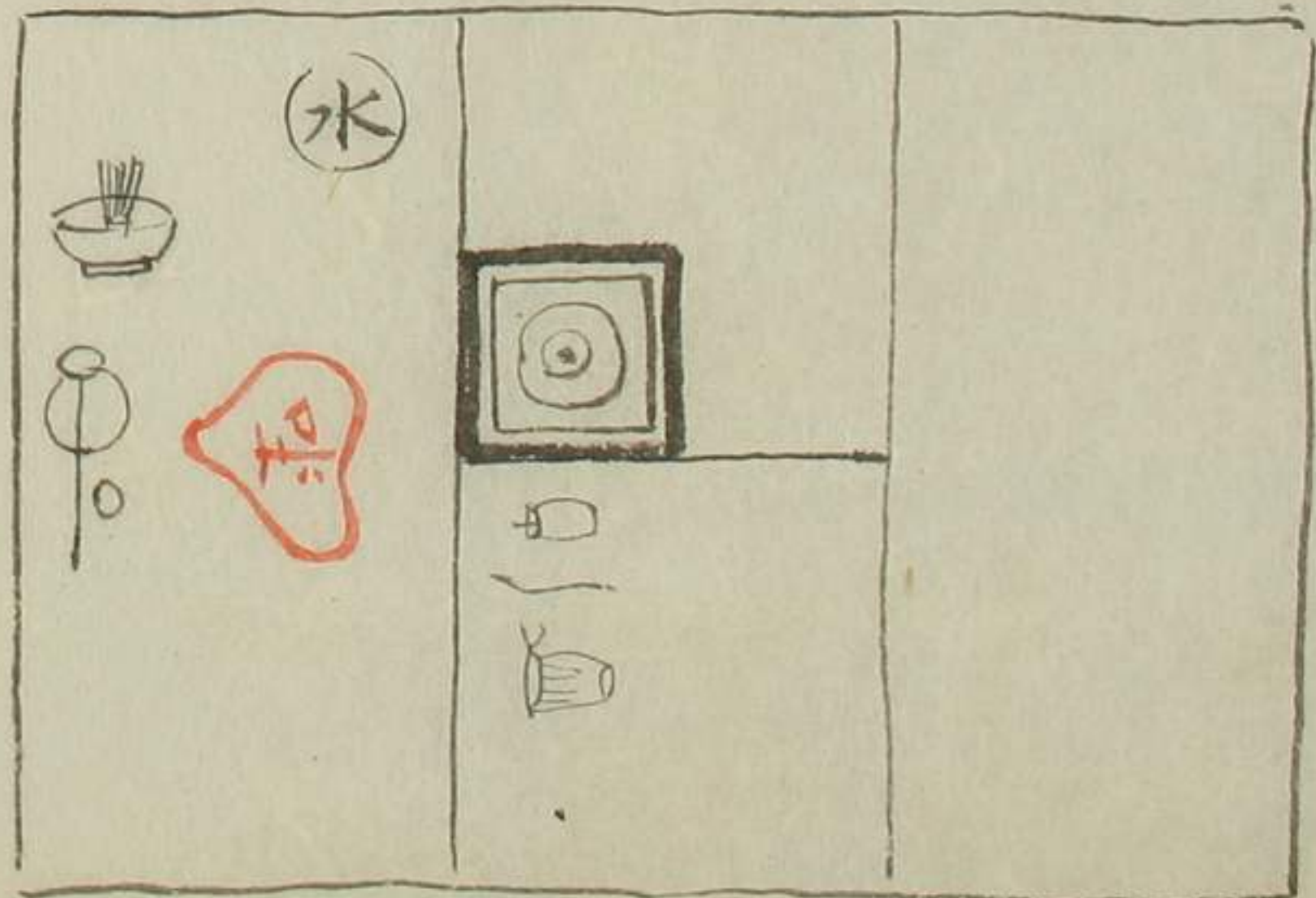
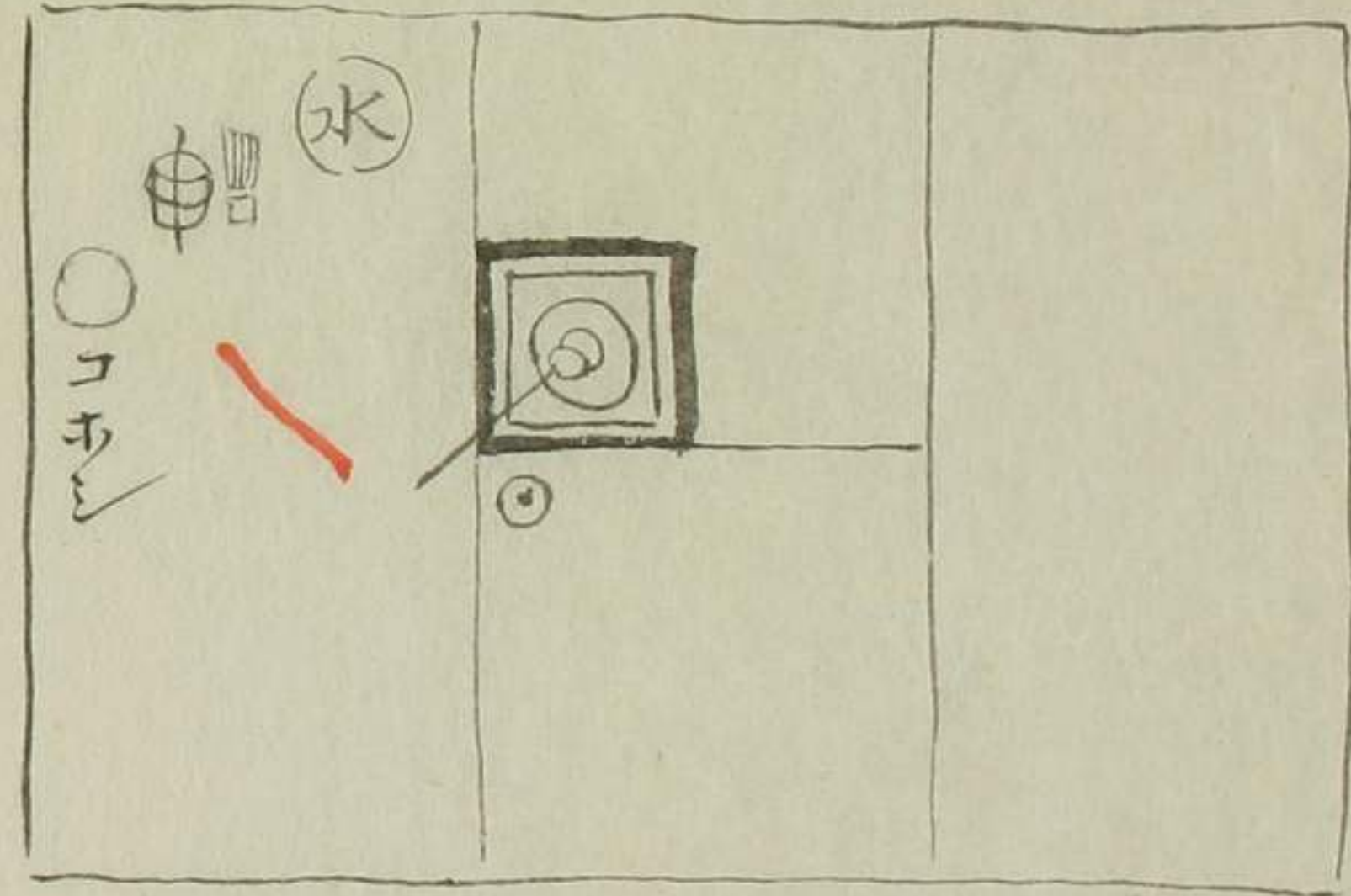
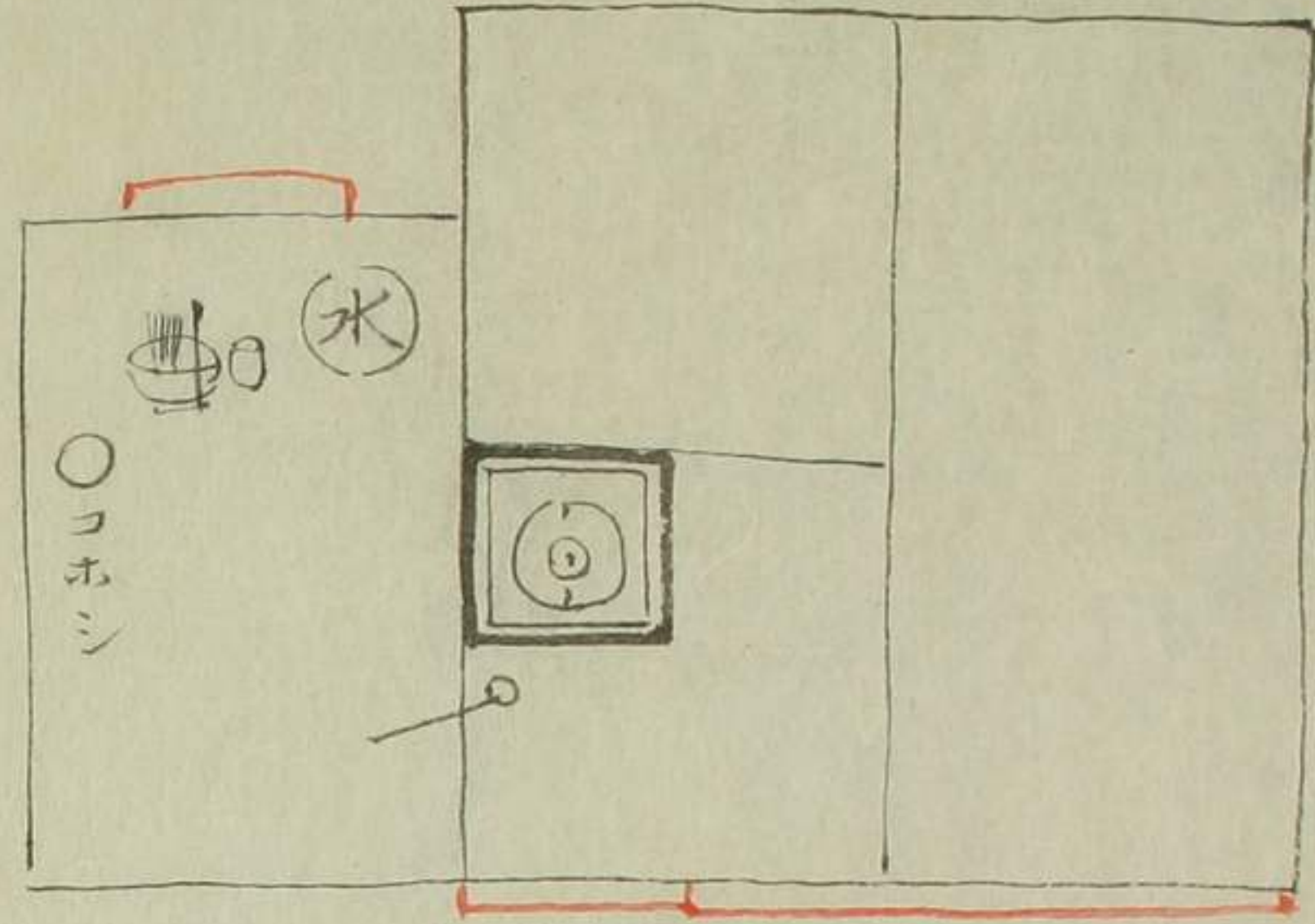


土所  
出所  
区

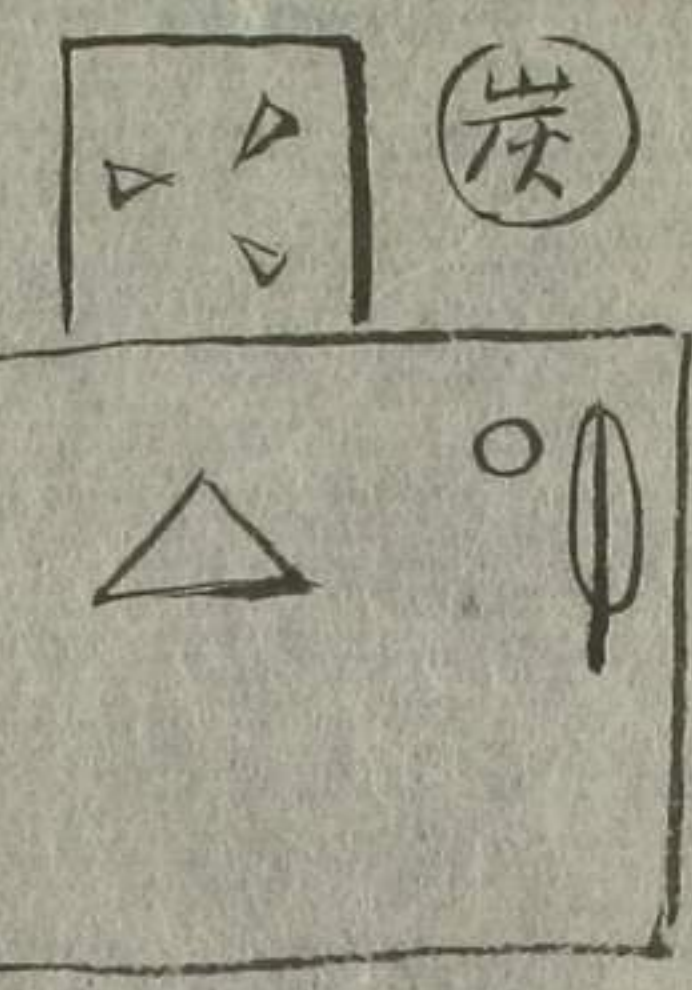
△床ノ  
有方  
上座  
を  
し



向切置合

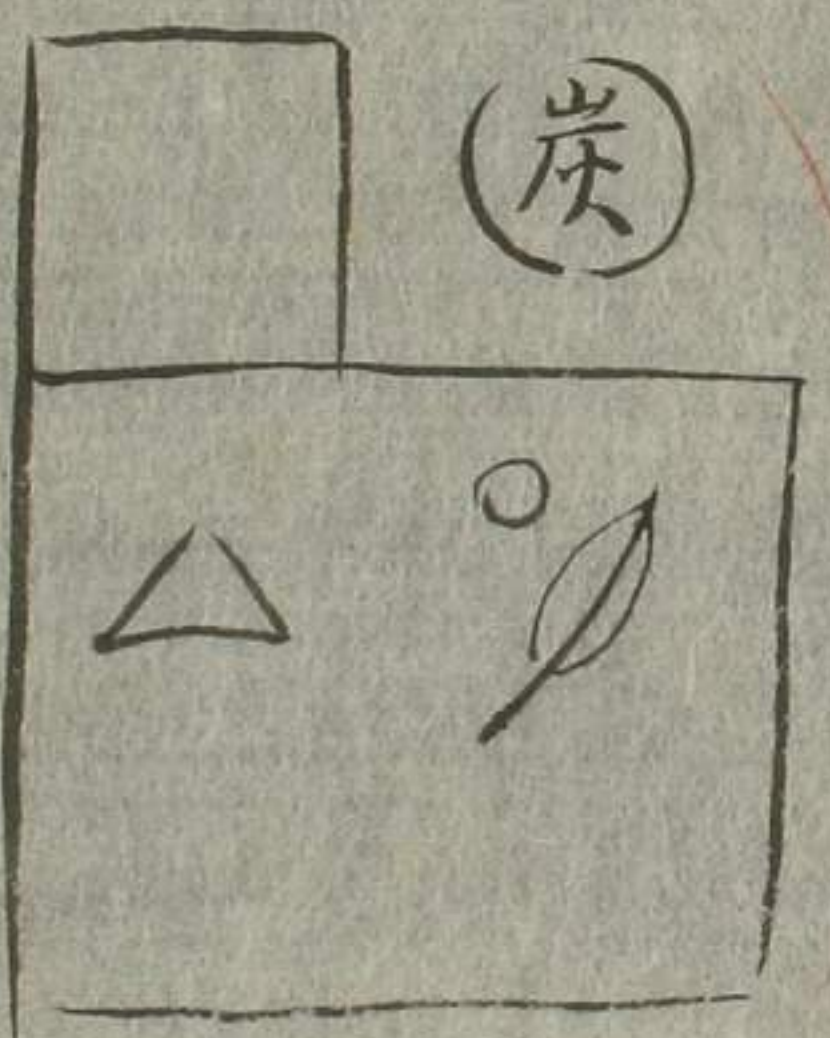


小竹交馬系大目〜村炭〜印名  
 炭汁〜高〜を羽糸布五重糸右〜



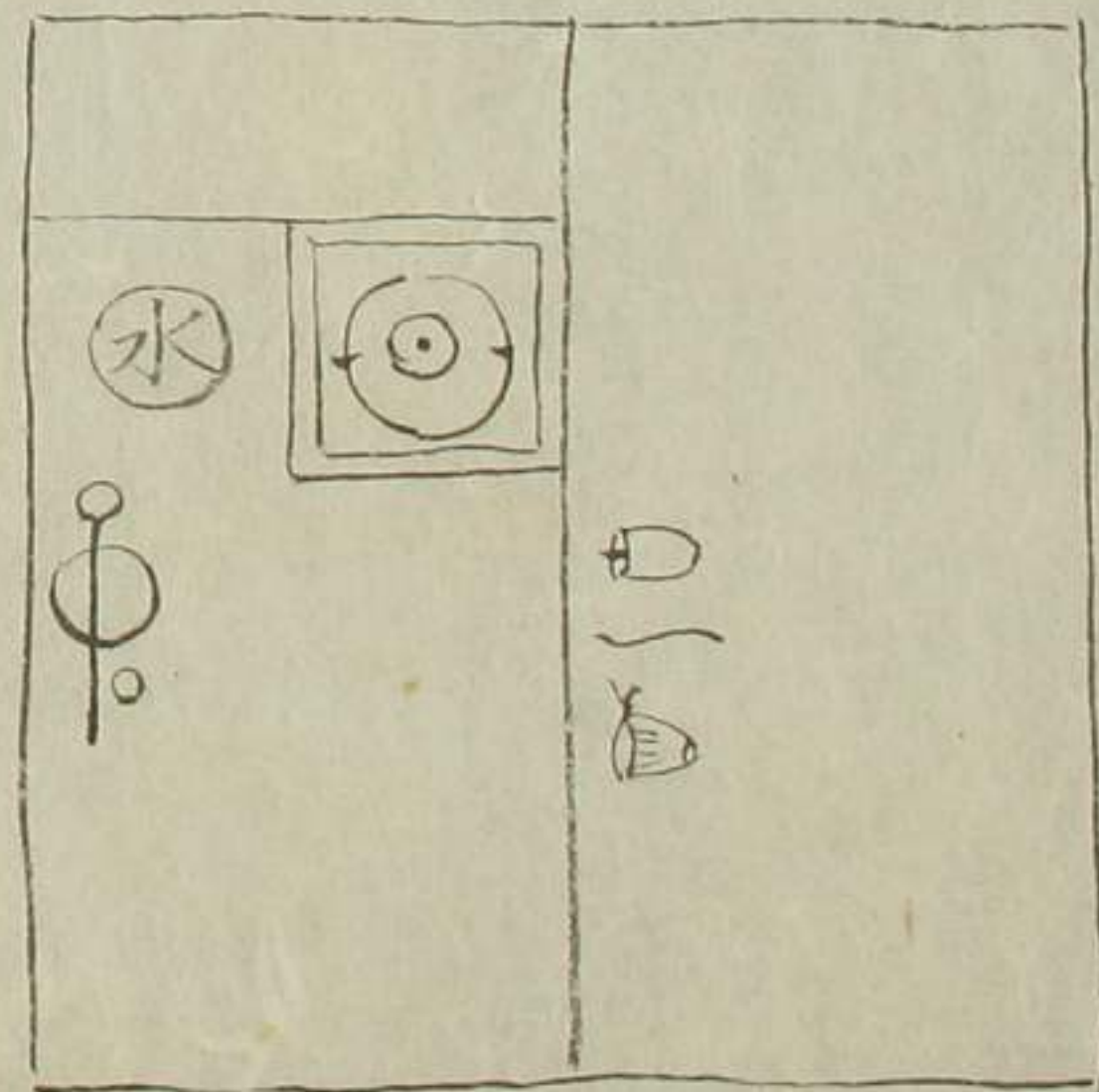
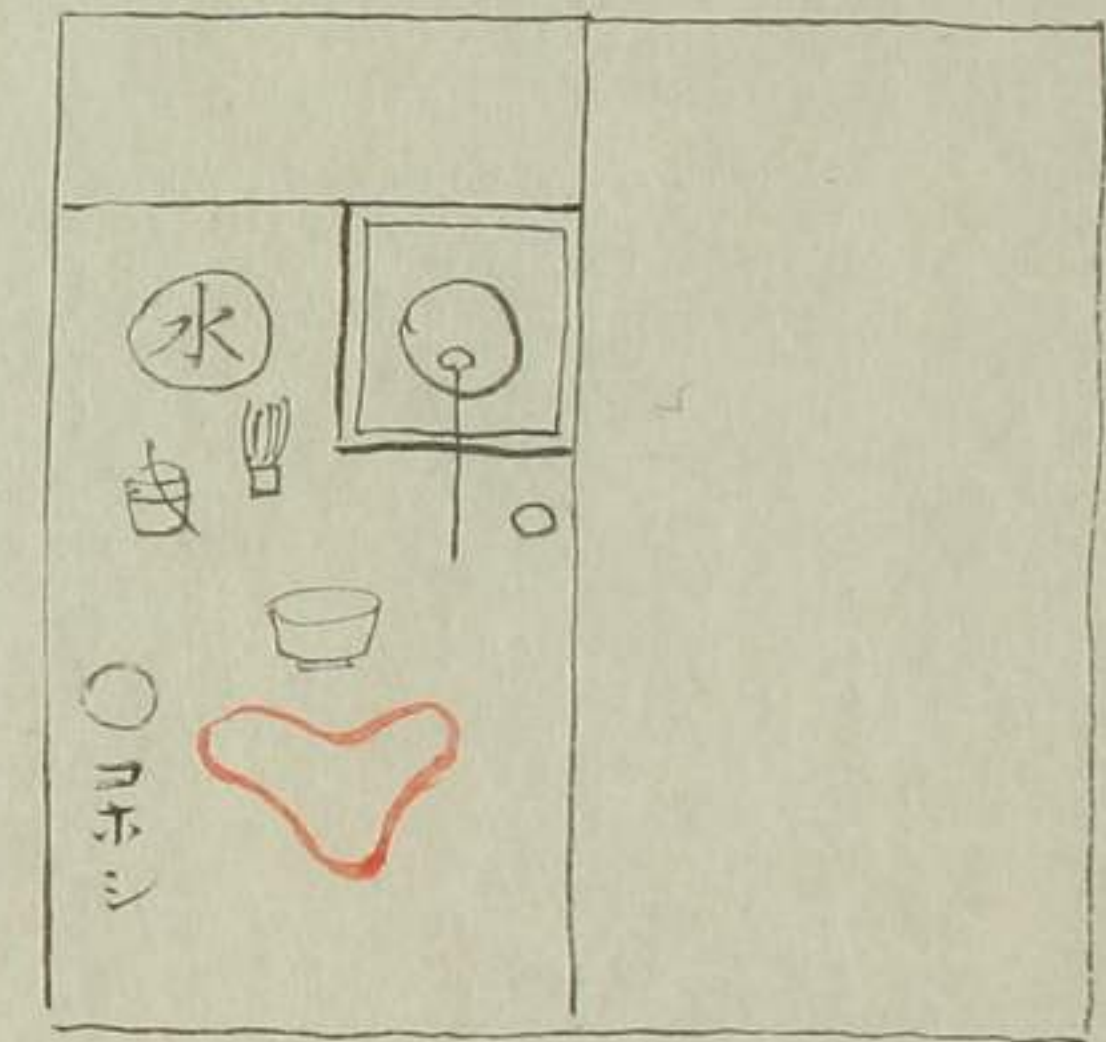
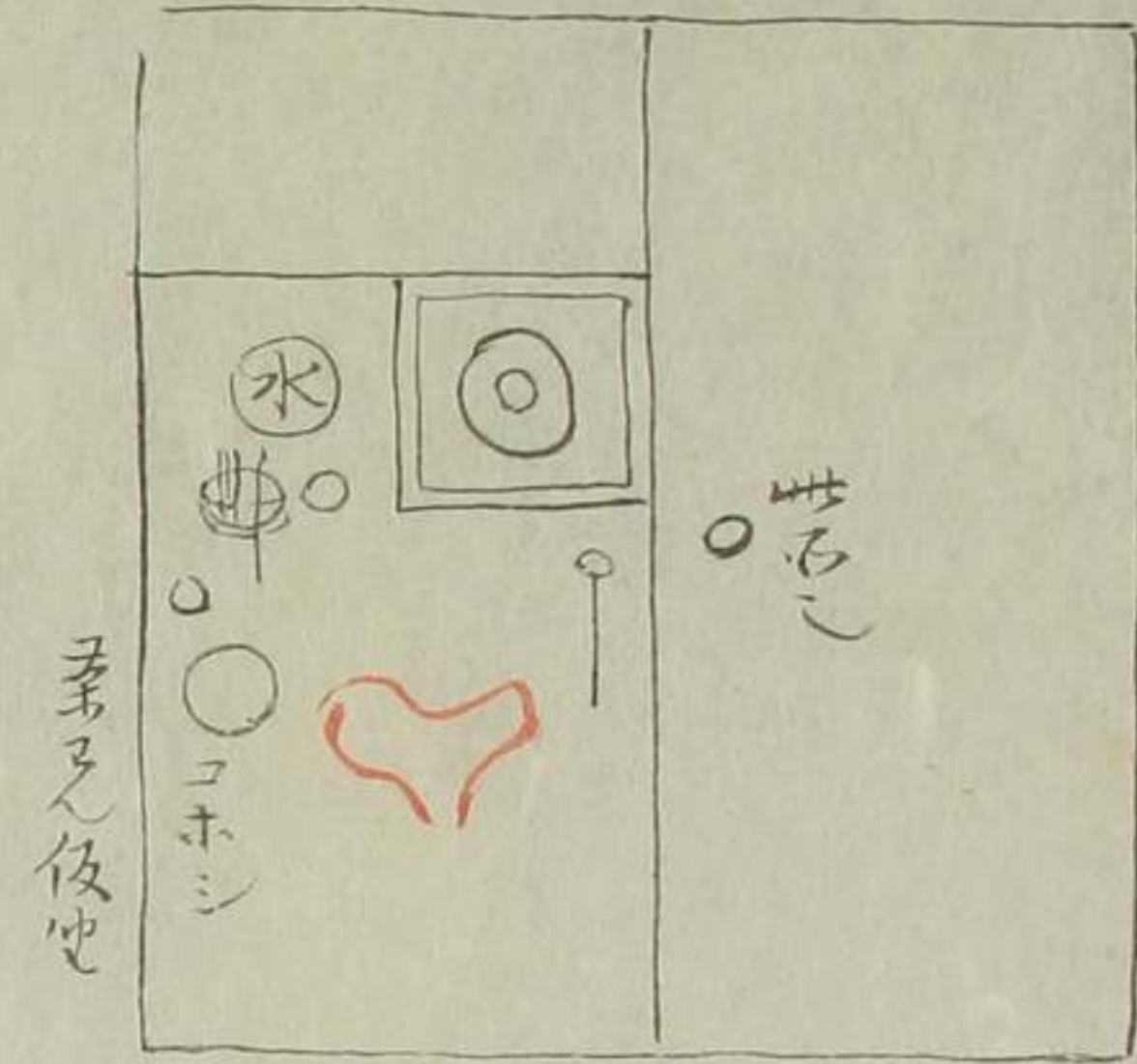
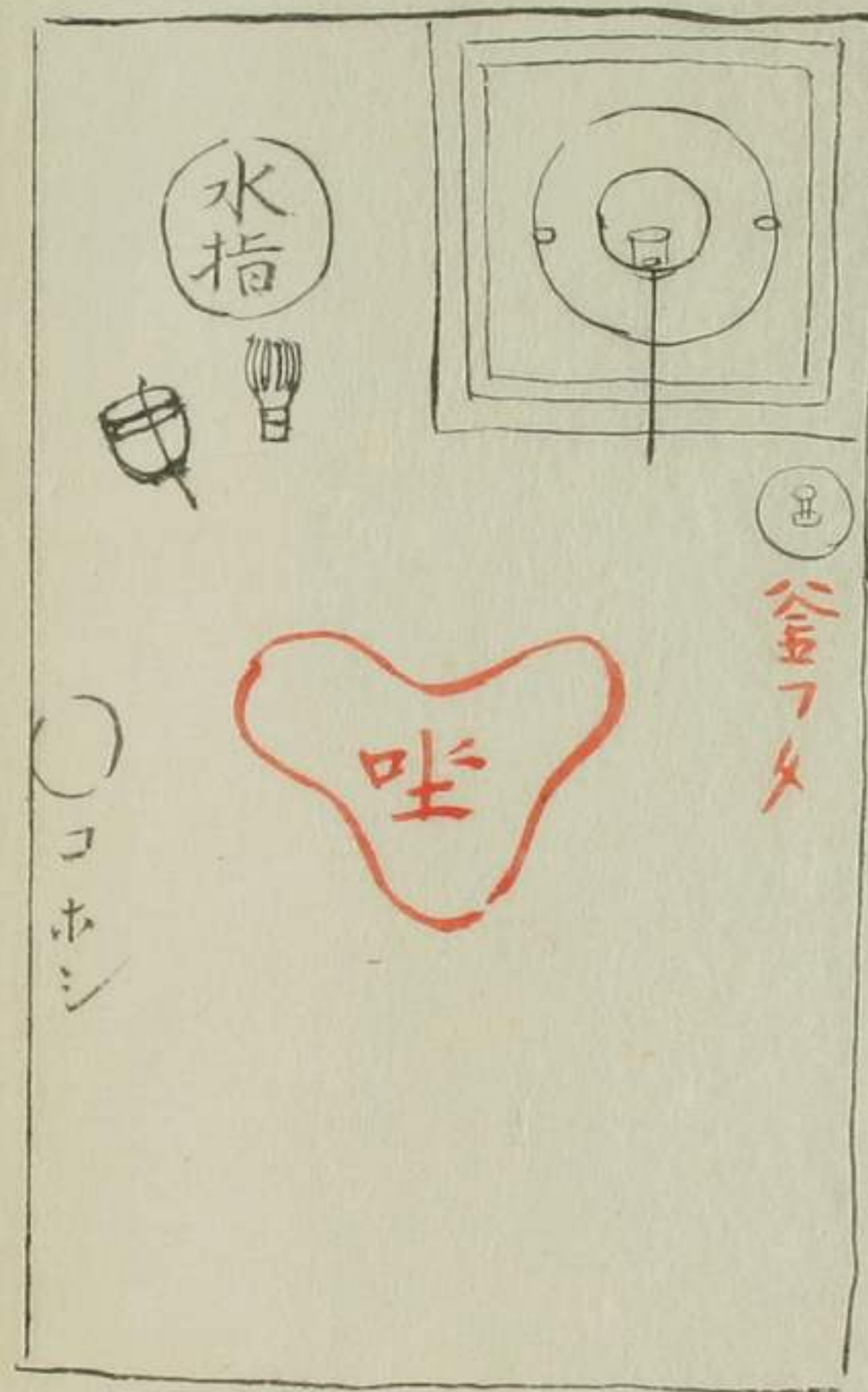
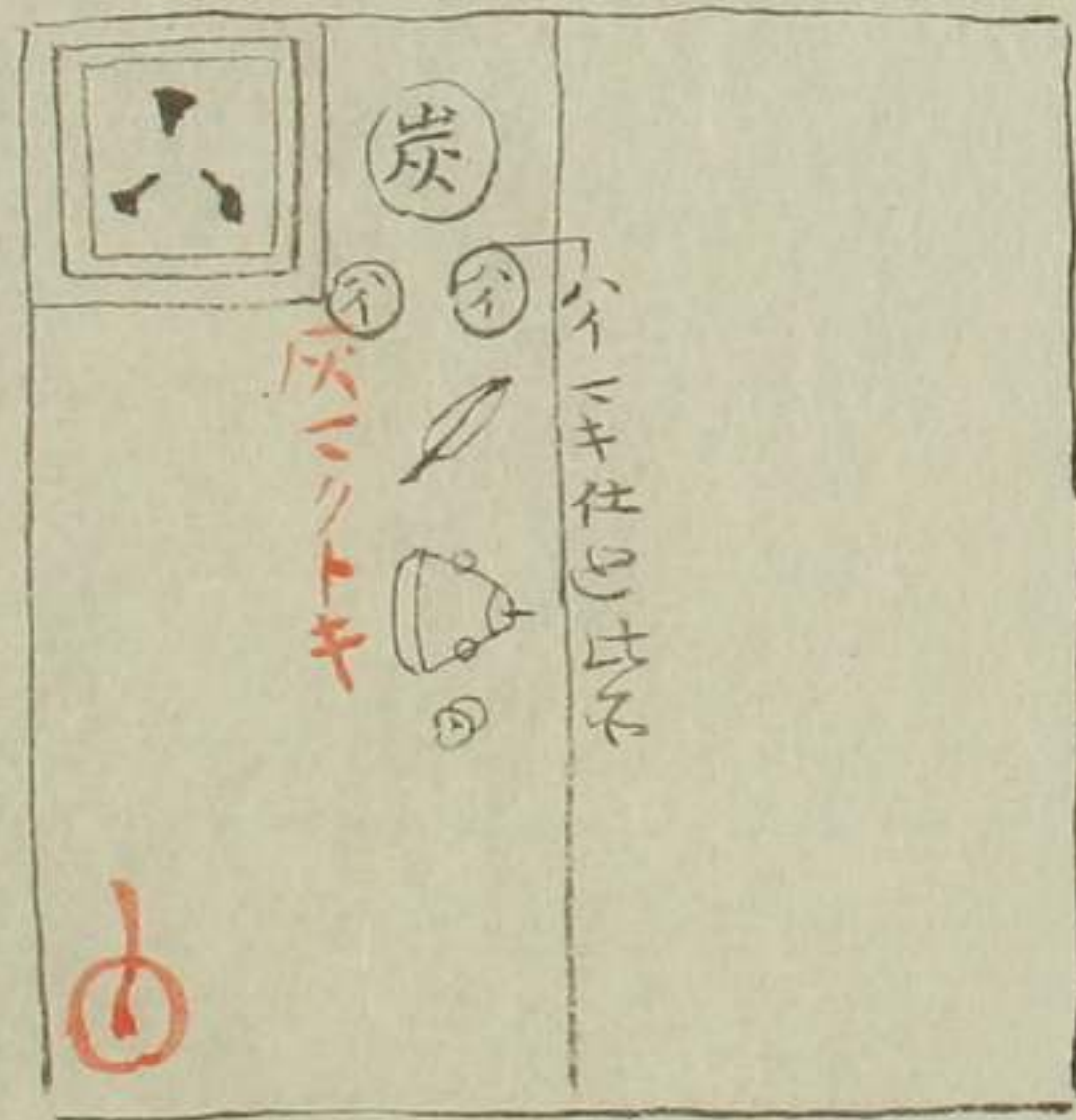
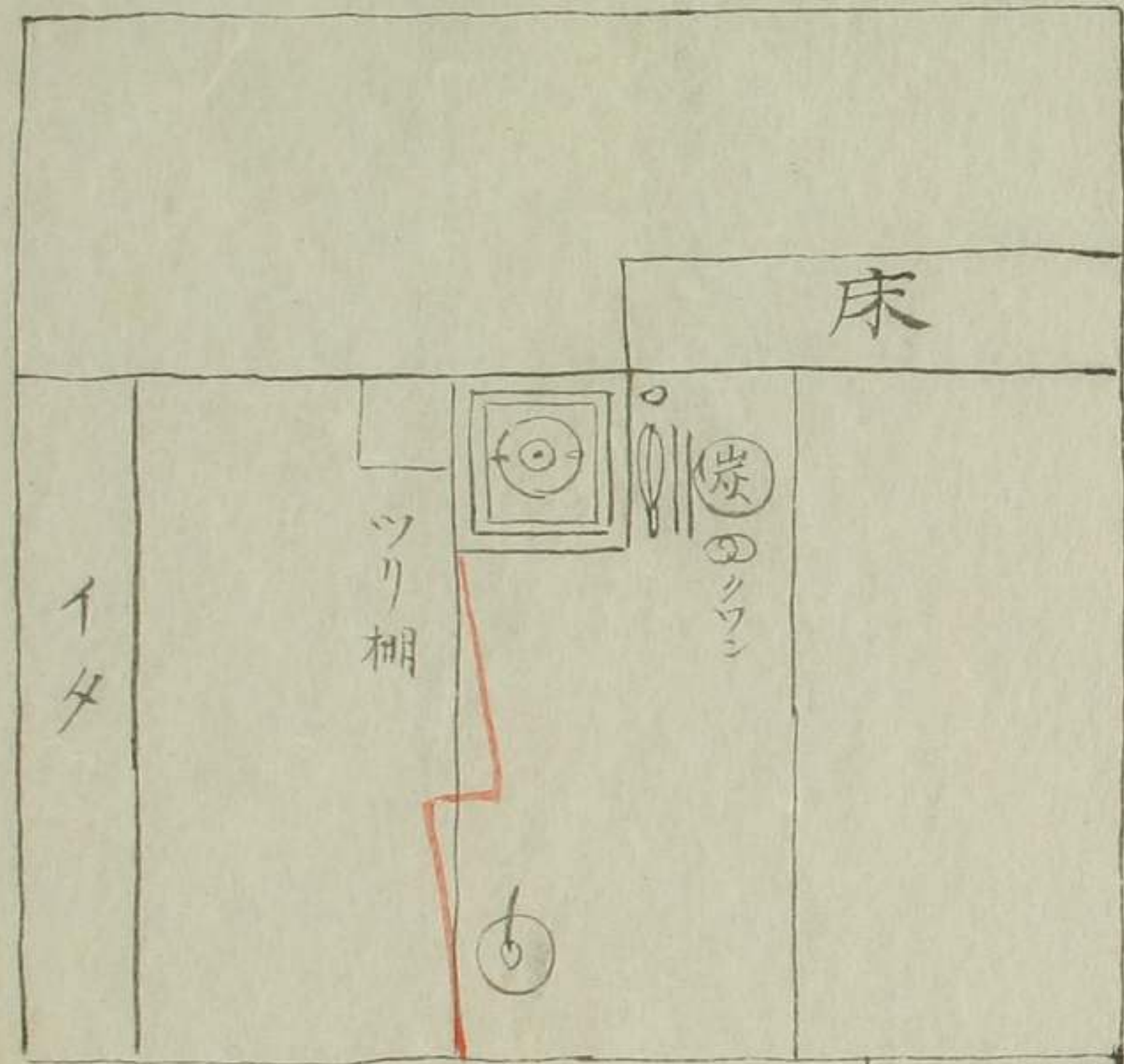
但柳よ大目長〜印  
 印名も大目長〜印  
 子〜

大目柳  
 柳の



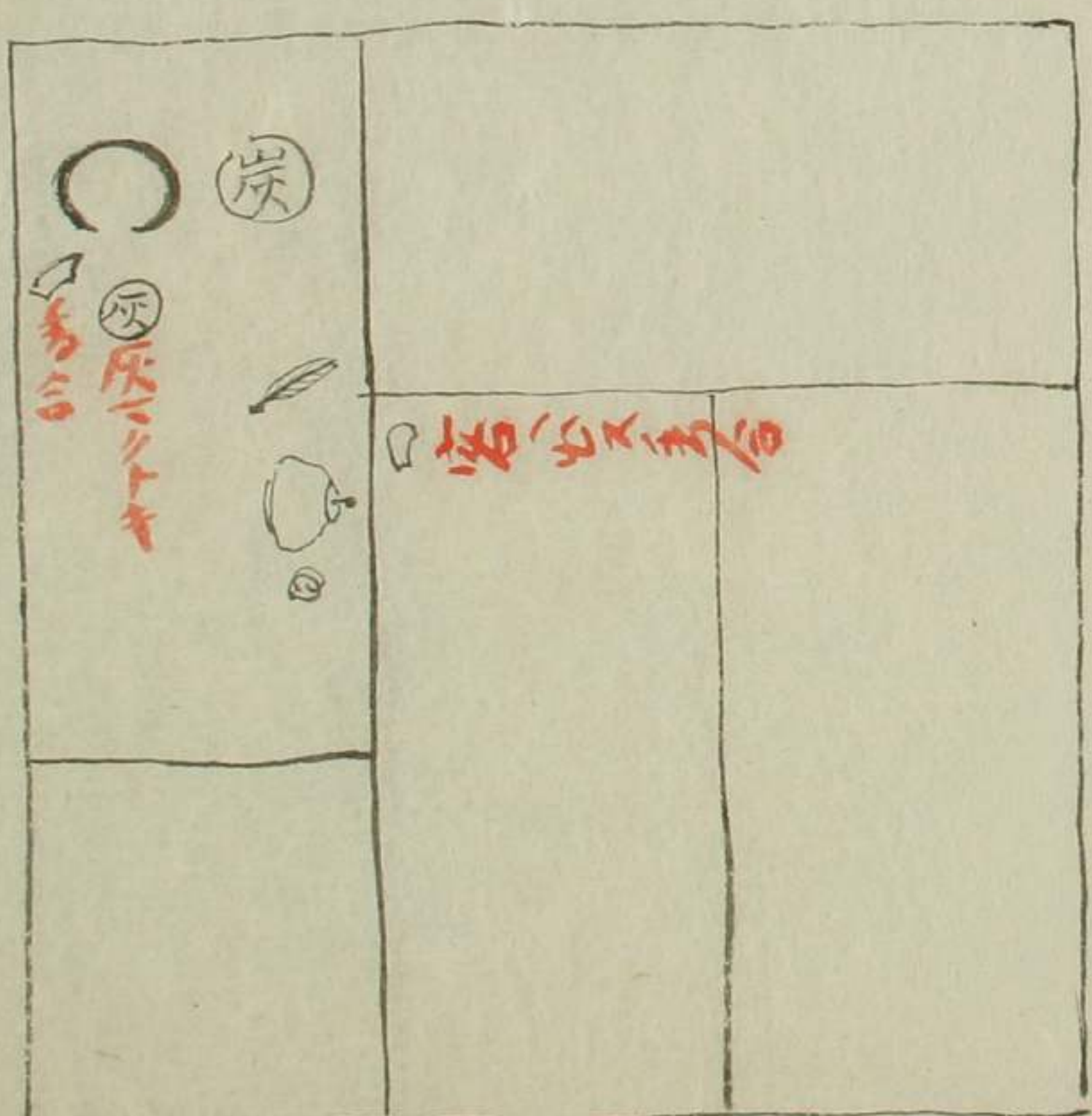
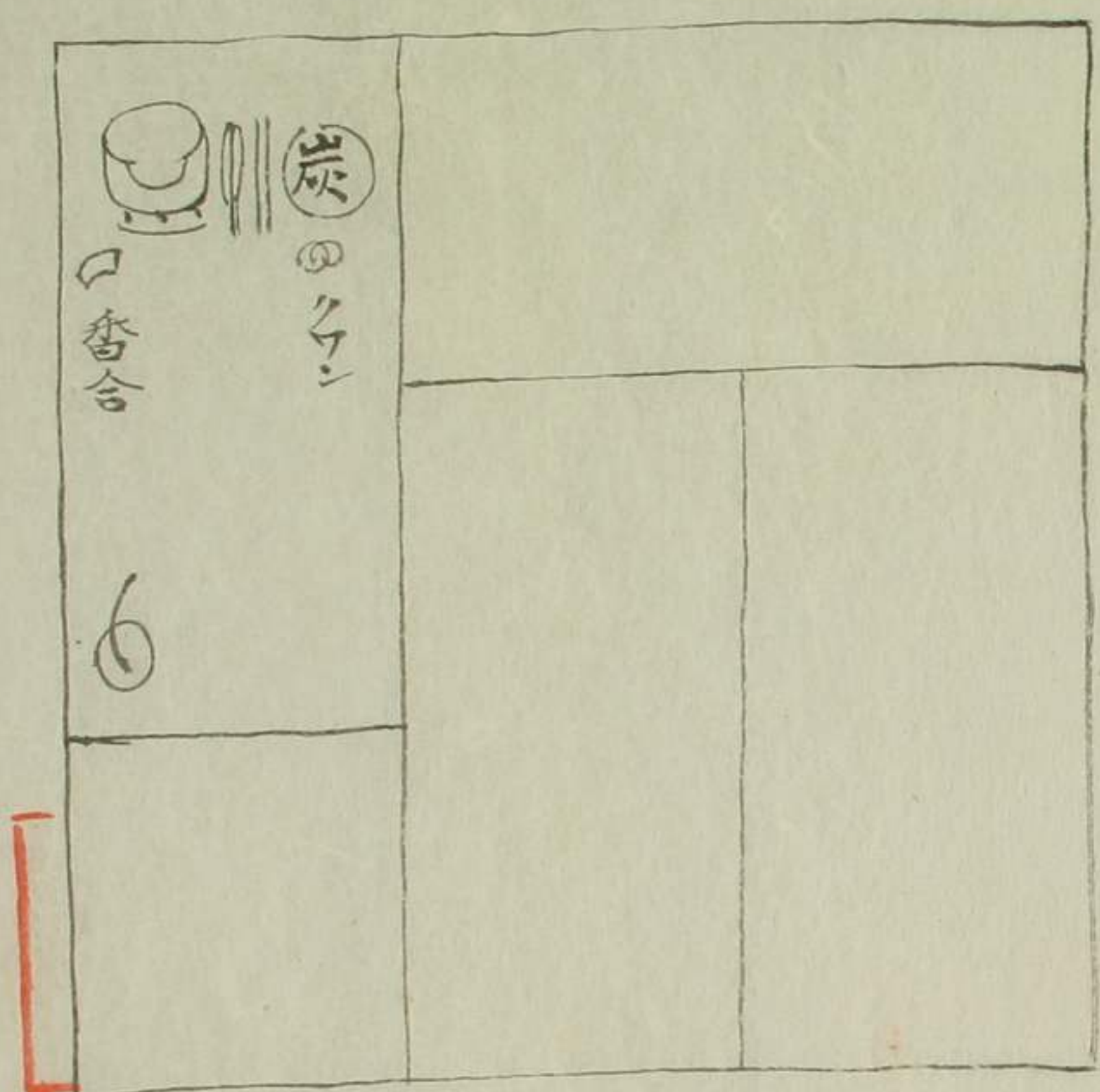
柳よ  
 大目長〜

妙喜庵角爐

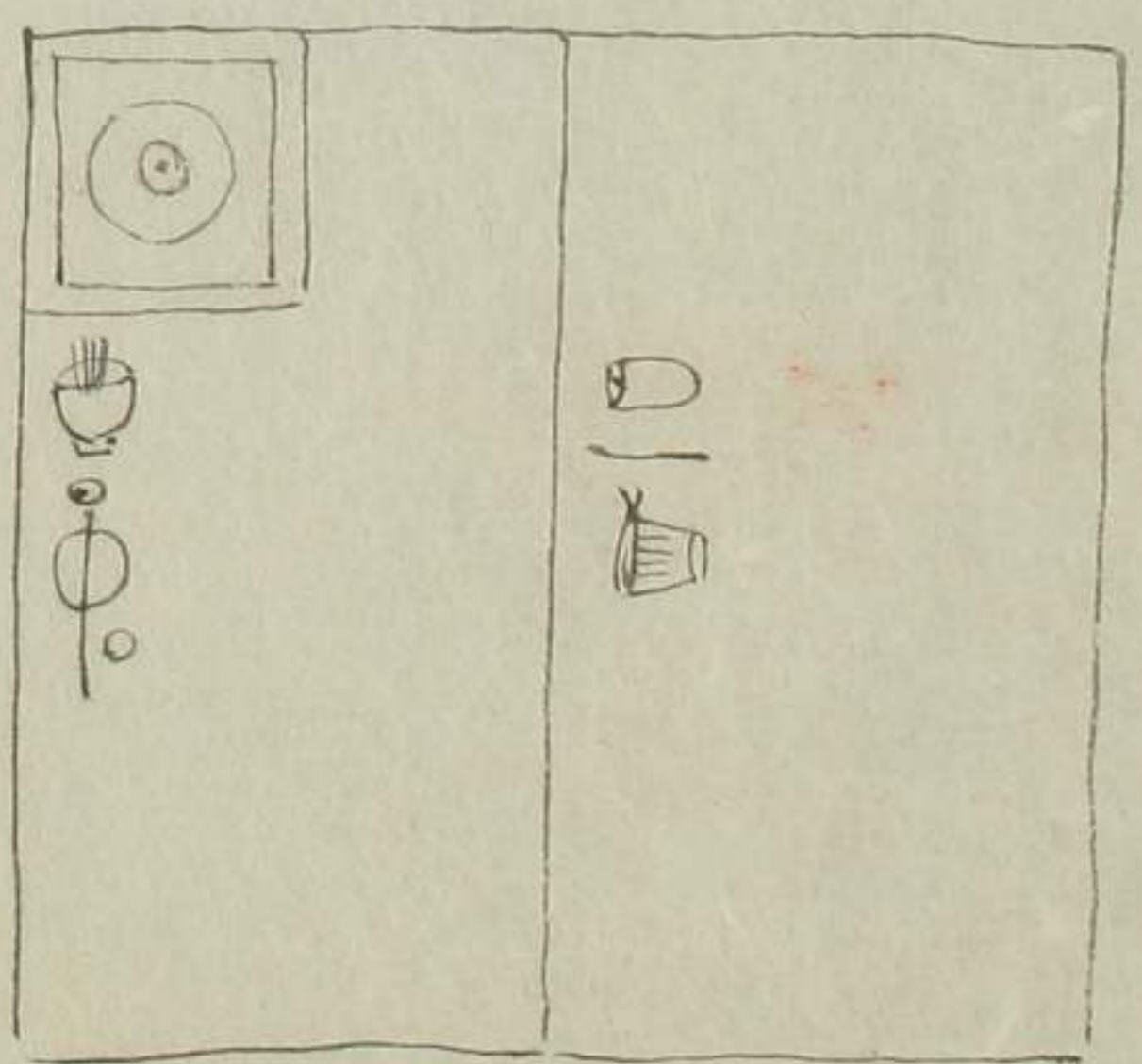
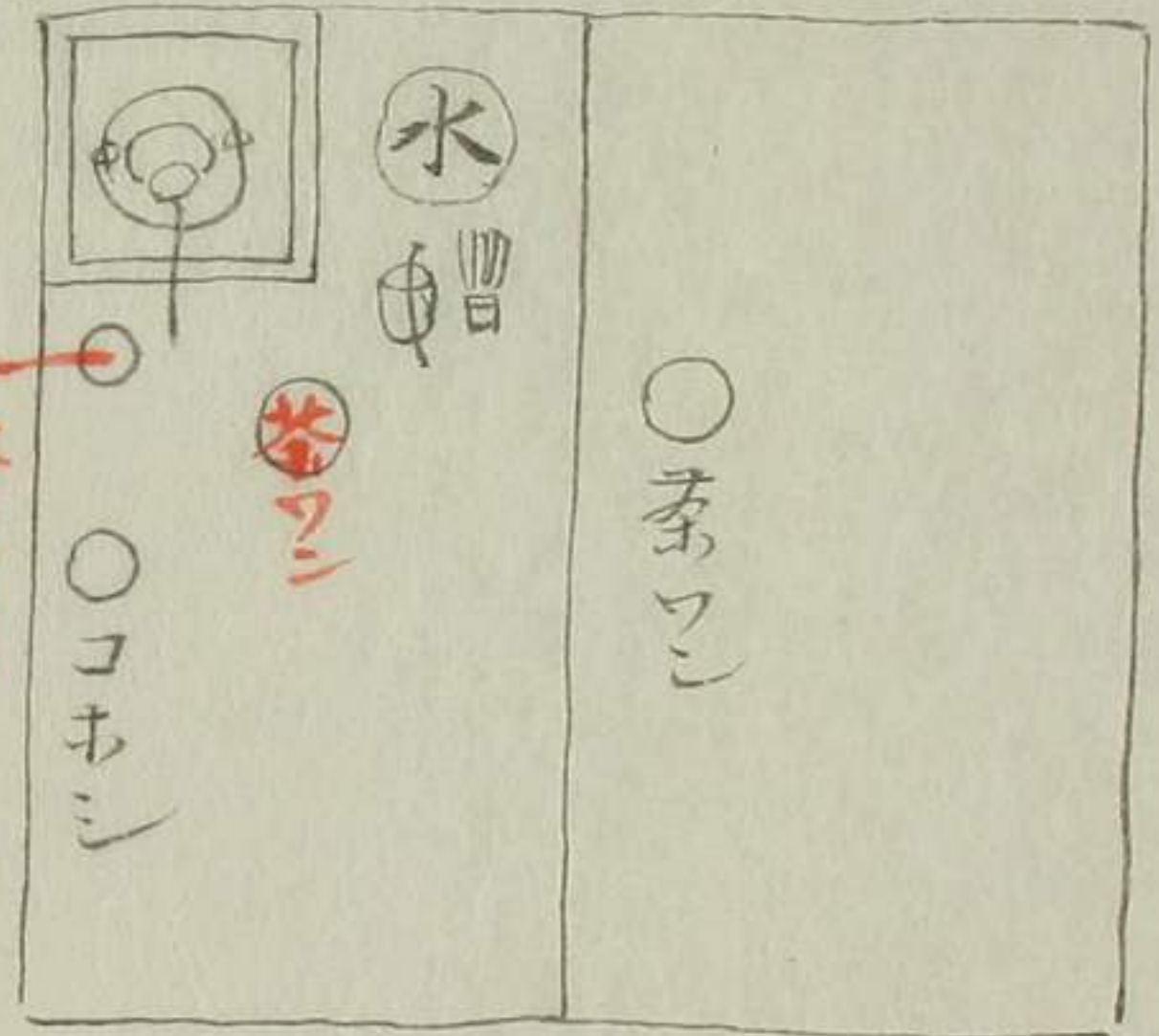
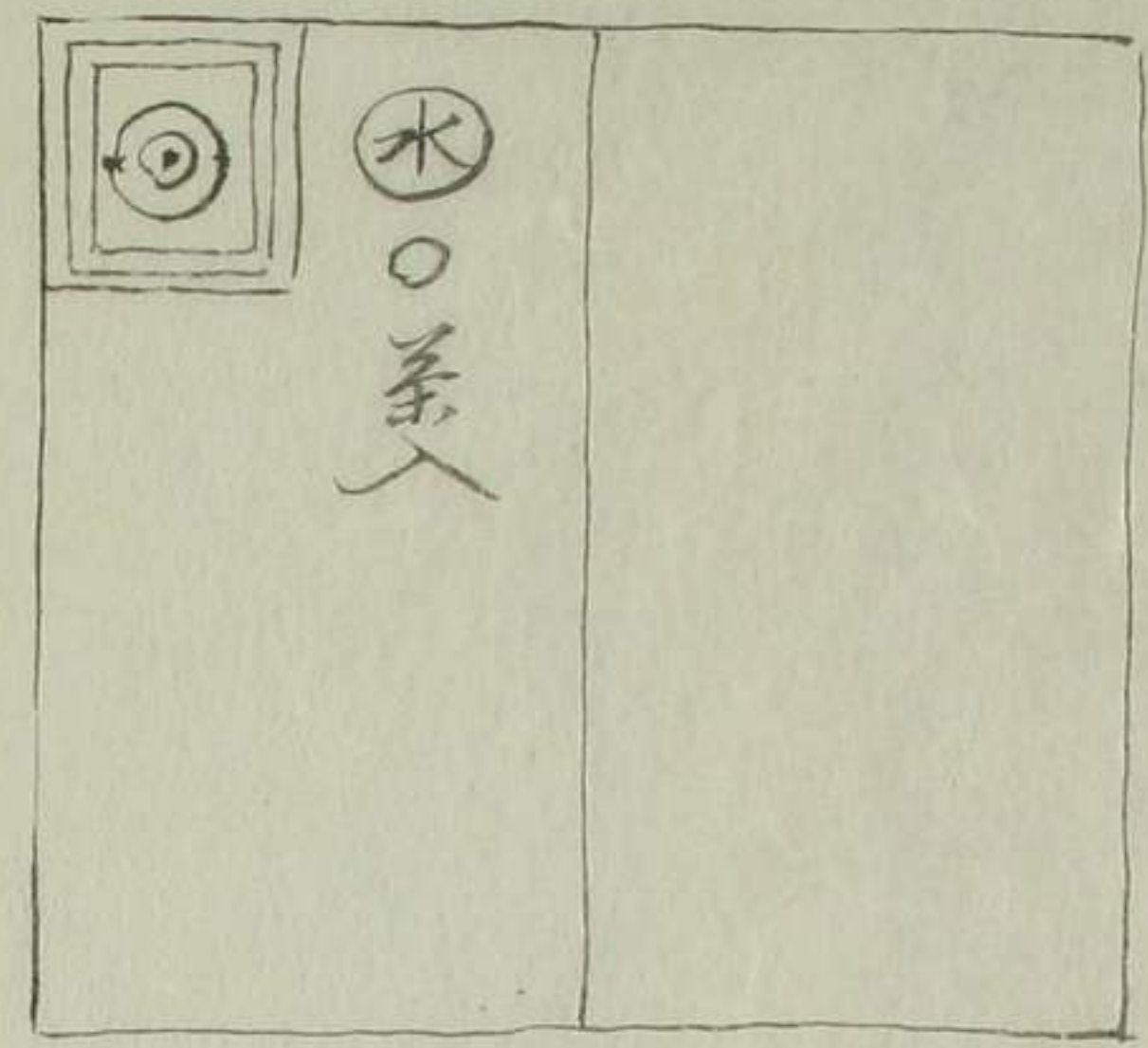


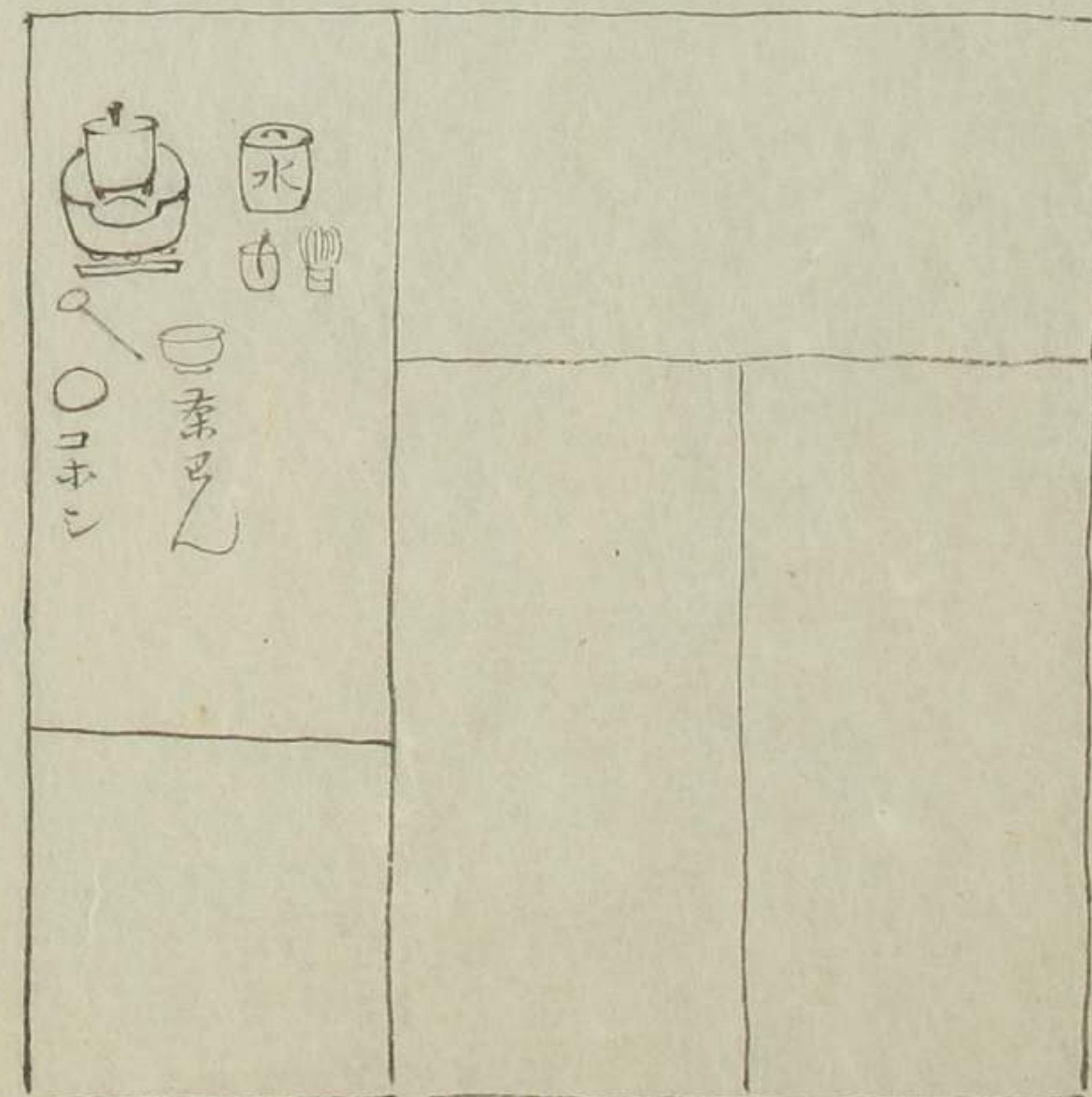
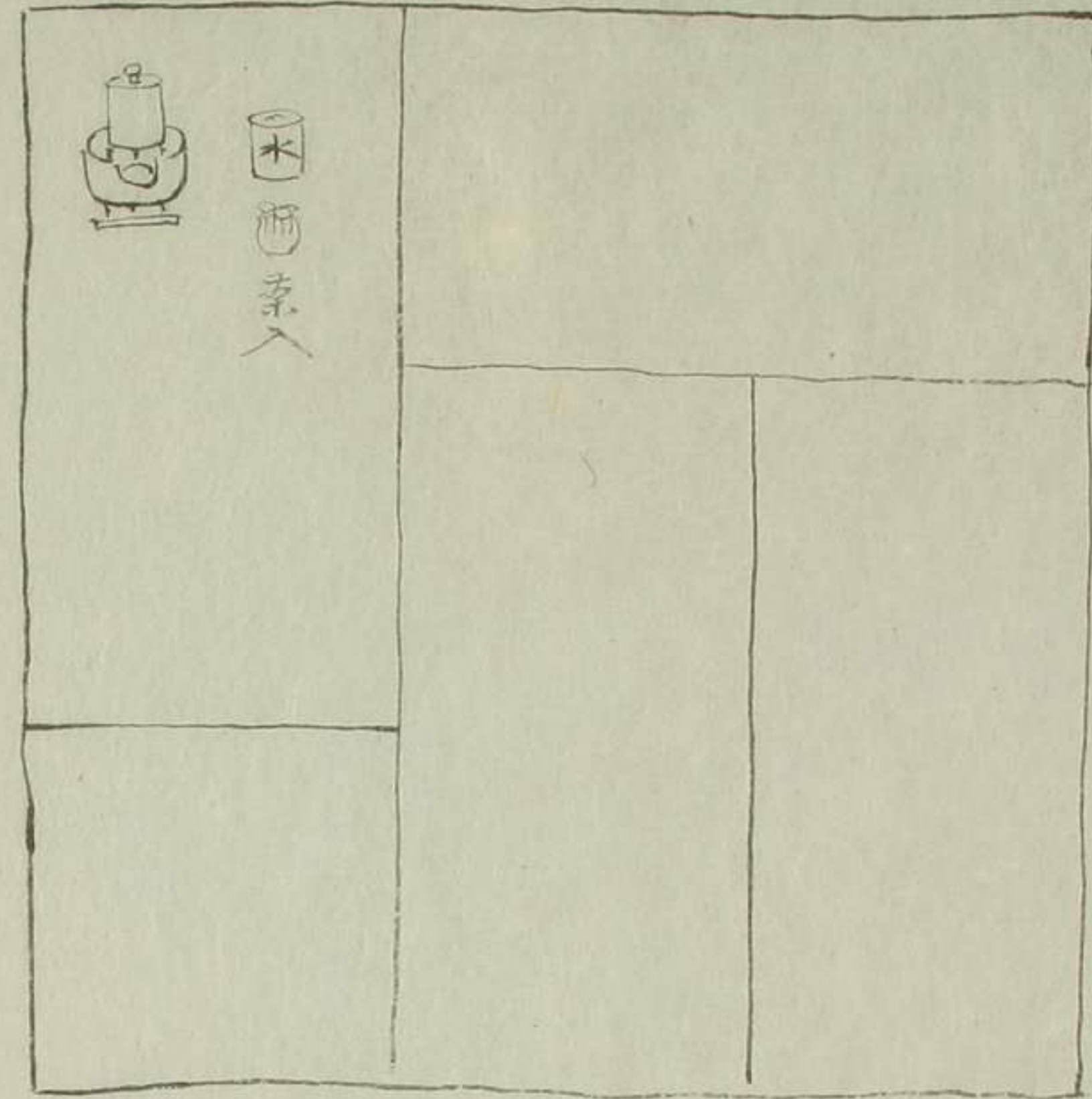
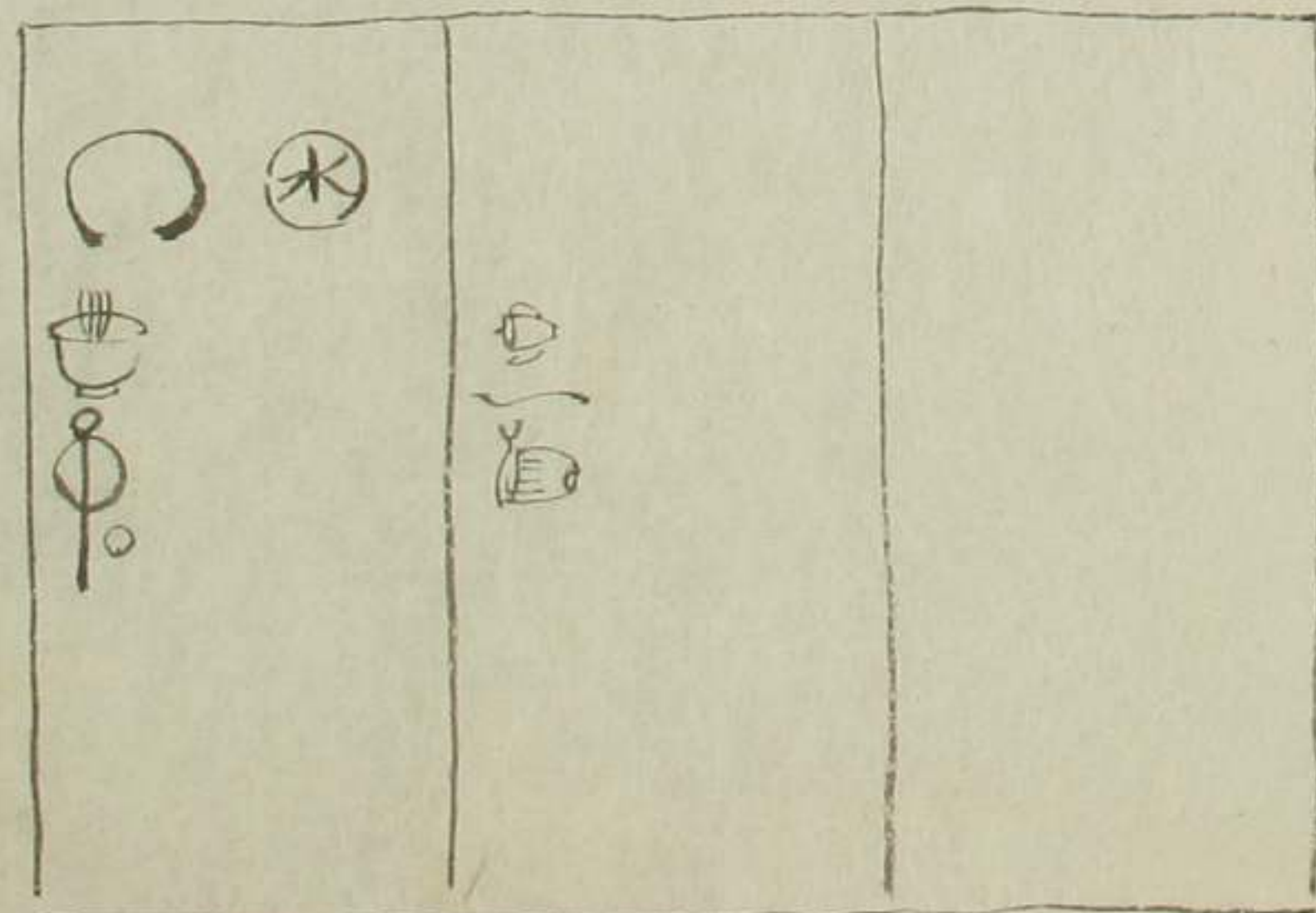
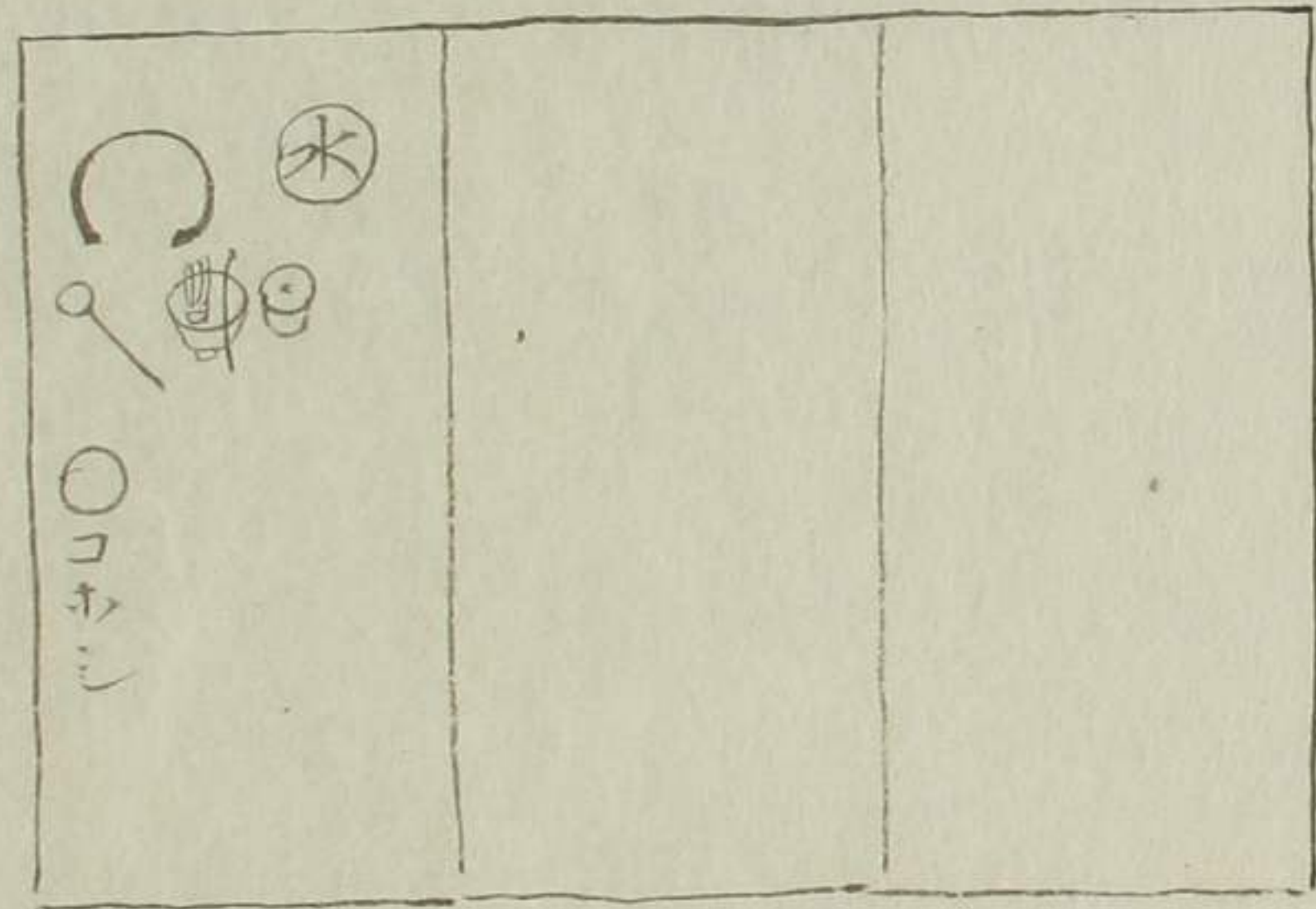
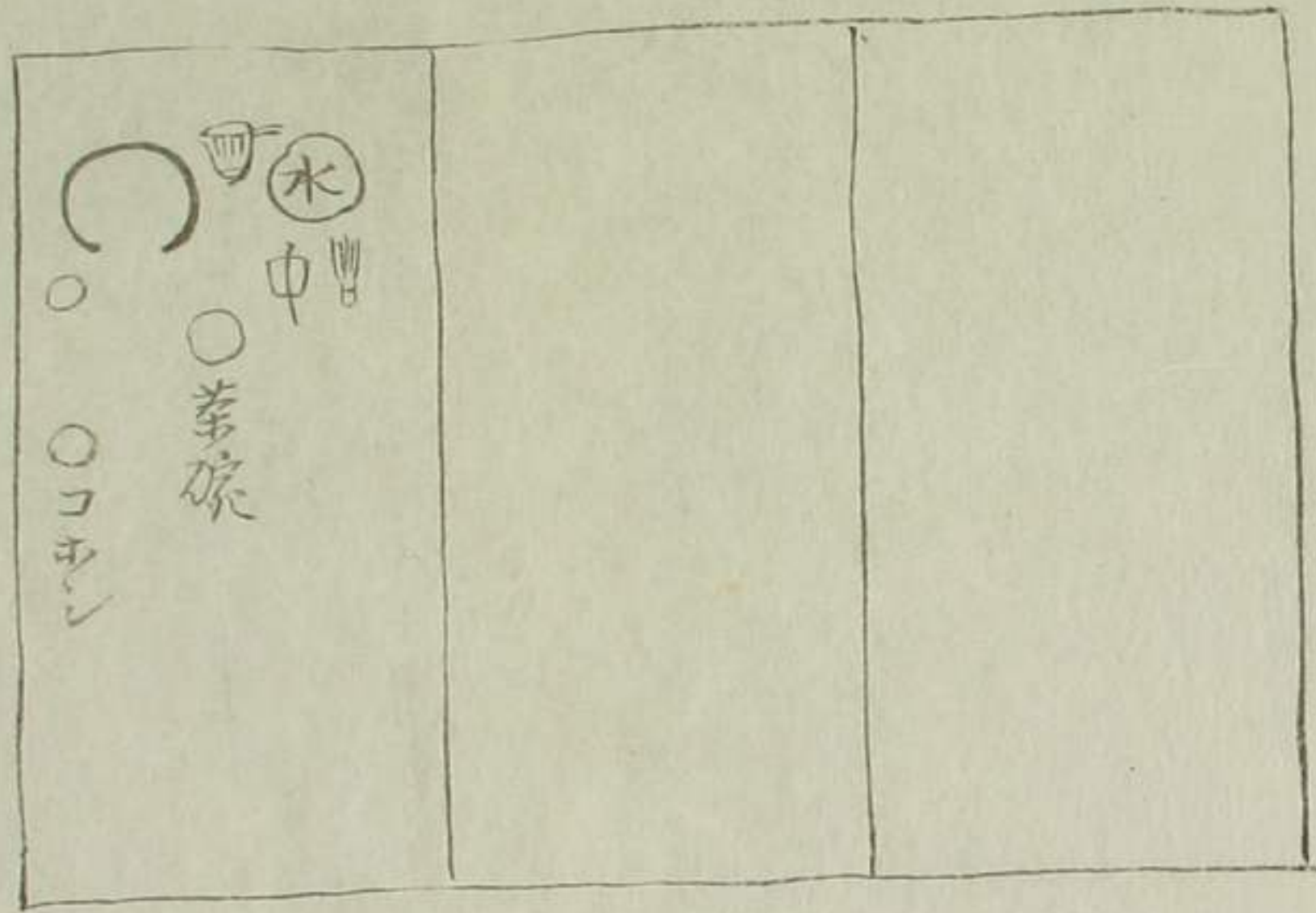
谷子並格列大キ成時ハフタを布と申出シ中フタノ時エホシ多ク又蒸ハ成時布と申出シ蒸



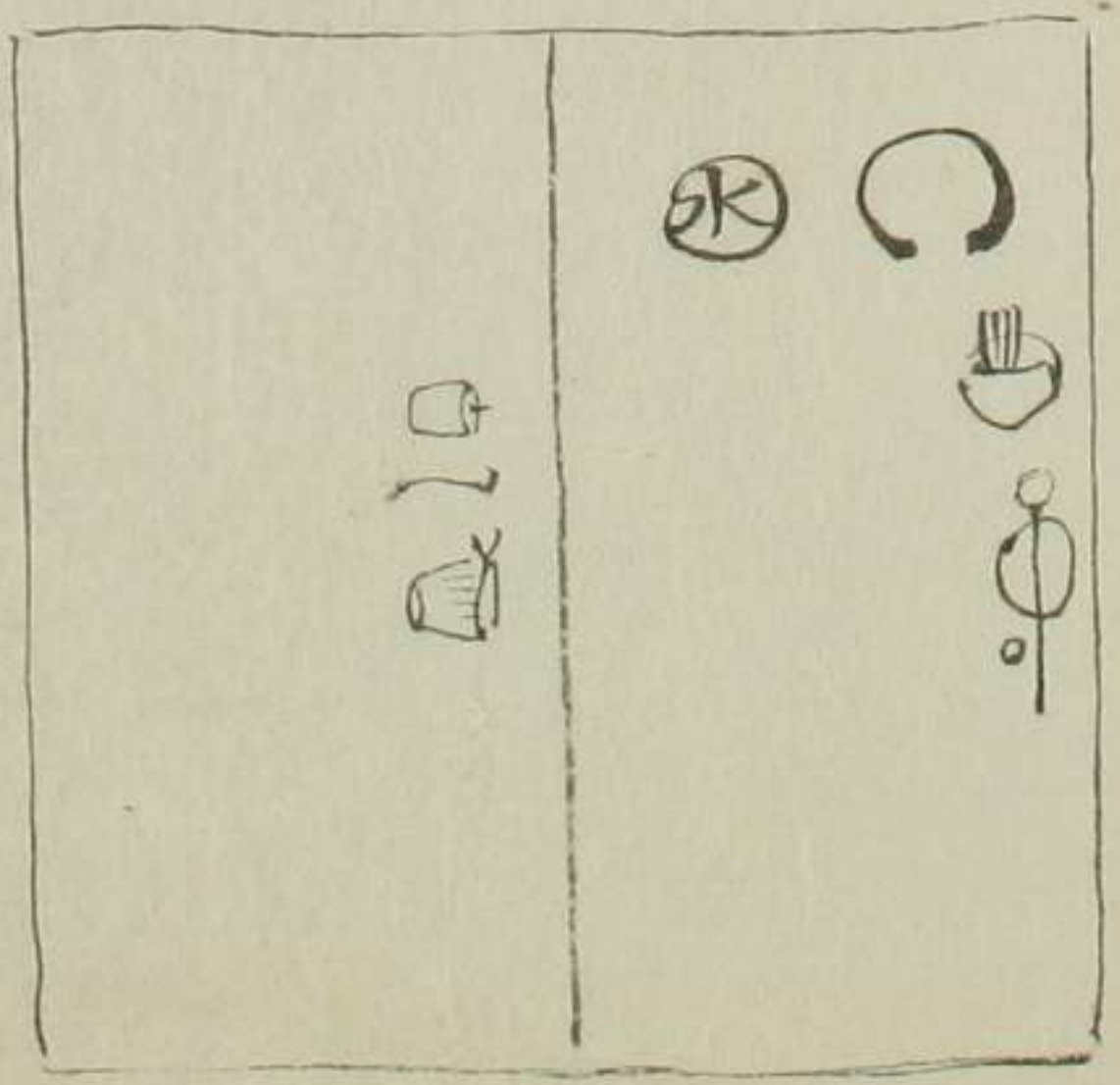
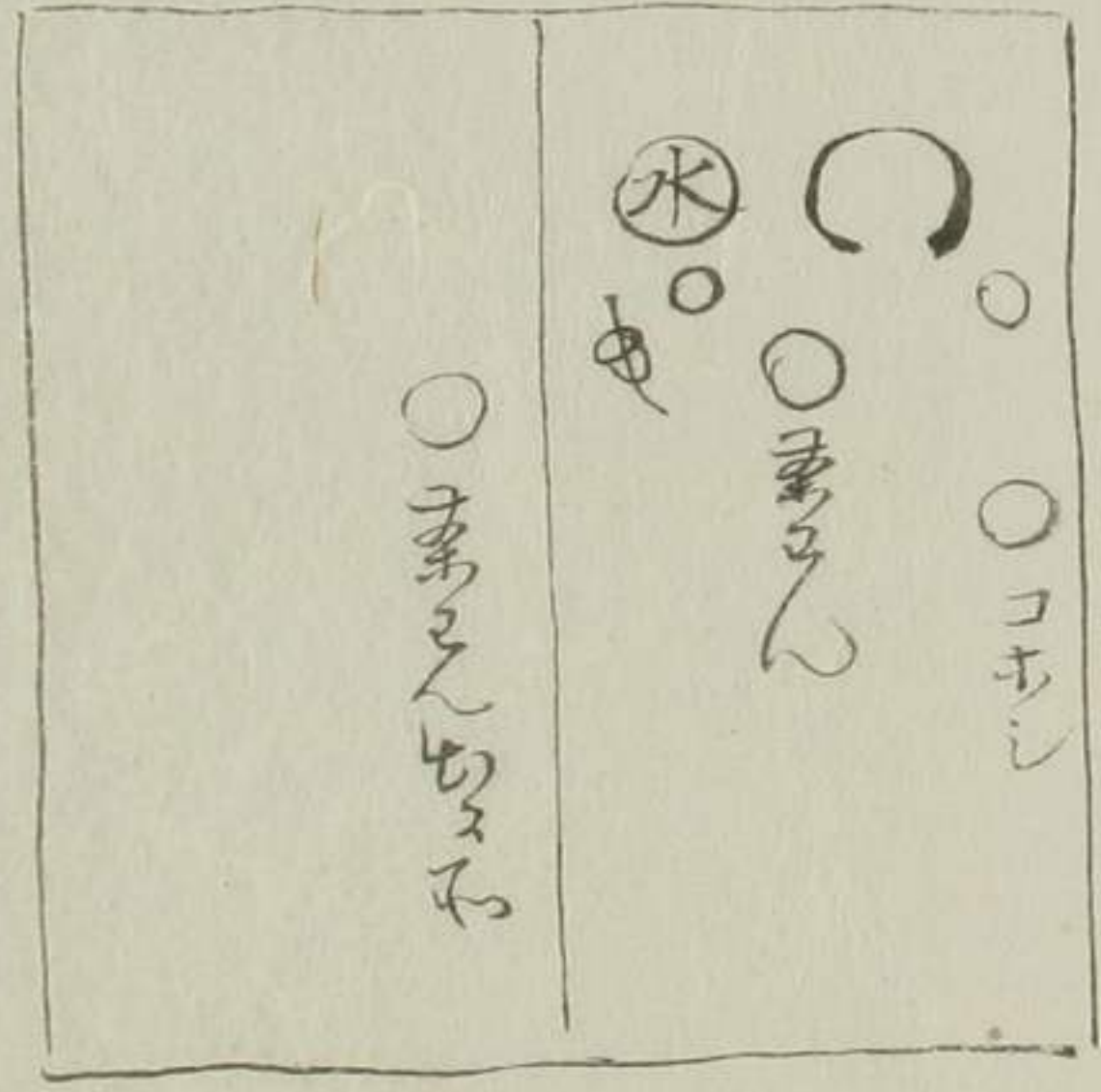
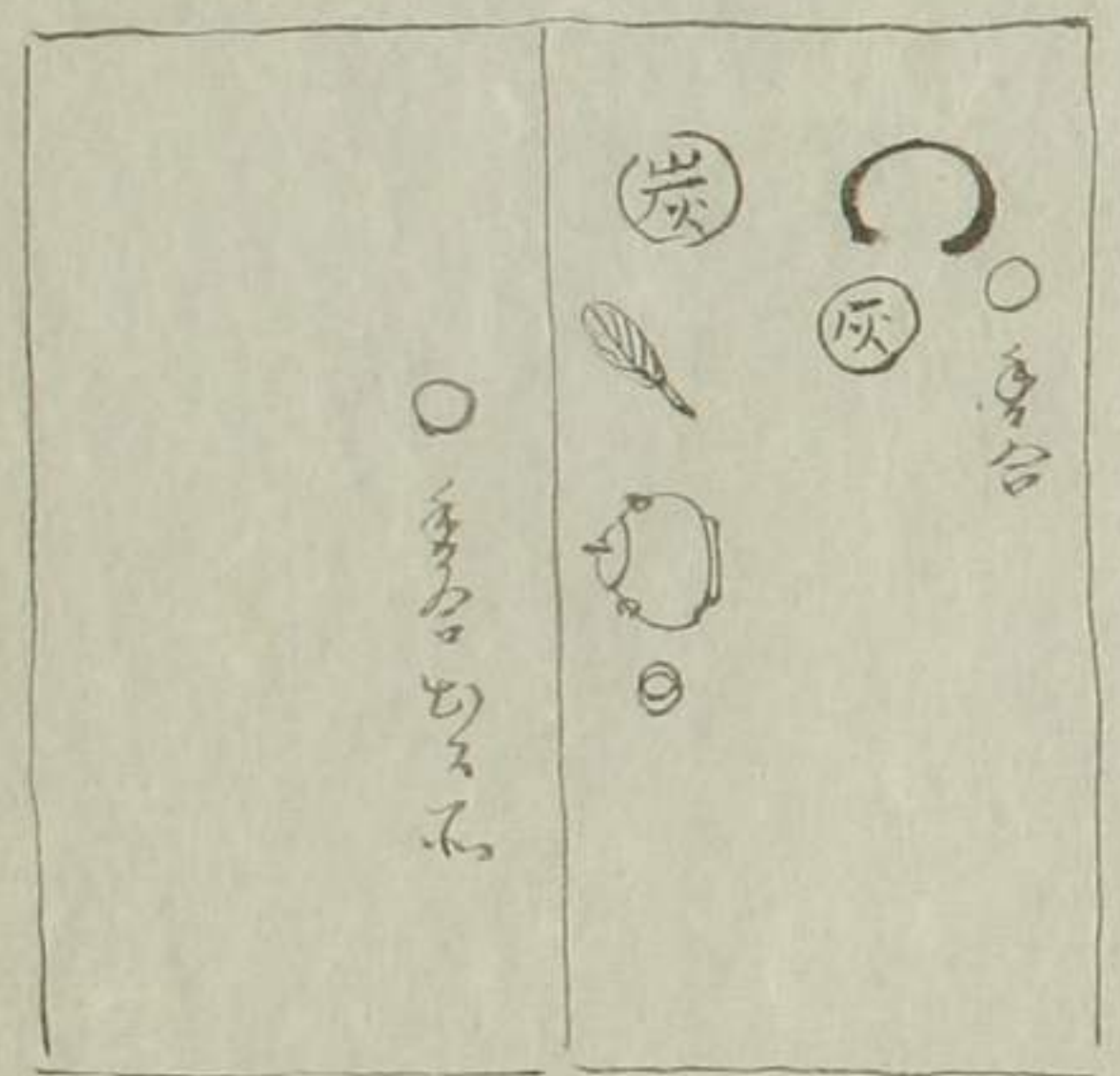
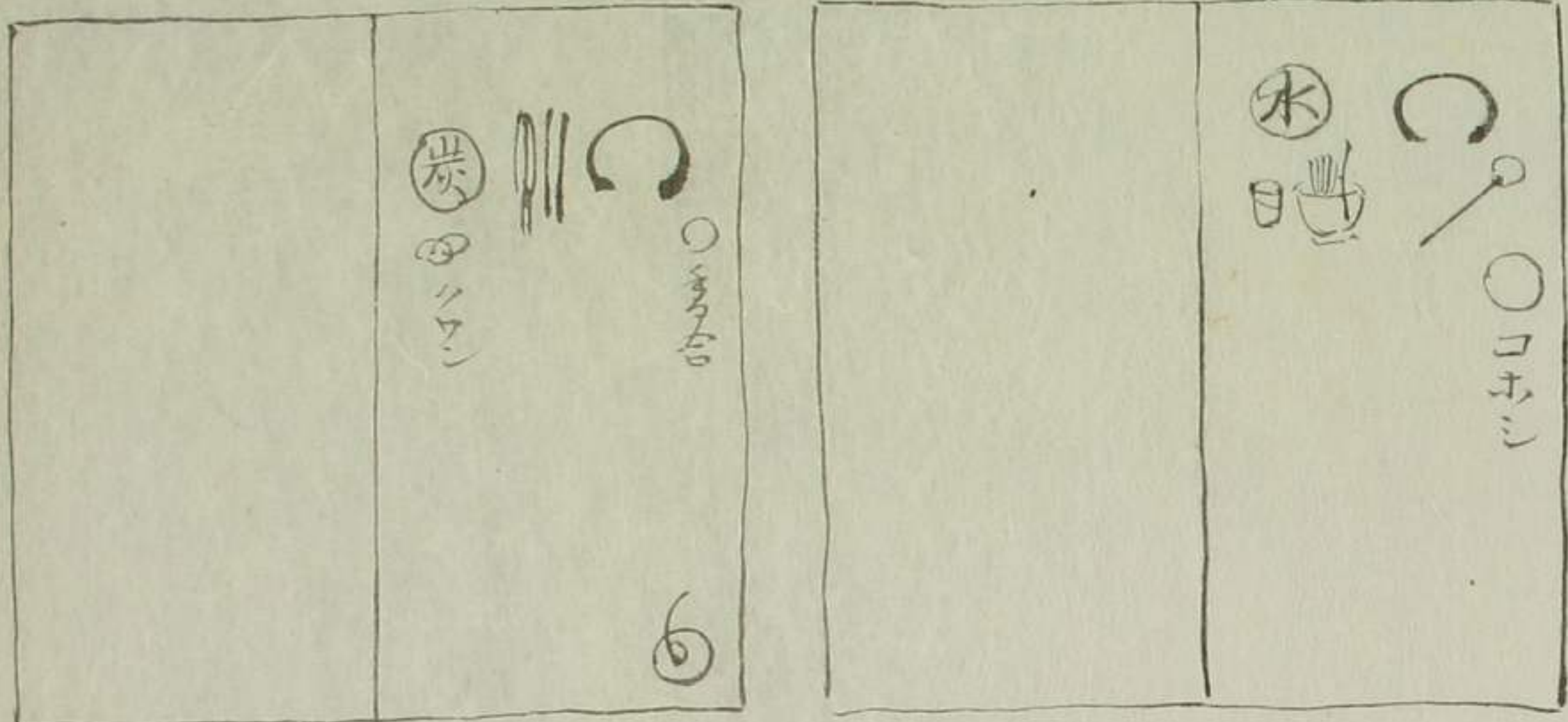
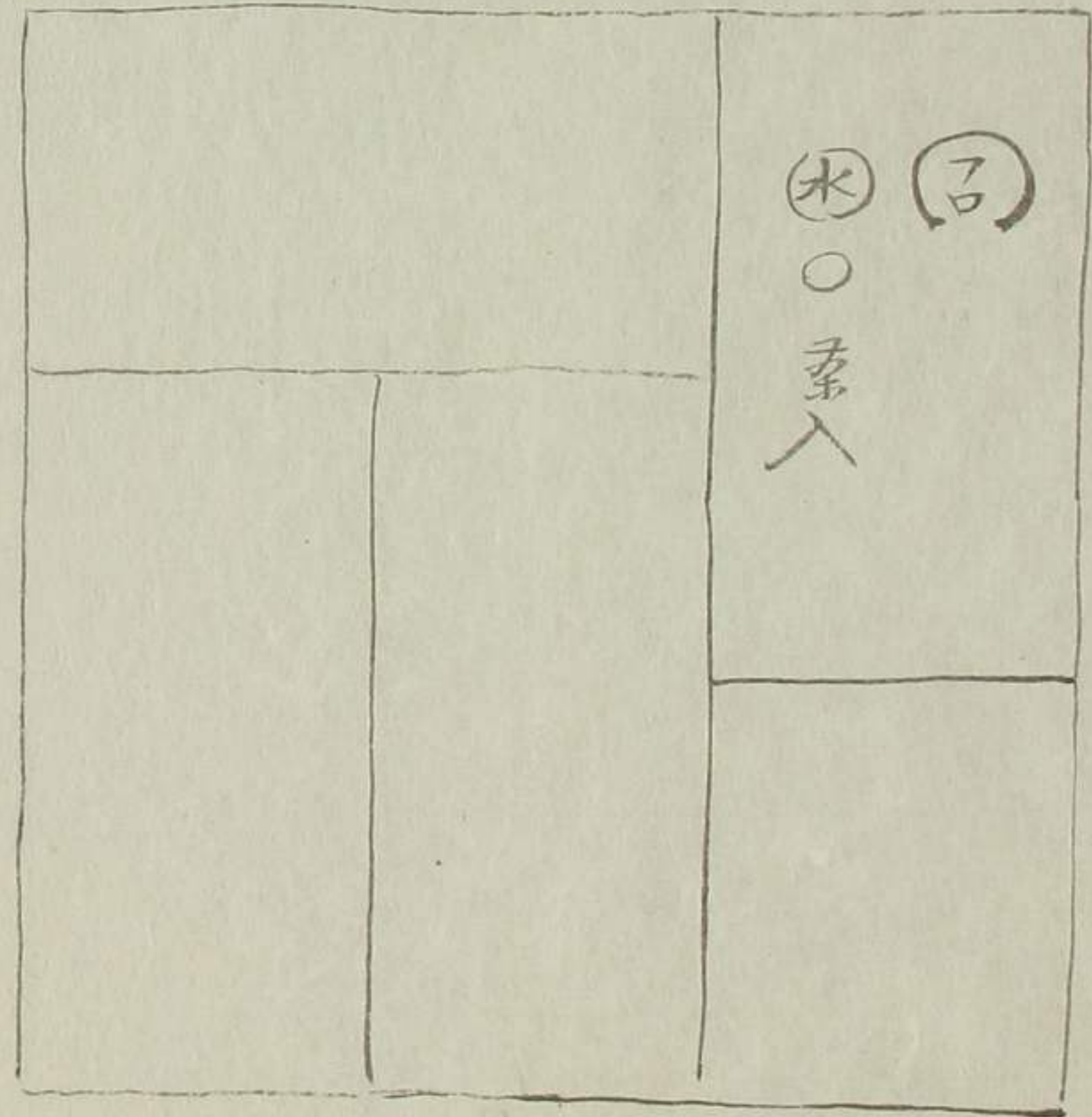


四畳半風爐

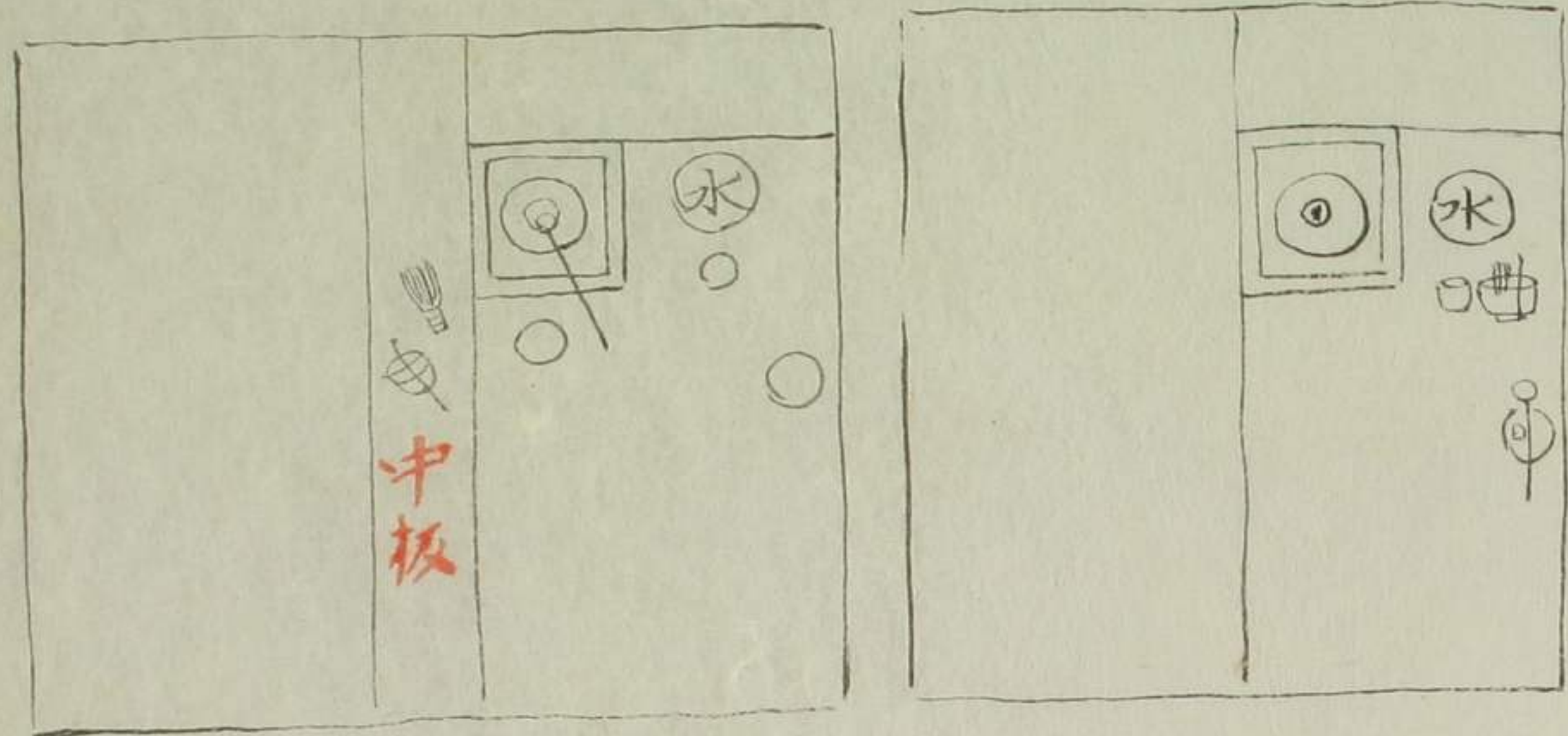




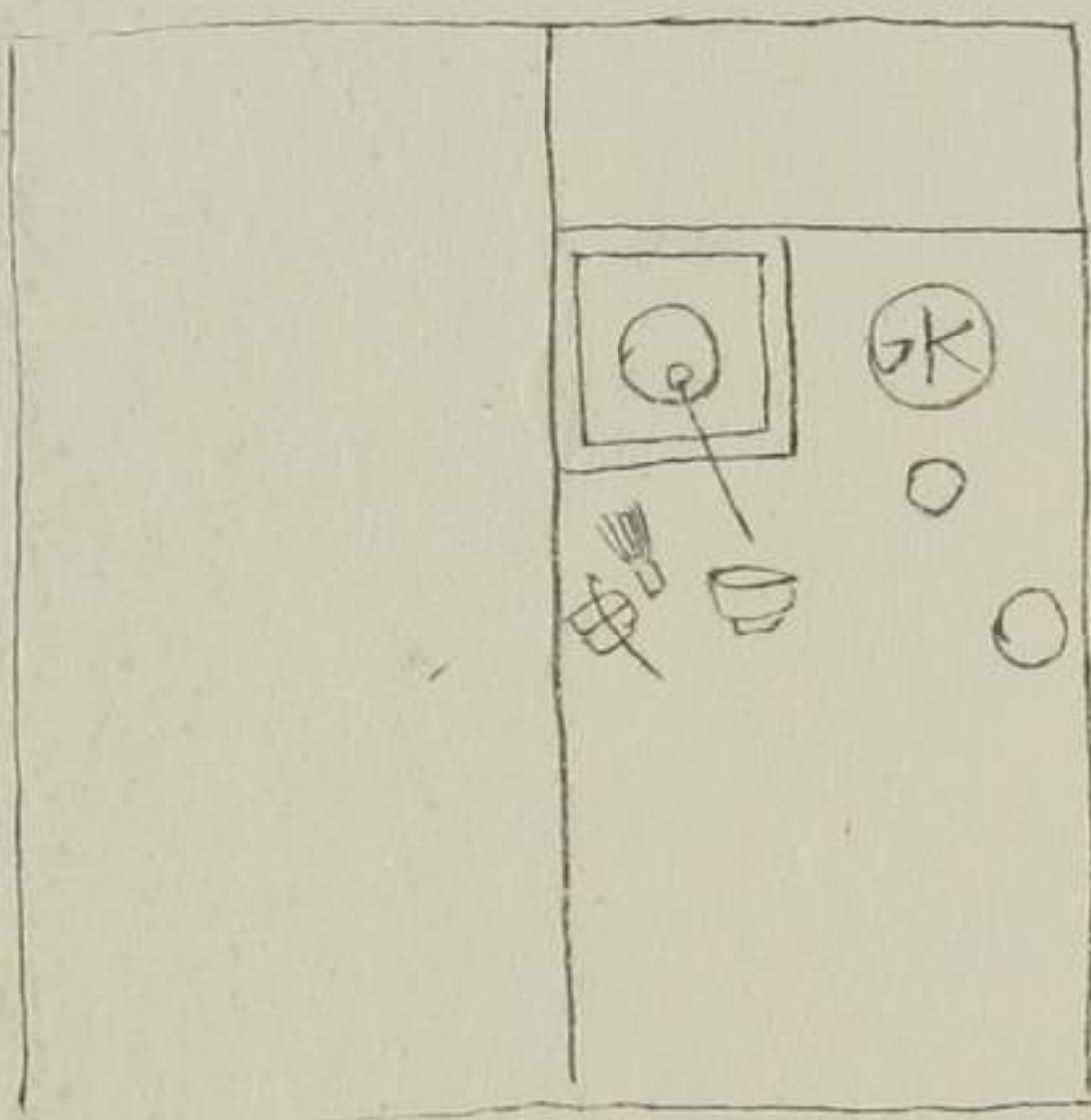
風爐通揚手



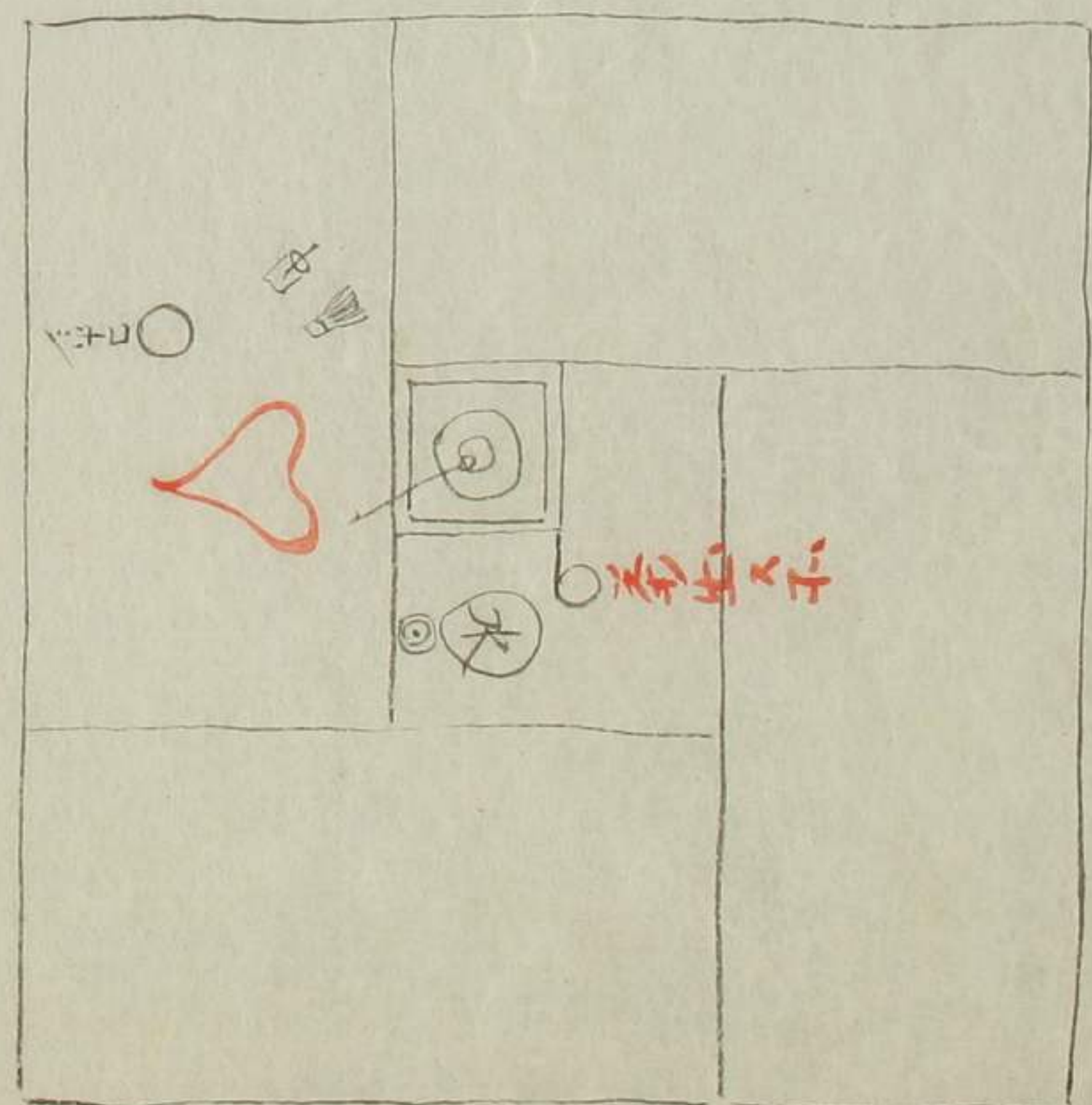
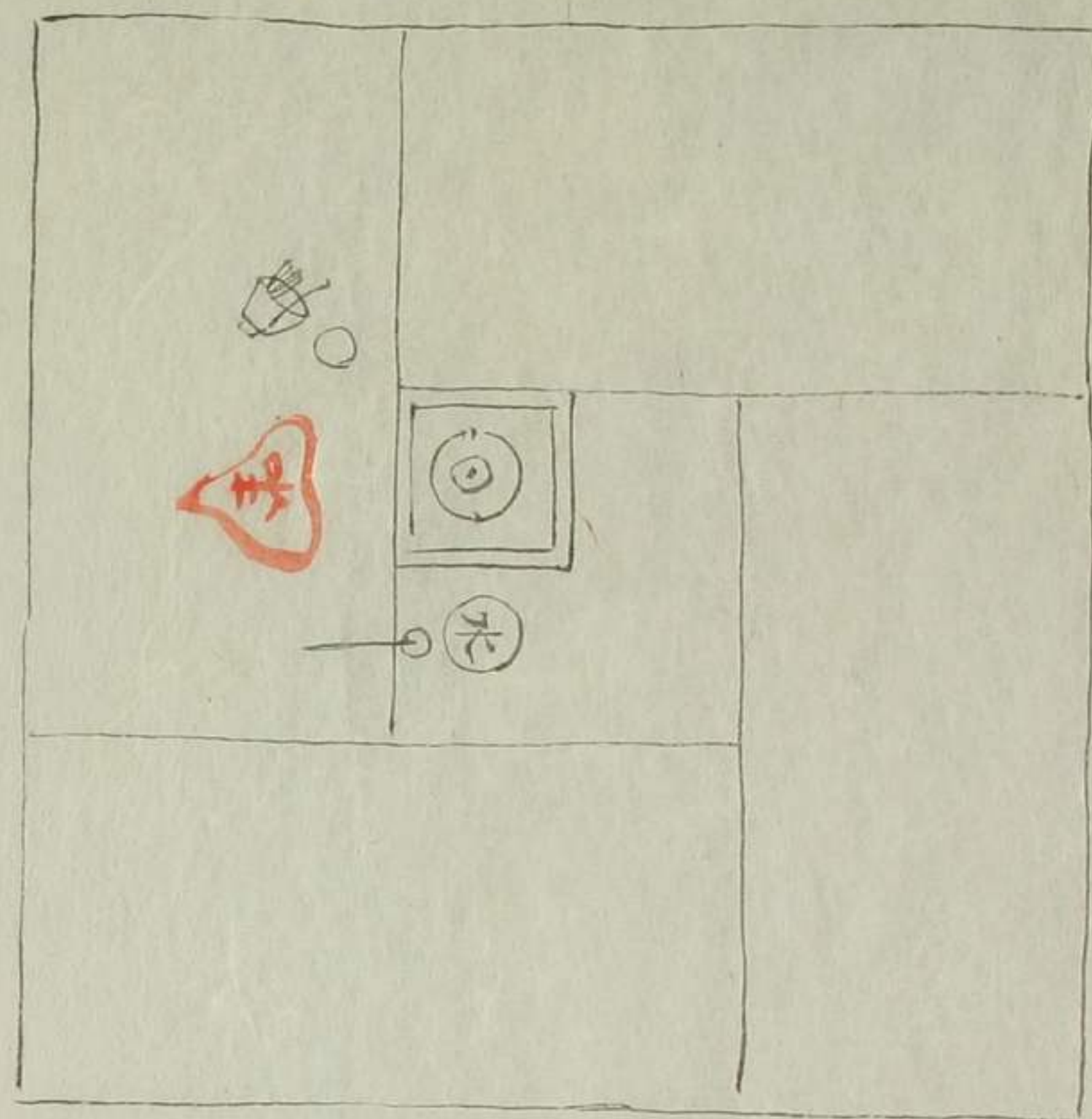
世多か何事か  
 蓋ハ前ハ石  
 柄杓川板石蓋  
 釜掛ハ石也



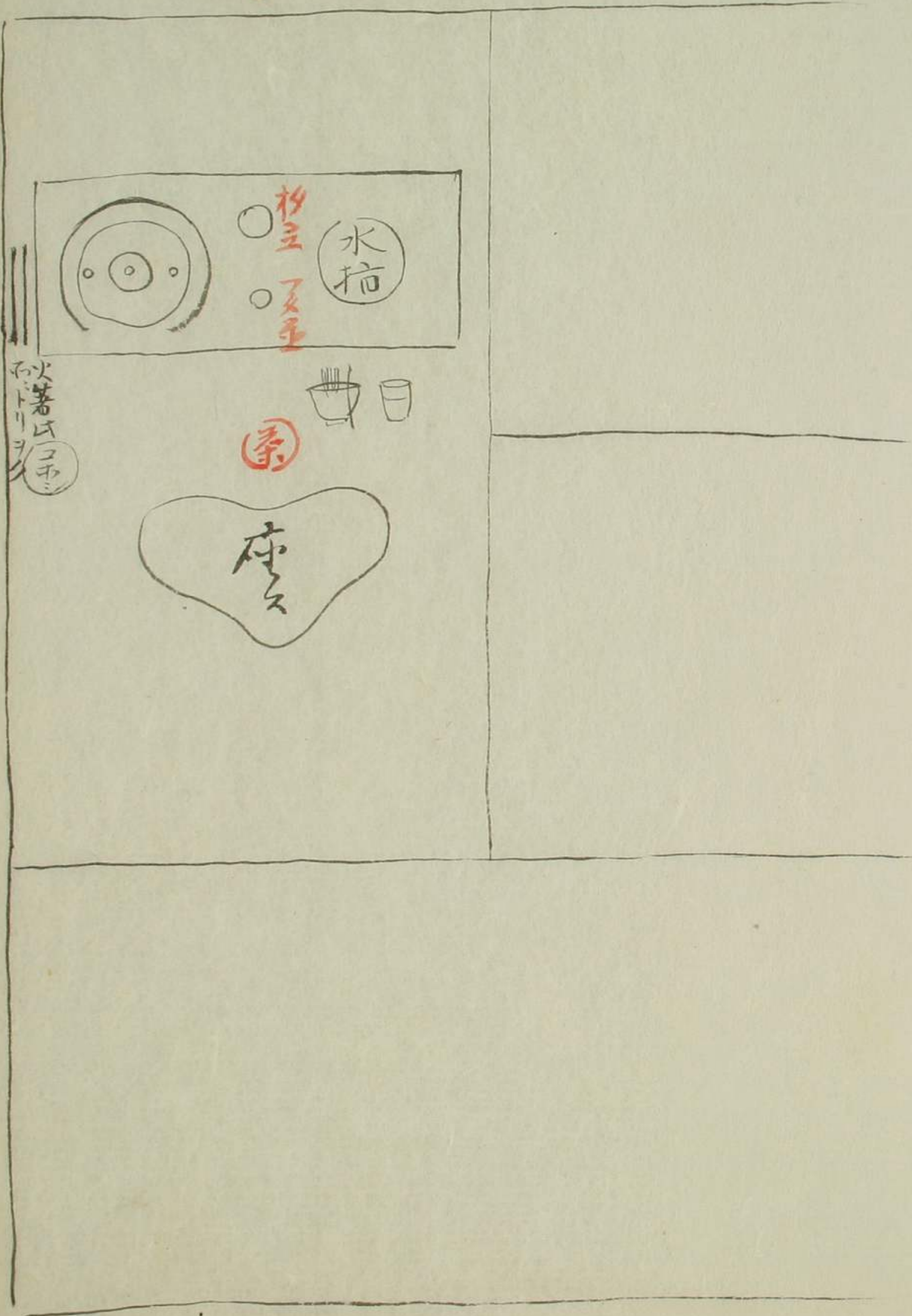
二五中板を減らす  
 のは板のどく、煮入、煮全  
 をとるにあり



中板を減らす  
 煮全、煮入、煮全  
 をとるにあり



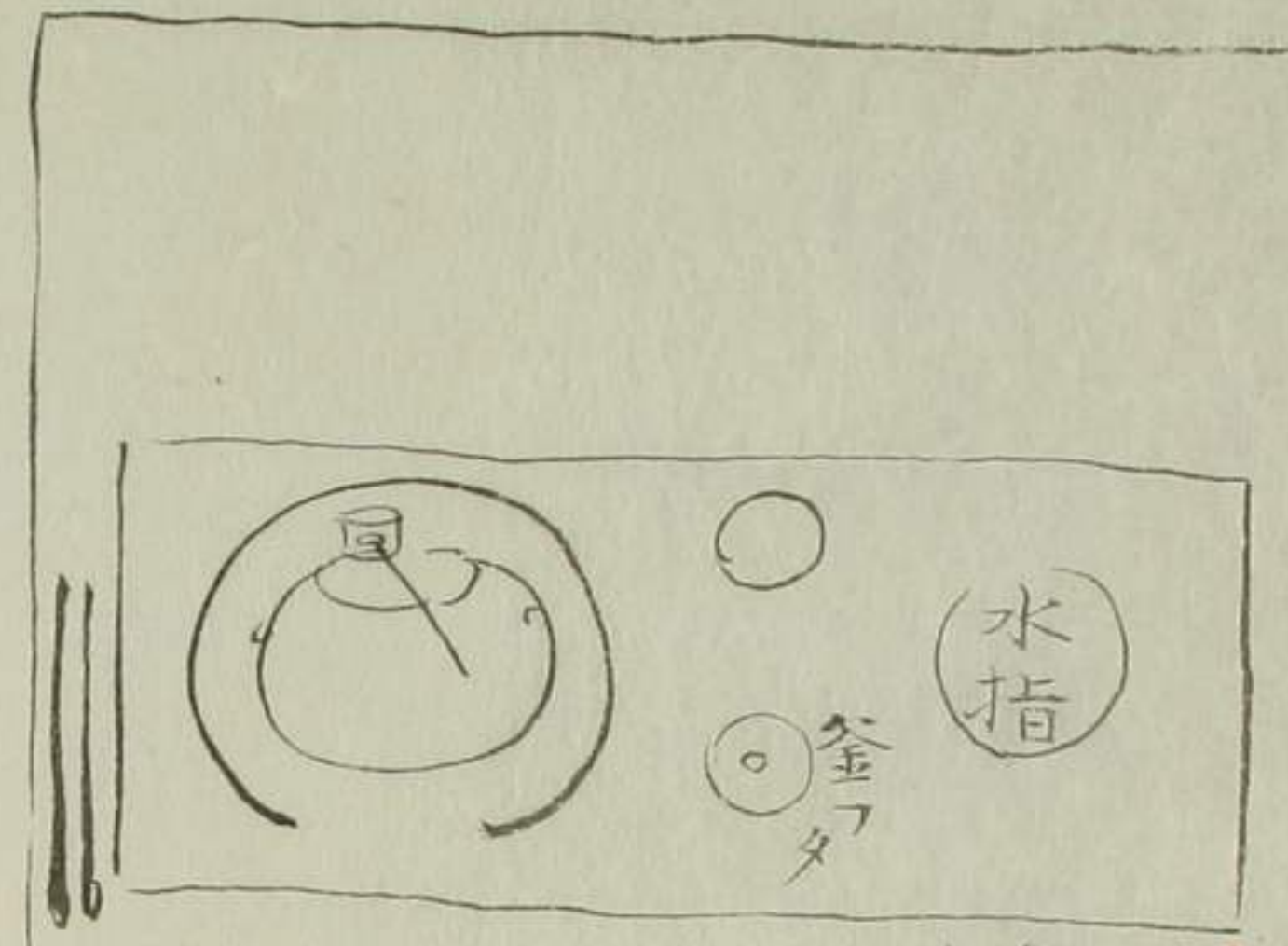
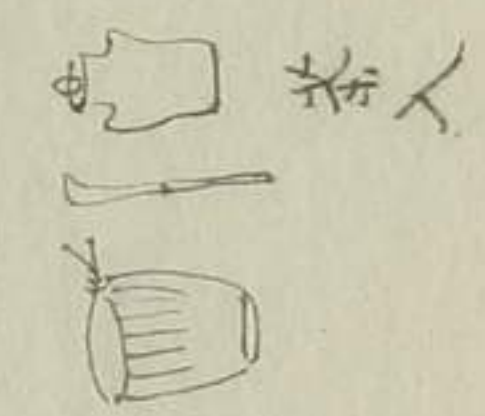
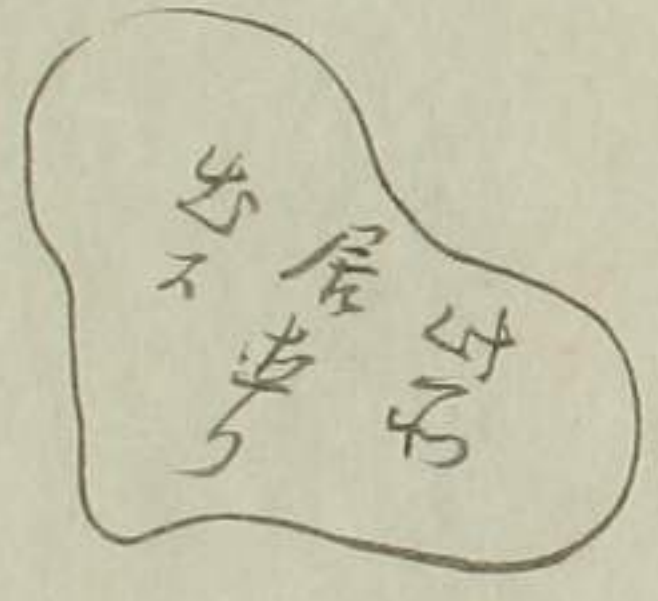
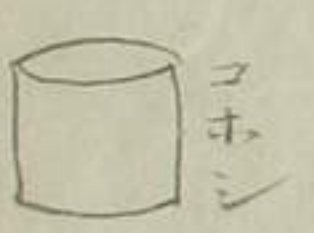
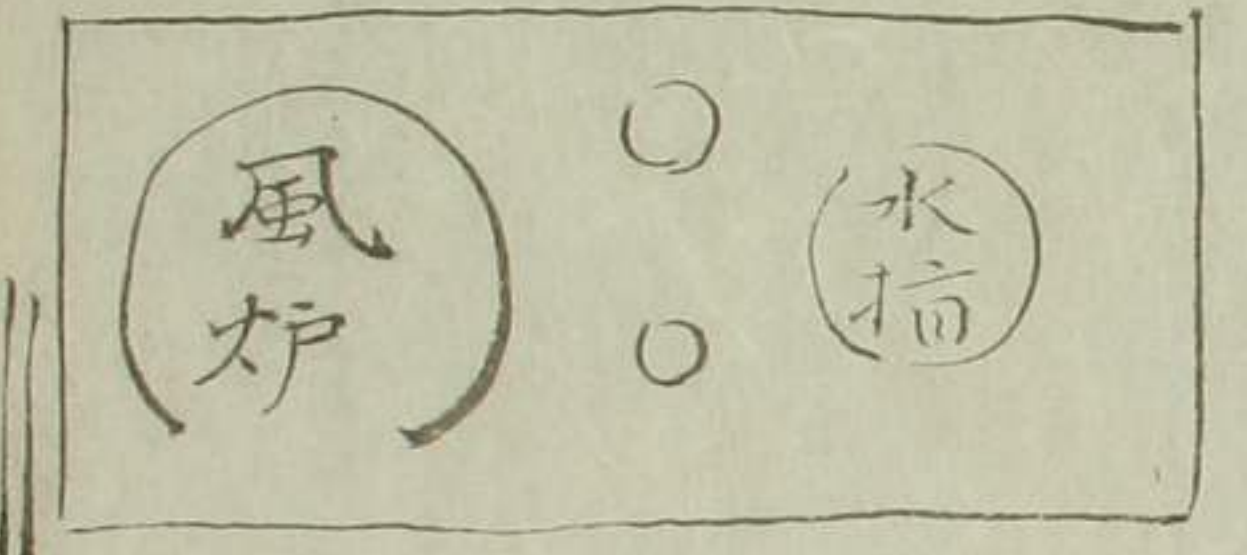
四疊半以上之坐鋪



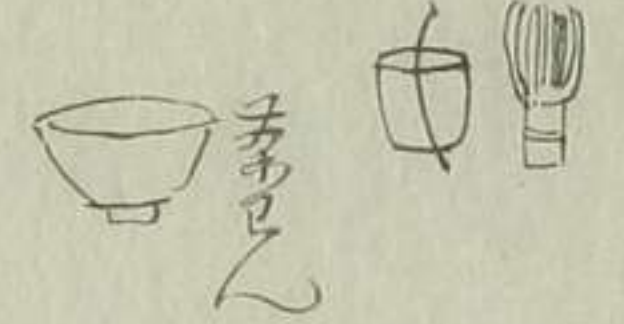
○右流飾置は本居手向切の運び付二色汁  
 の和手ありし

○柀の運びも本居手向切の運び付汁の取

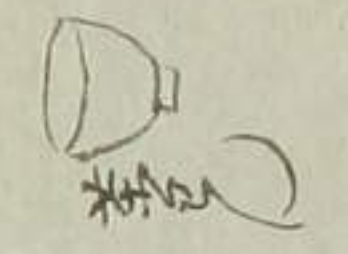
柄杓釜の  
 蓋ノ真柄  
 抄立ハ  
 △アニライ、  
 毛豆金ナレハ  
 抄立アニライ  
 サナクハ、  
 水サシフタ  
 スル  
 台兩釜出シ  
 立火箸  
 抄立ニサ



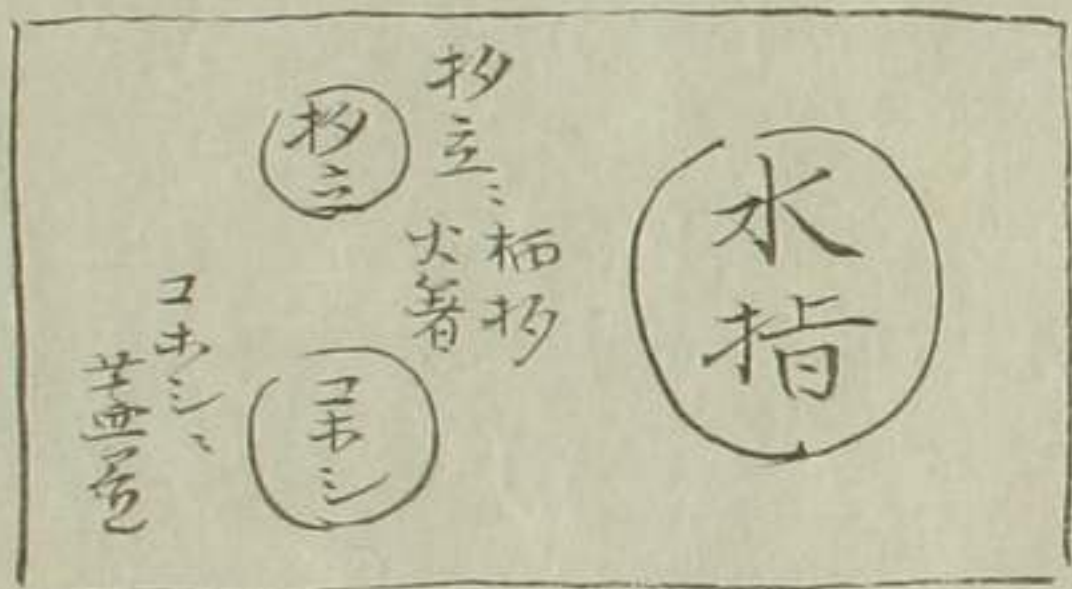
ヒハシ



ハサキ



合灰仕極好  
 了毎、蓋の和  
 ミをシキケ、色  
 谷、アケテ蓋の  
 石、川多き、  
 △火蒸、風乾ノ  
 大、考或、カサリ  
 汁、入、ルリ、炭  
 △又、谷、ヲ、揚、テ  
 蓋、の、下、に、水、  
 其、時、に、水、も、  
 有、リ

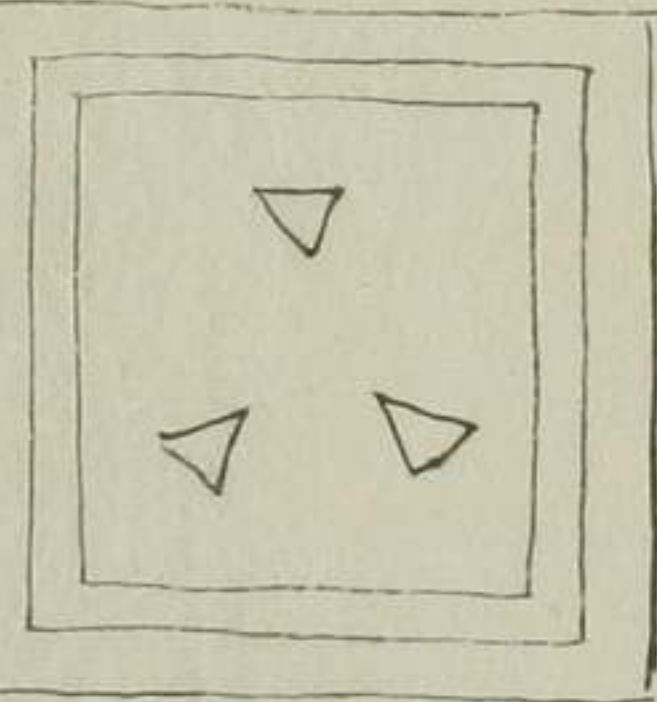


谷は、長、ハ、隔、カ、ケ、テ

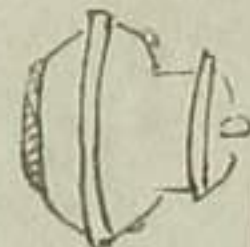
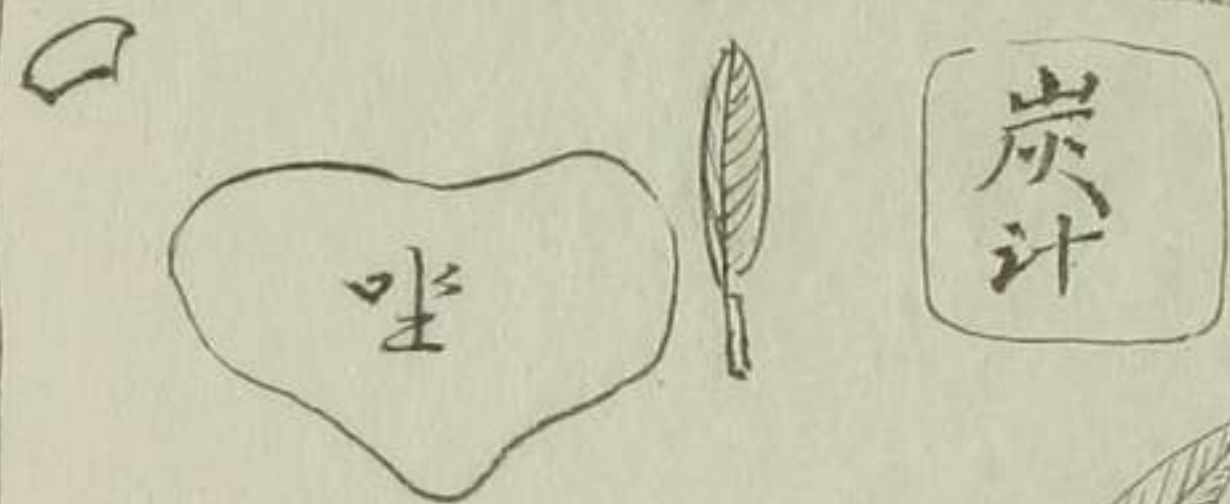
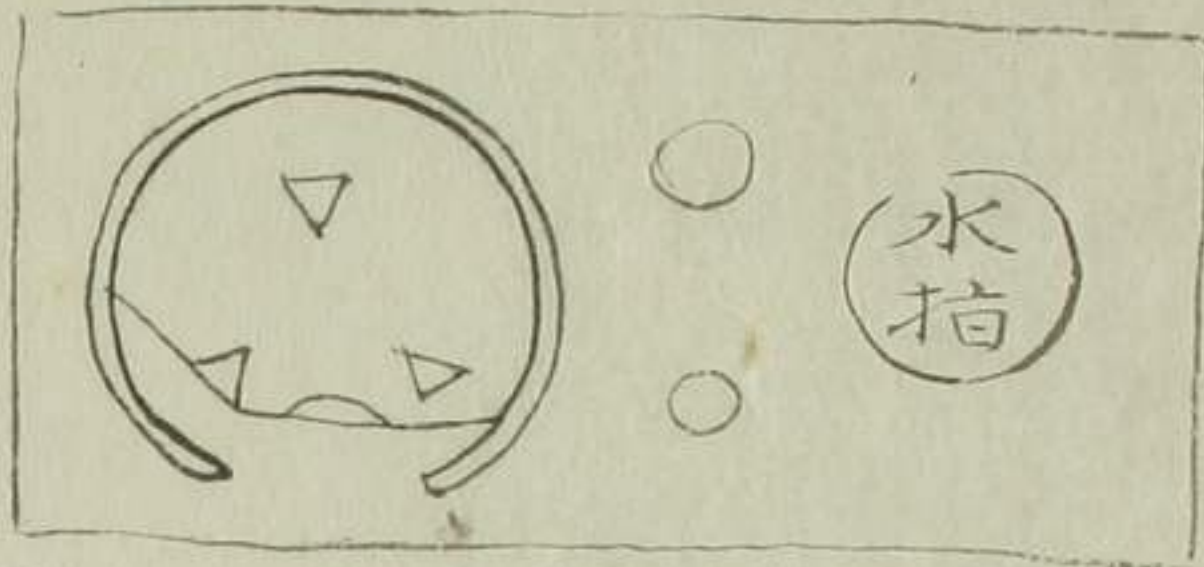


水指

炭汁



炭  
 事  
 無

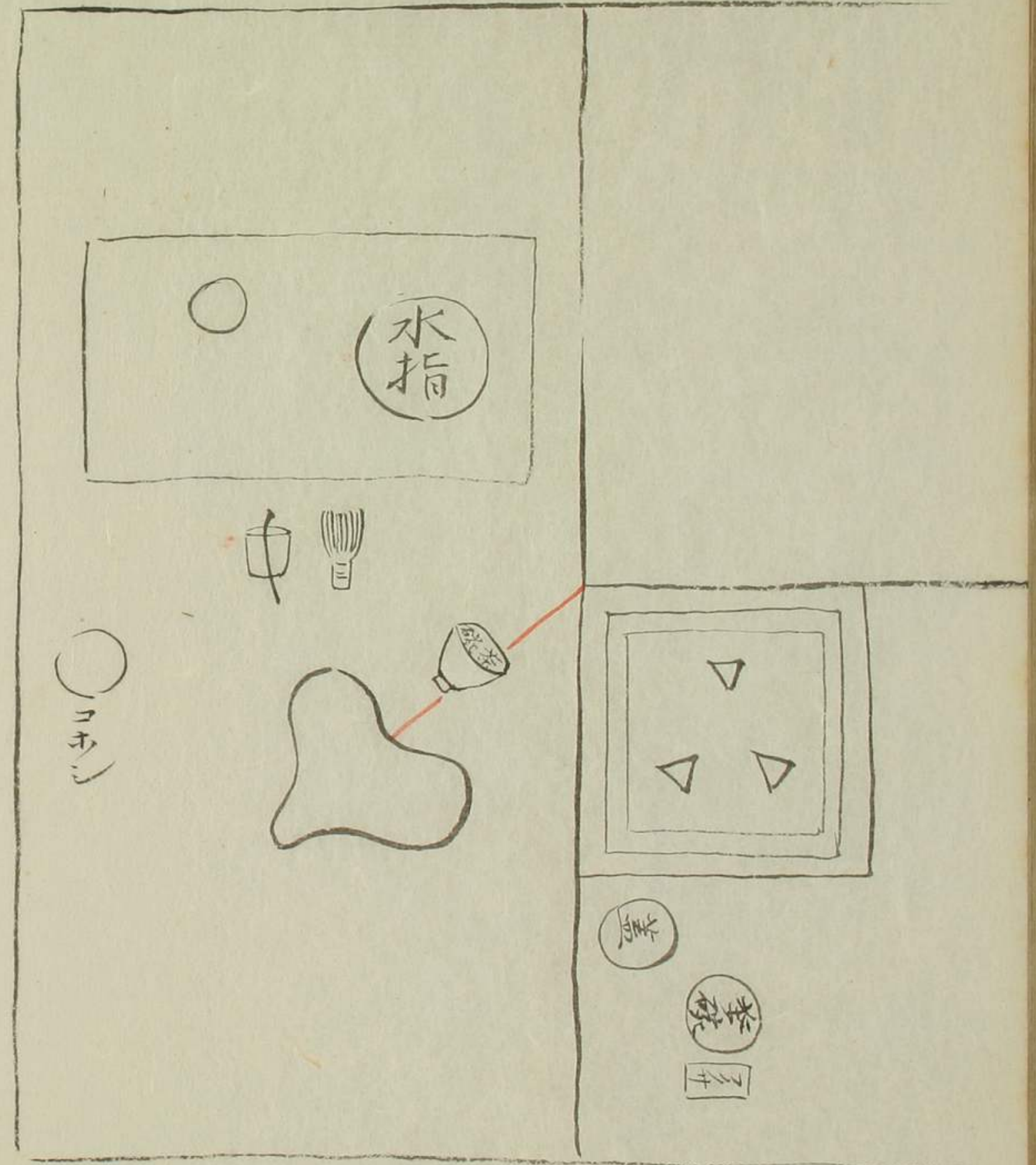
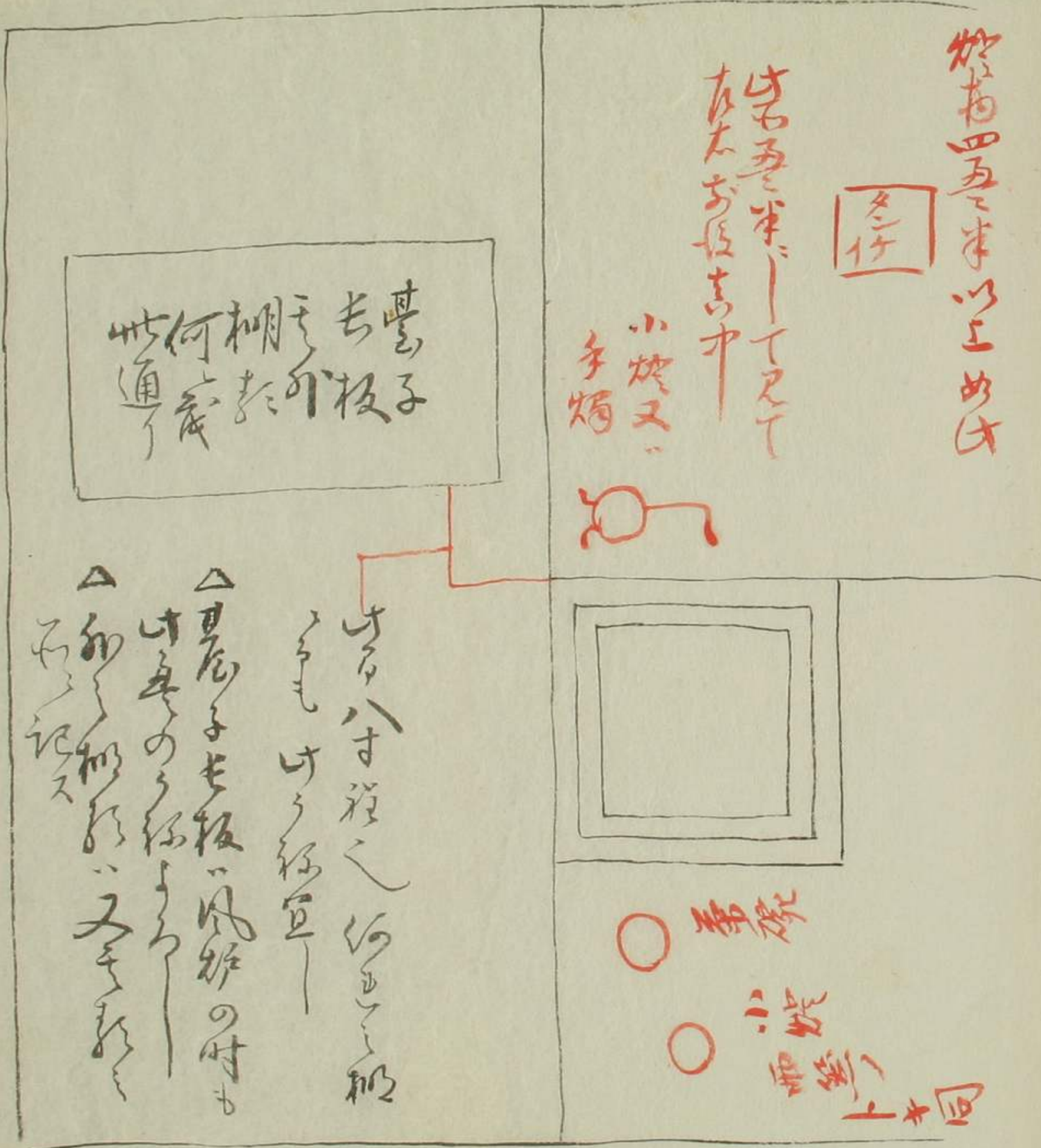


8

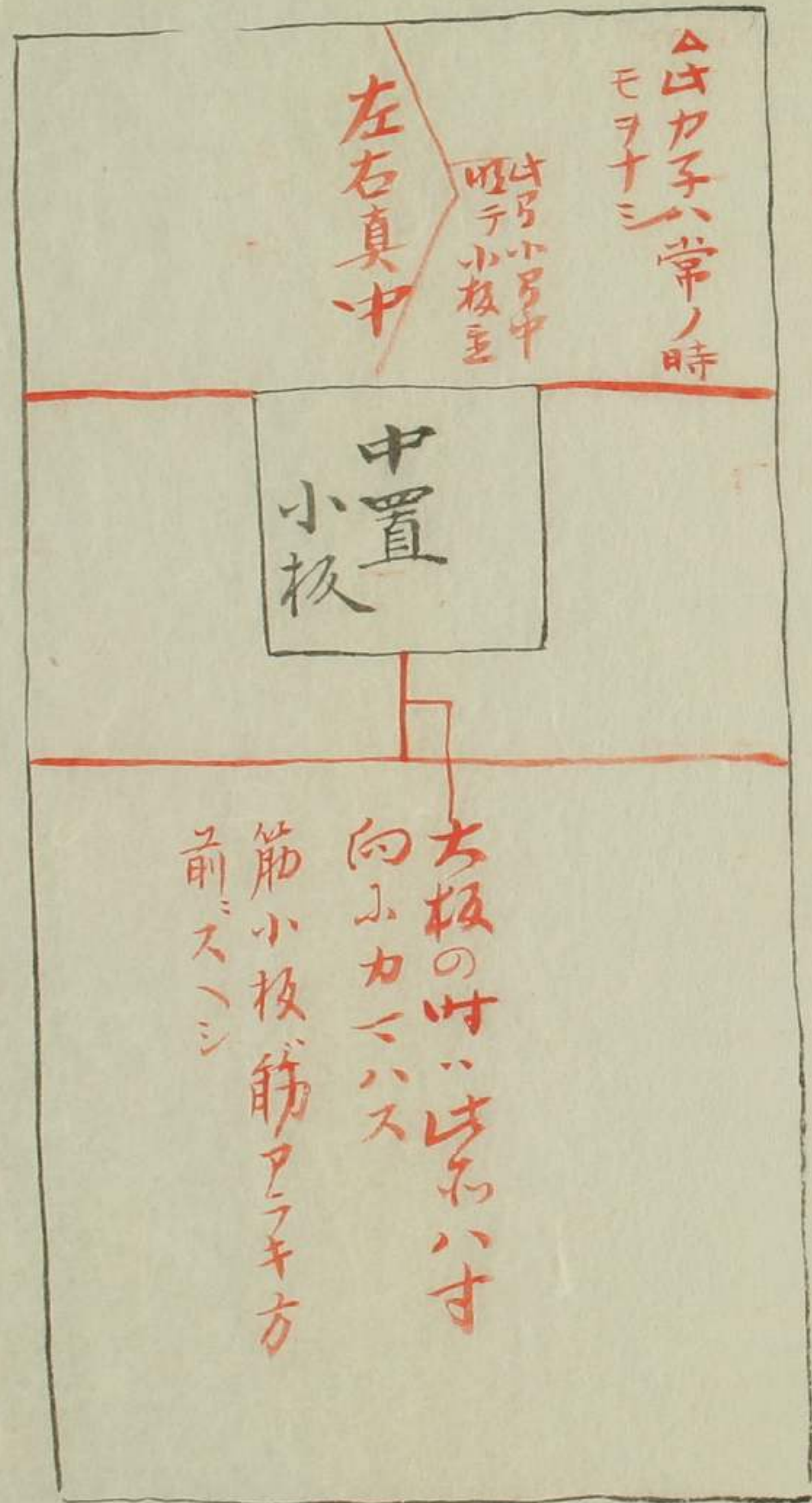






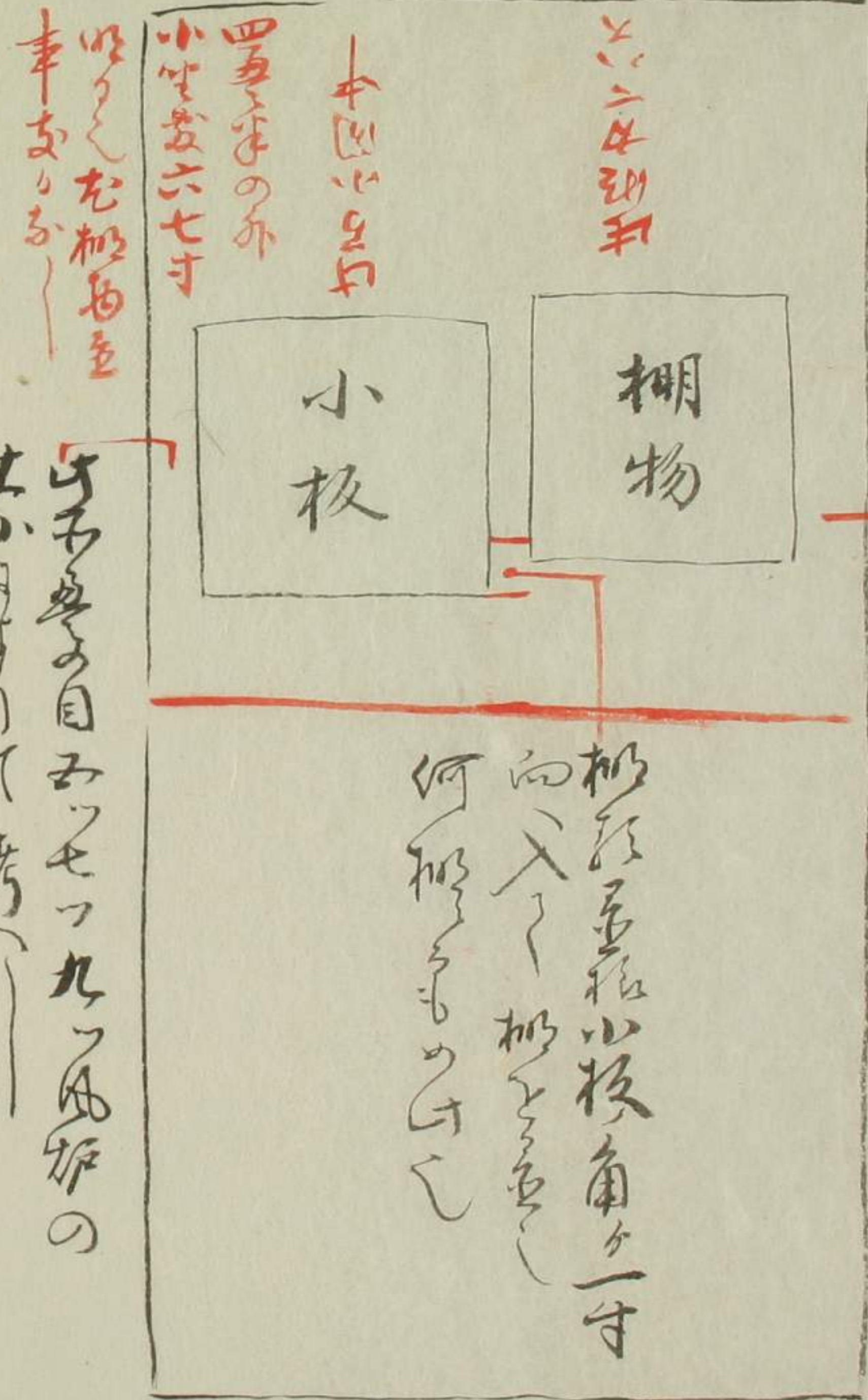


小板  
 横八寸以下  
 厚八寸  
 大板  
 長三尺四寸四方  
 厚六寸



風炉  
 棚物  
 置合

右大板  
 左板と目録  
 長

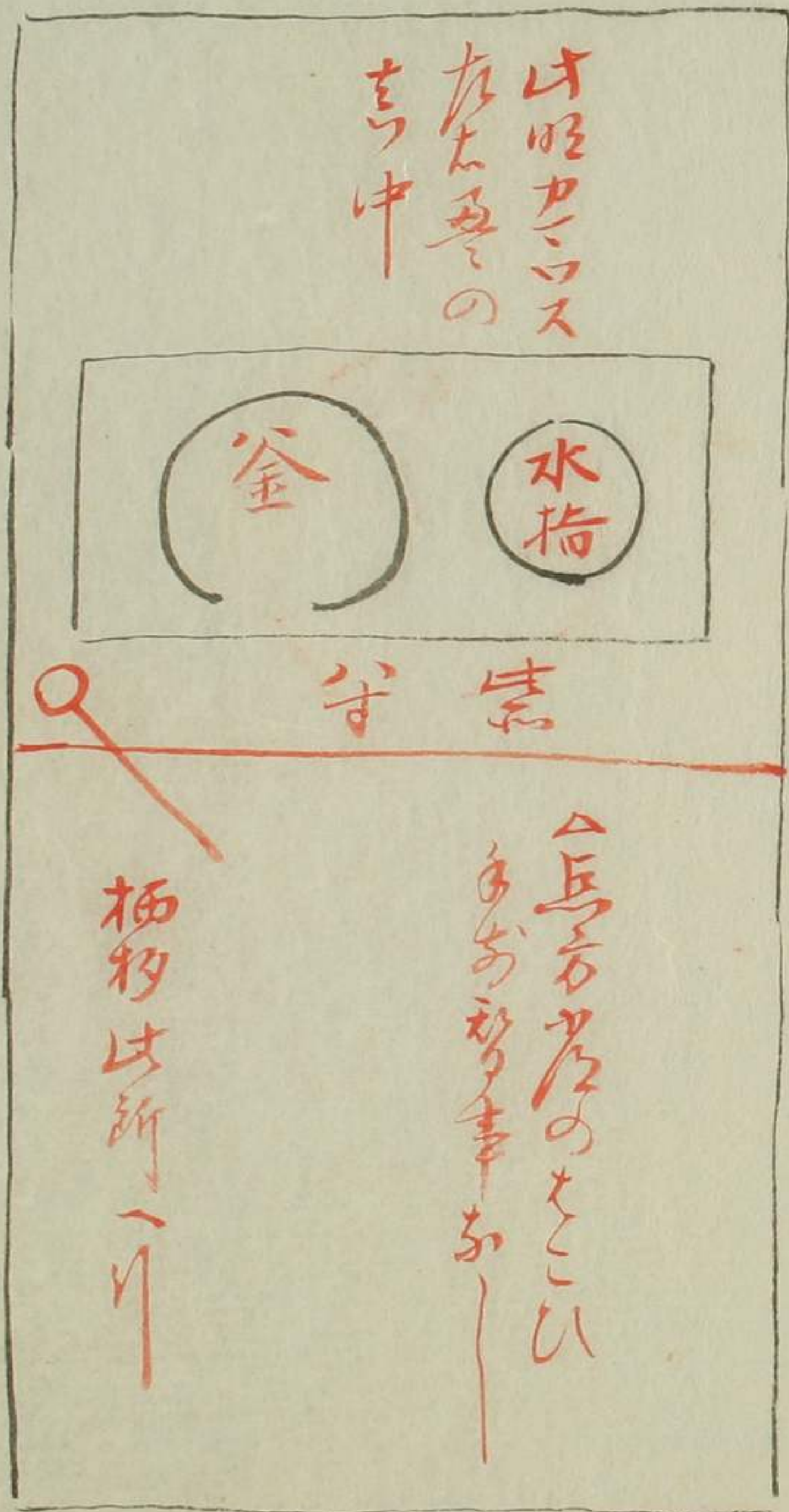


左大板の時ハは八寸  
 向小カハハス  
 筋小板筋アリキ方  
 前スハシ

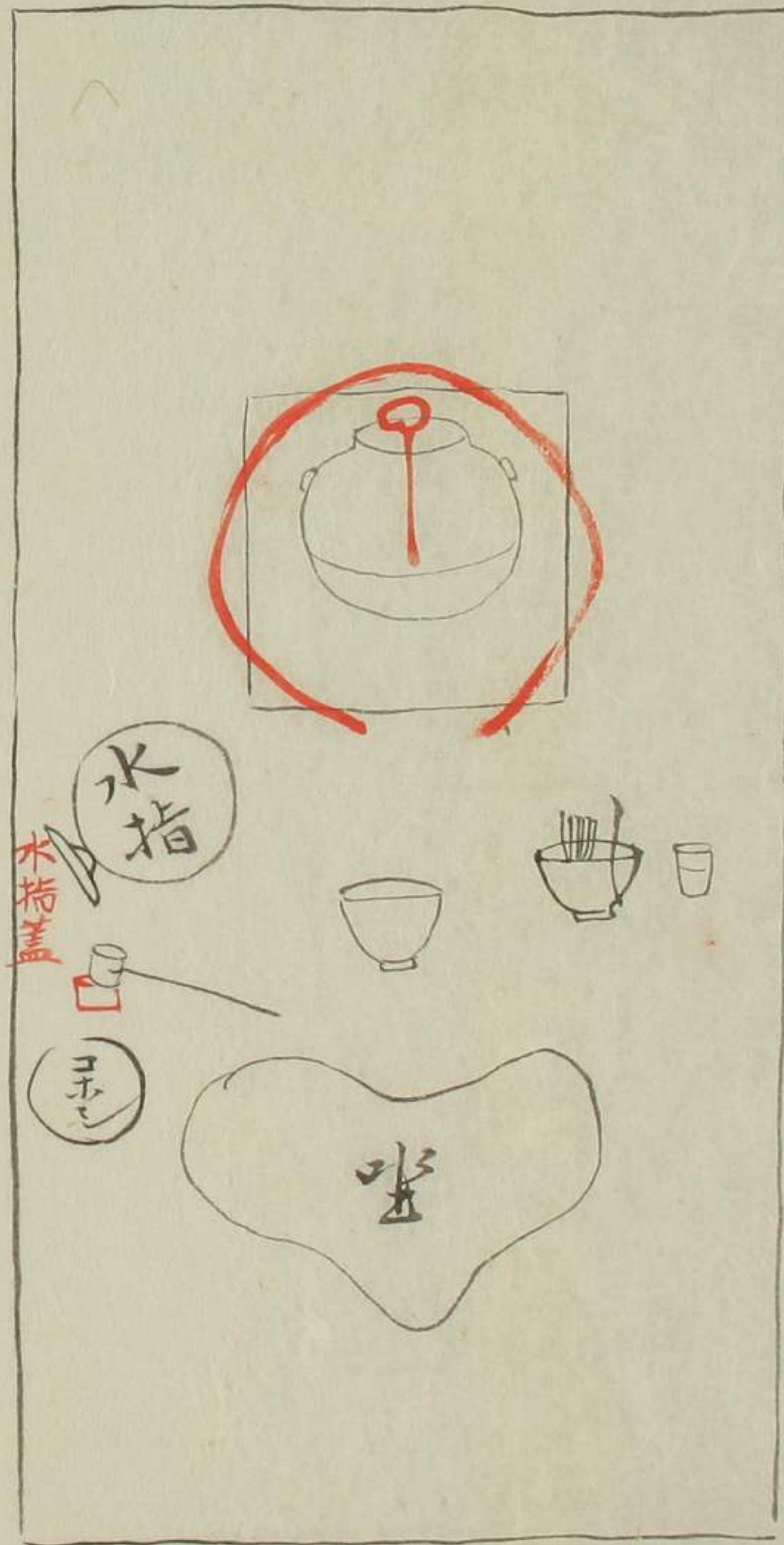
棚物  
 小板  
 何れもハハス

左大板の時ハは八寸  
 向小カハハス  
 筋小板筋アリキ方  
 前スハシ

爐長板  
 長八尺  
 幅七尺四寸  
 ハシバミ七寸五分ト  
 石子六寸  
 短風爐長板  
 長五尺八寸  
 幅七尺二寸五分ト  
 ハシバミ七寸五分ト  
 厚六寸ト  
 目短長板  
 長八尺四寸五分ト  
 幅七尺  
 ハシバミ七寸五分ト  
 厚四寸ト



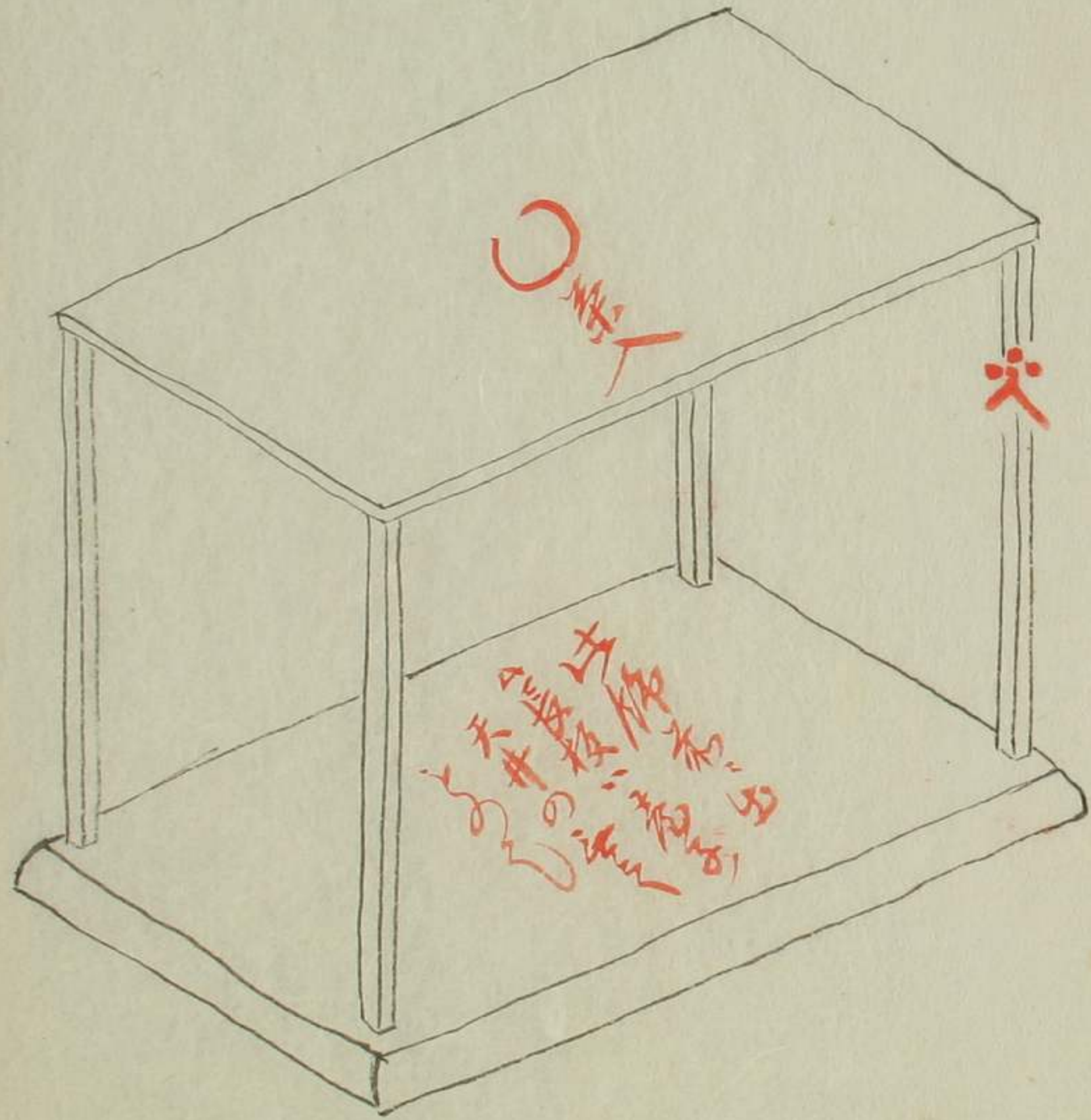
風爐  
 中色



水指隅ヲかけを

馬方乃事ニ一飾有也蓋釜ノ柄高直ハ川也

臺子

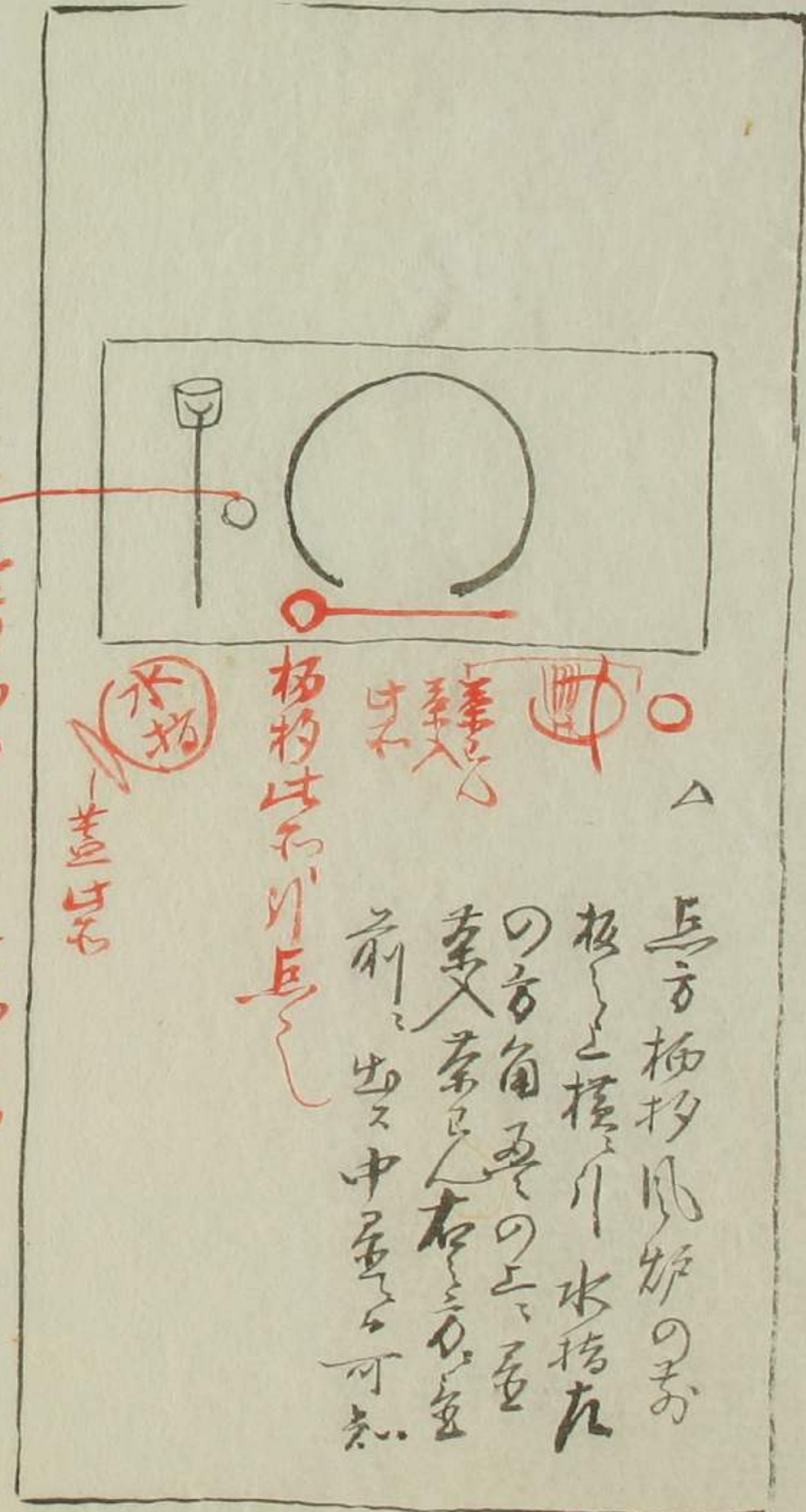


△ 屏風時  
 濃茶入初茶  
 飾モヨシ

△ 天井に茶時  
 濃茶入初茶  
 飾、屏風入飾

はち、常結月事と上より下一束下

長板  
 風炉  
 飾



長板は、飾り、長

火  
 長

長板は、飾り、長

△ 長板は、飾り、長  
 板と、横、水、板、丸  
 の、角、五、の、上、五  
 茶、入、茶、入、茶、入  
 前、出、中、茶、入、可、知

△栢杓立  
杓太無  
は飾

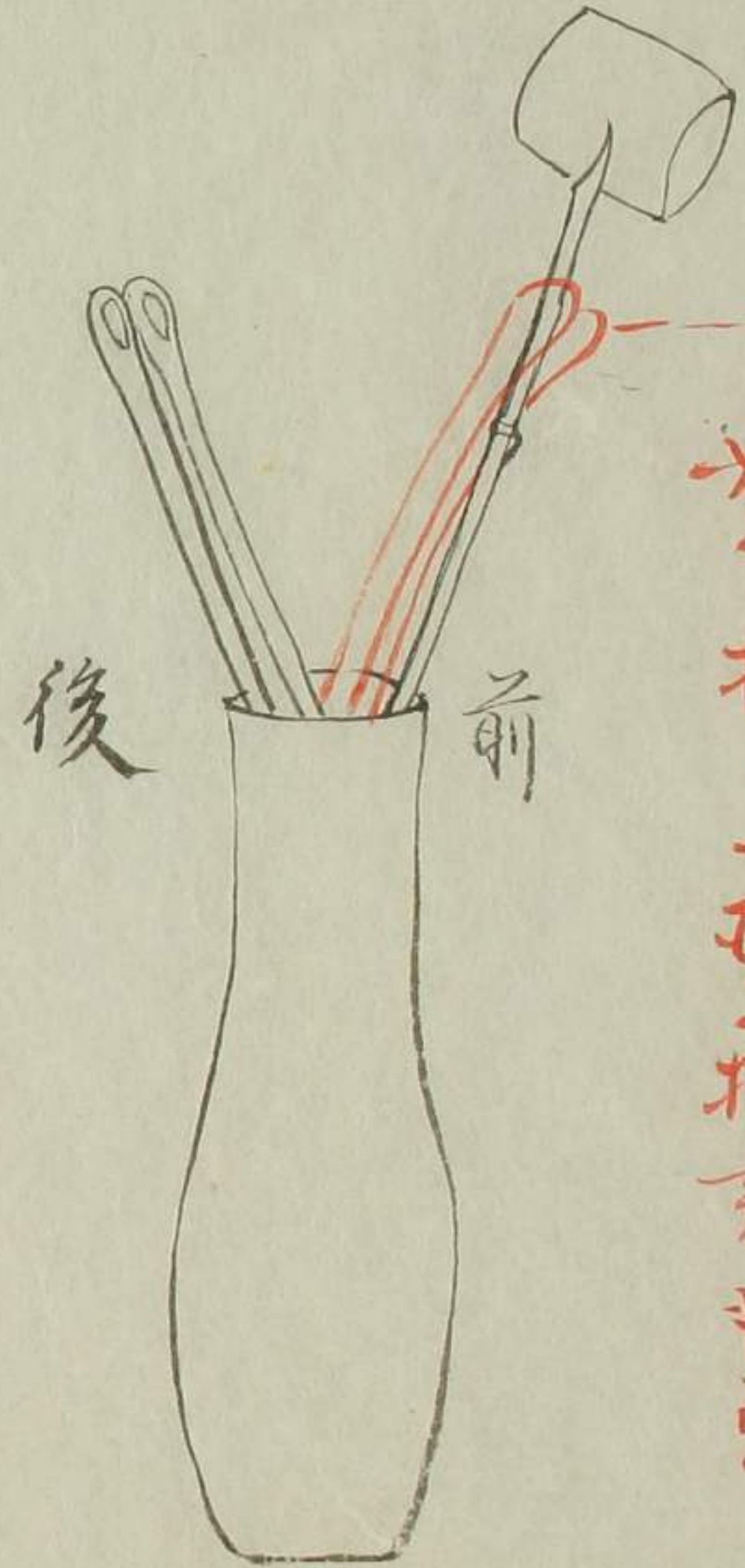
△飾古  
名ノ火無

千口キ双  
ソウカン

シンキウ

テツ

テツ



一、杓と一、杓指事も

種々

○臺子五品

○真之臺子

○爪紅臺子

○棠臺子

○竹柱臺子

○高麗臺子

右

○言簾臺子

○爪紅臺子

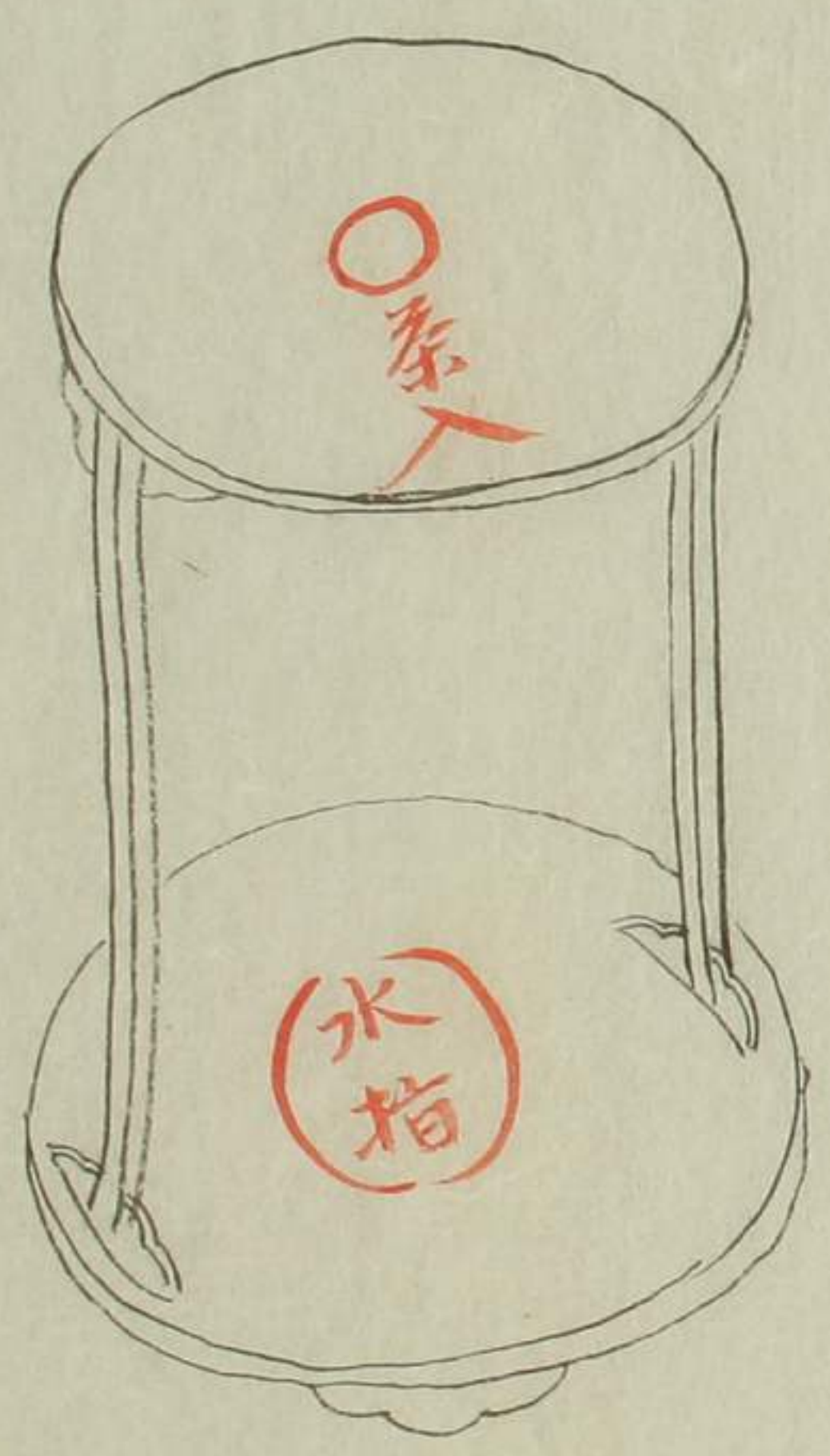
此品は汁用なり

掛よ釘 竹釘 長三寸ハト出九トハ子走トカハト下九三走ト  
 中九ト下リ右右三寸下リ釘と釘の弓三尺

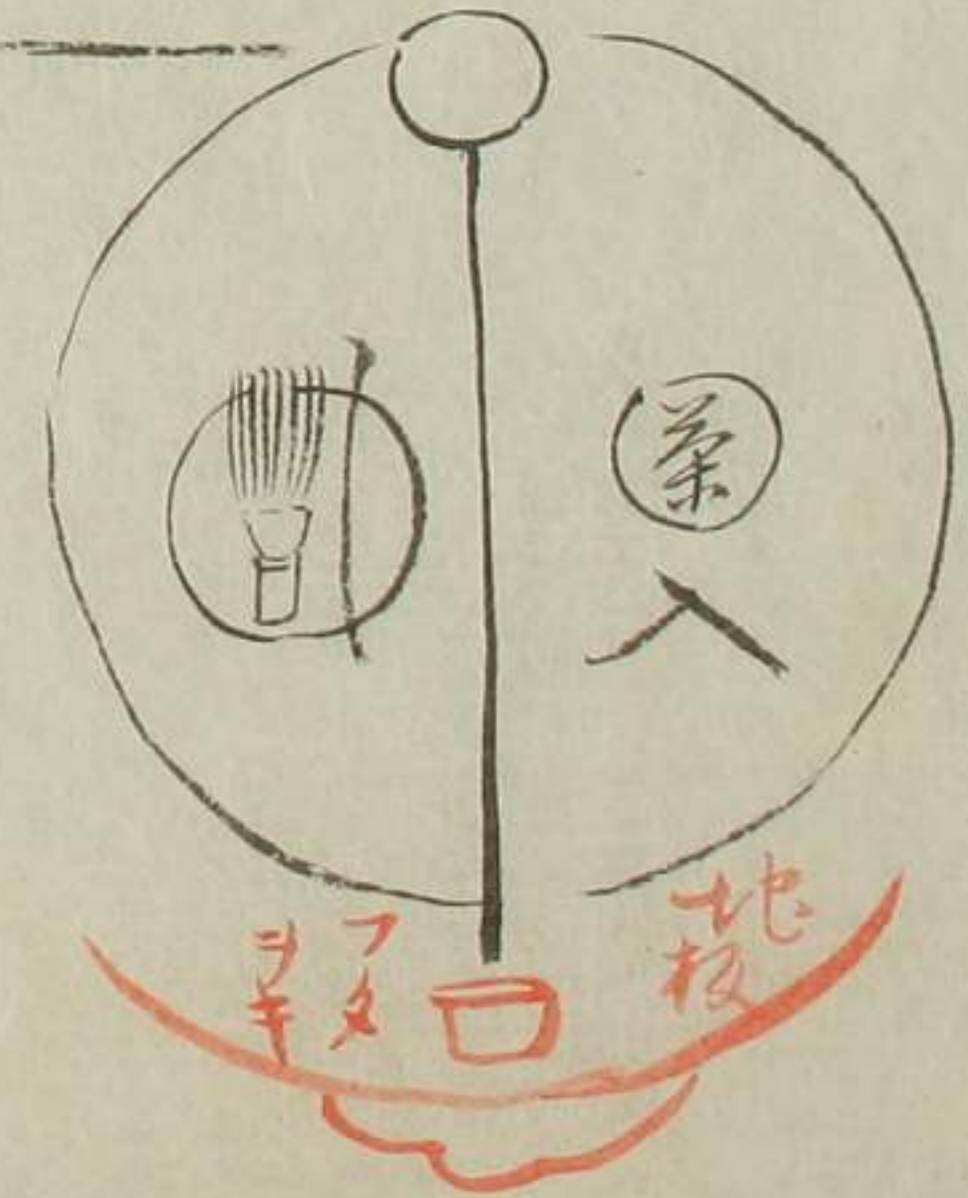
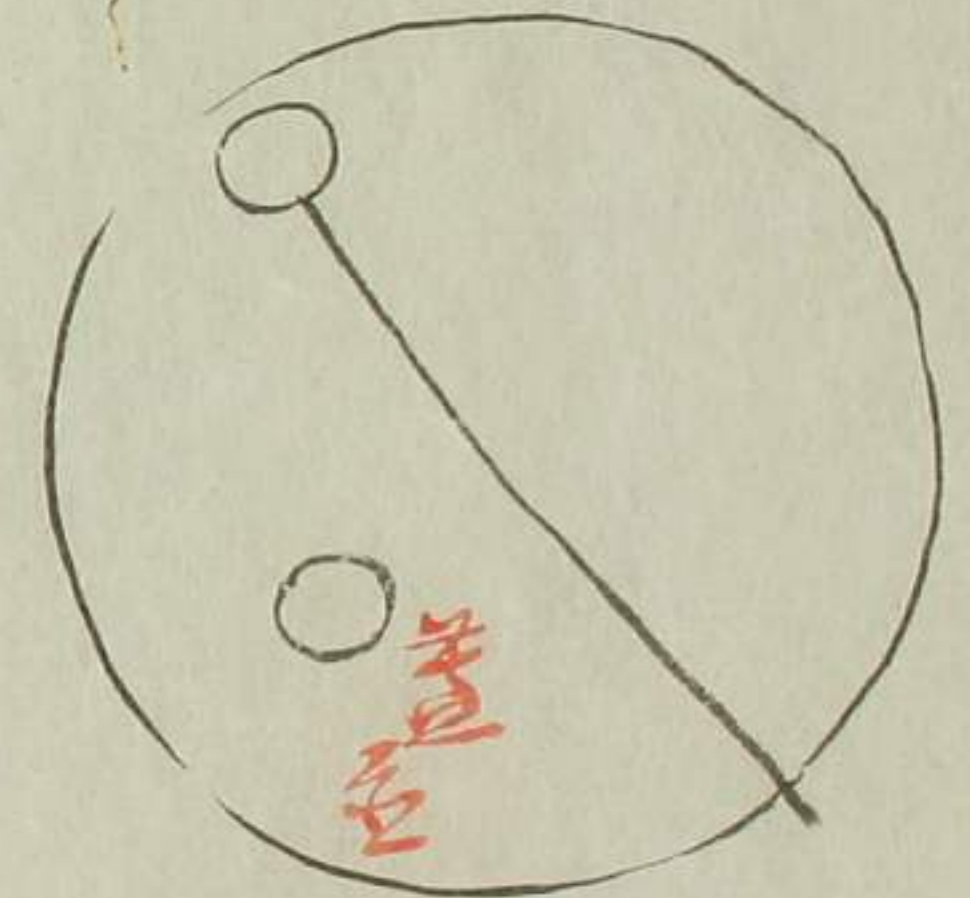
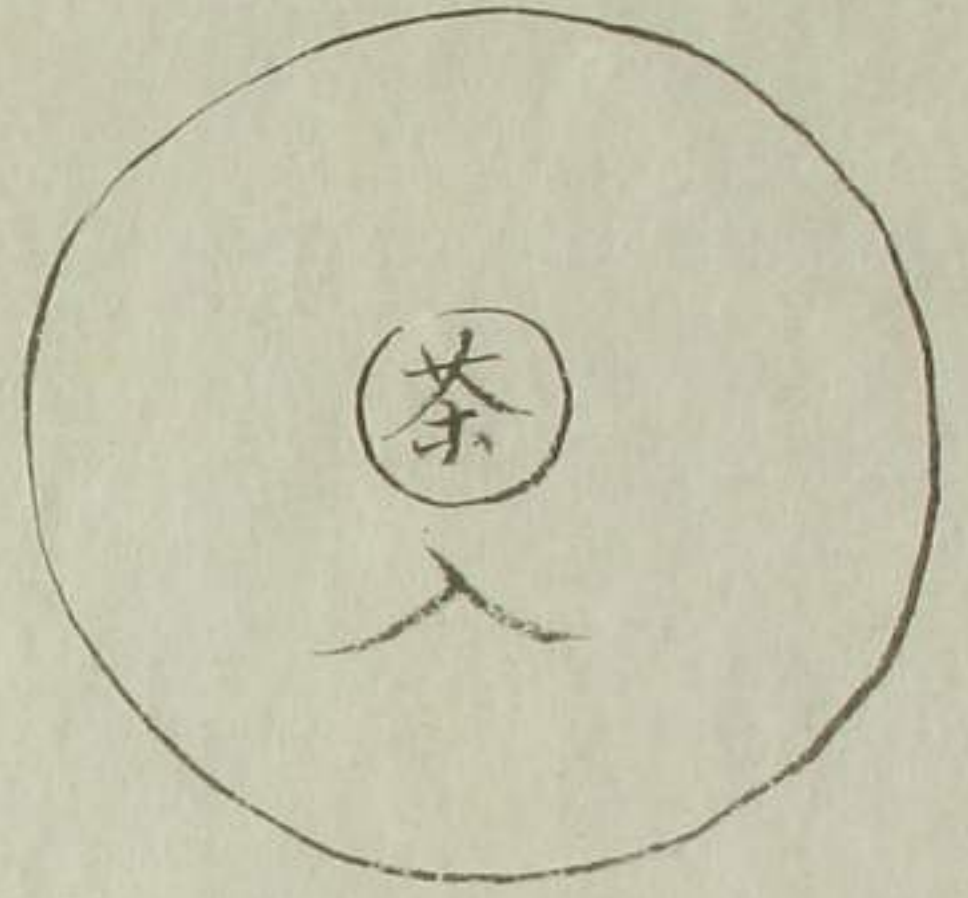
中釘 床板より二尺六寸 柱釘 床縁より三尺七寸

床角板より釘四尺八寸 掛板釘 五尺

利久好丸卓 桐



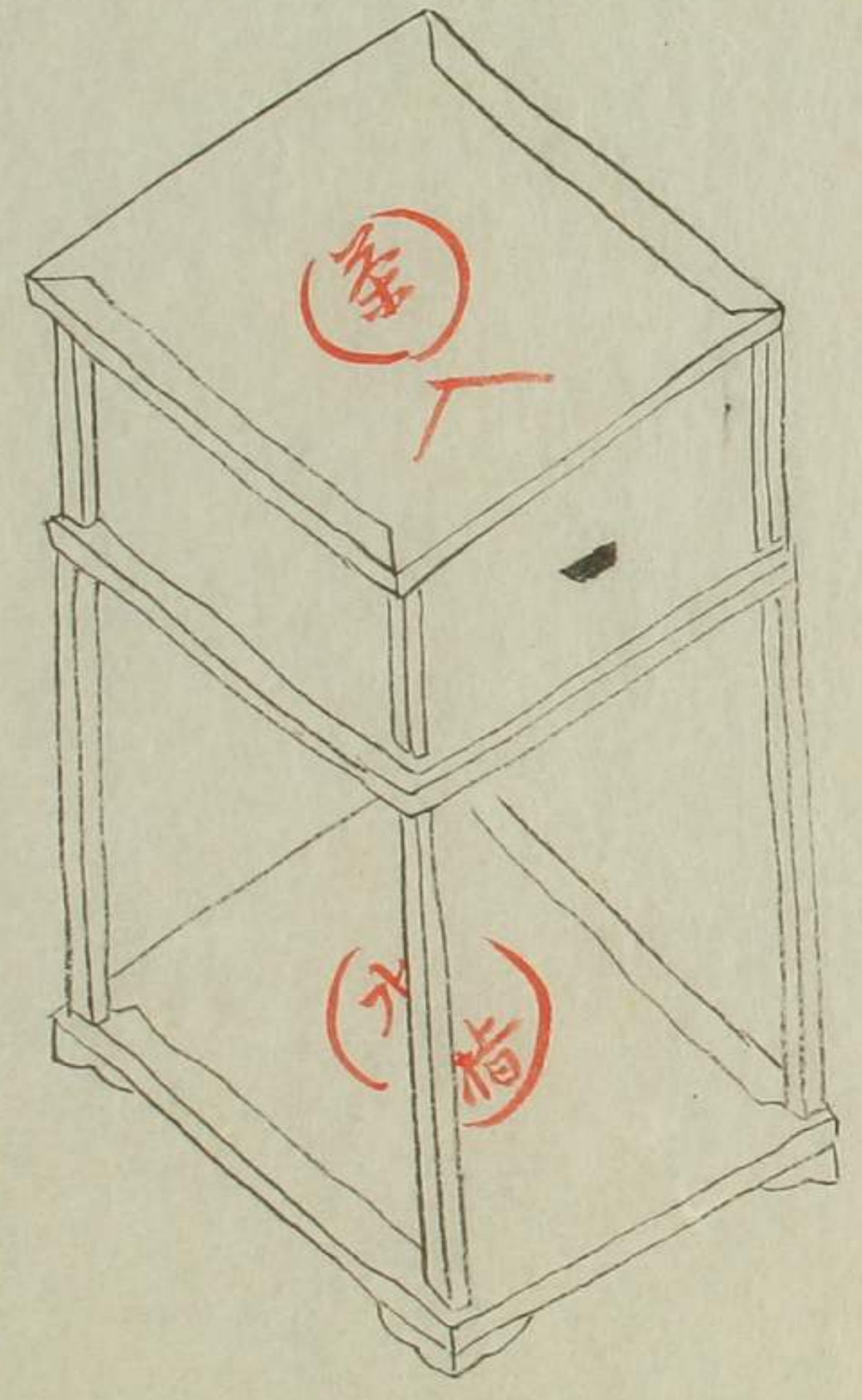
繪圖略々天井汁記



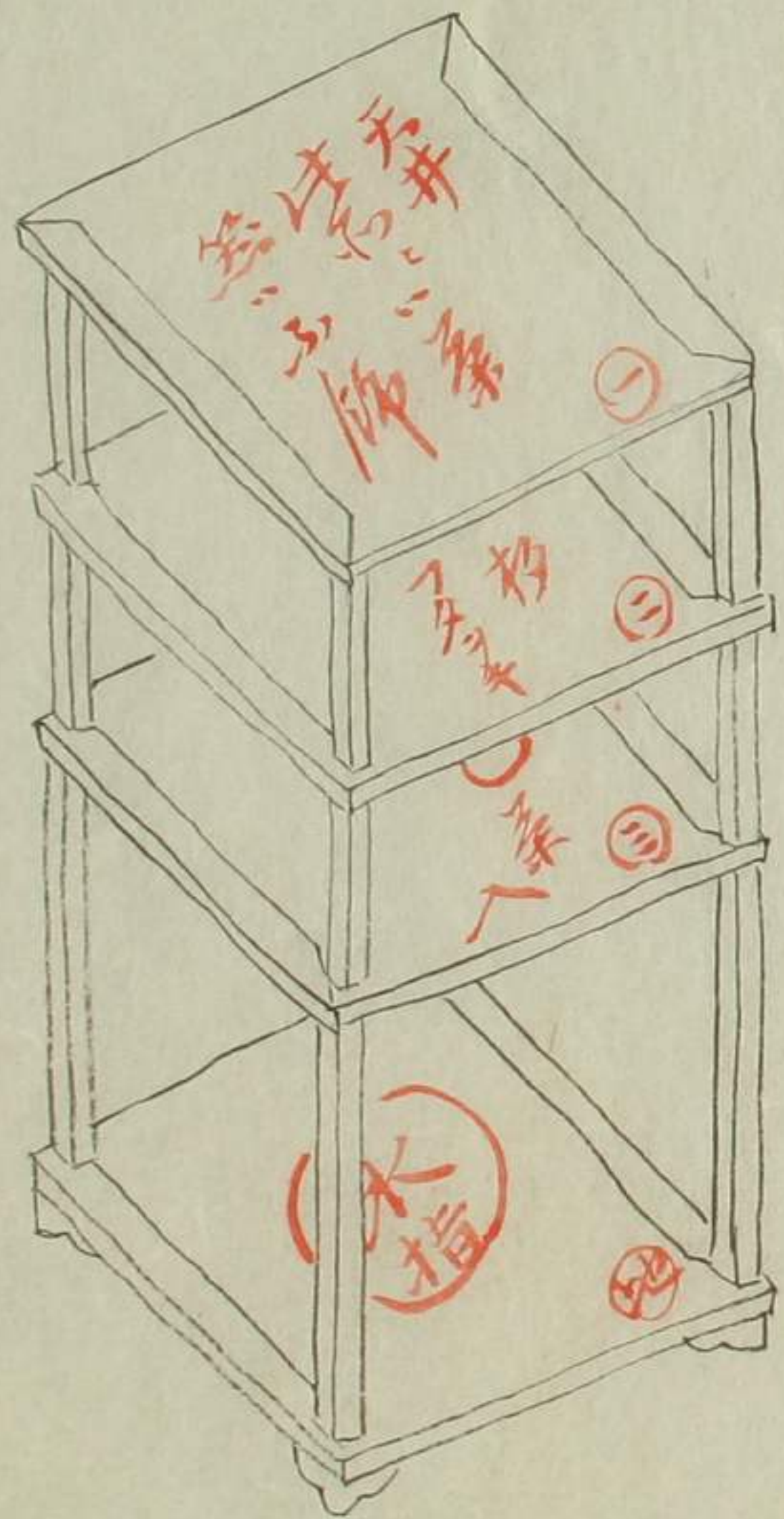
△柄杓飾り  
湯うけしき

カキコト別ハ柄杓  
フセテコト入シ蓋蓋ハ  
地板ハ杓の正ノ下蓋蓋

江岑棚 集木 寫桐



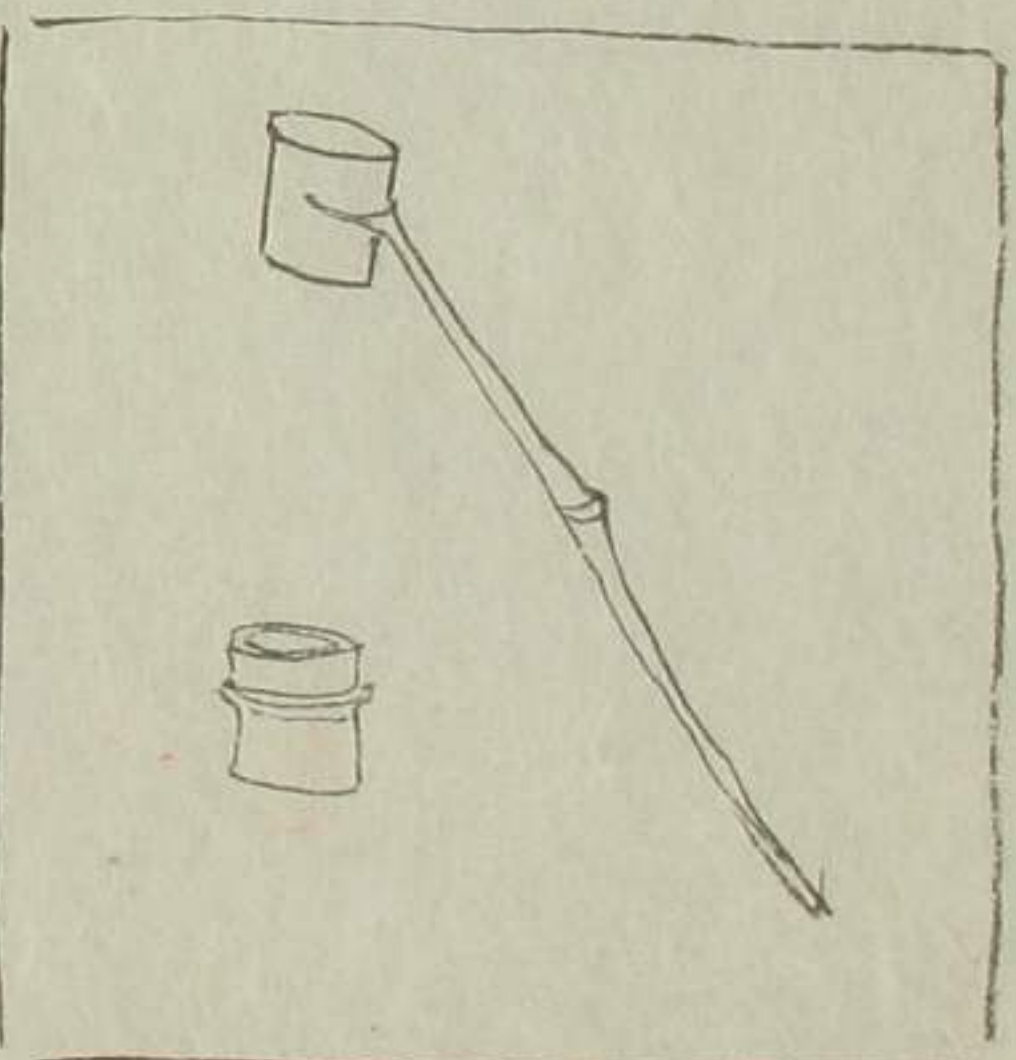
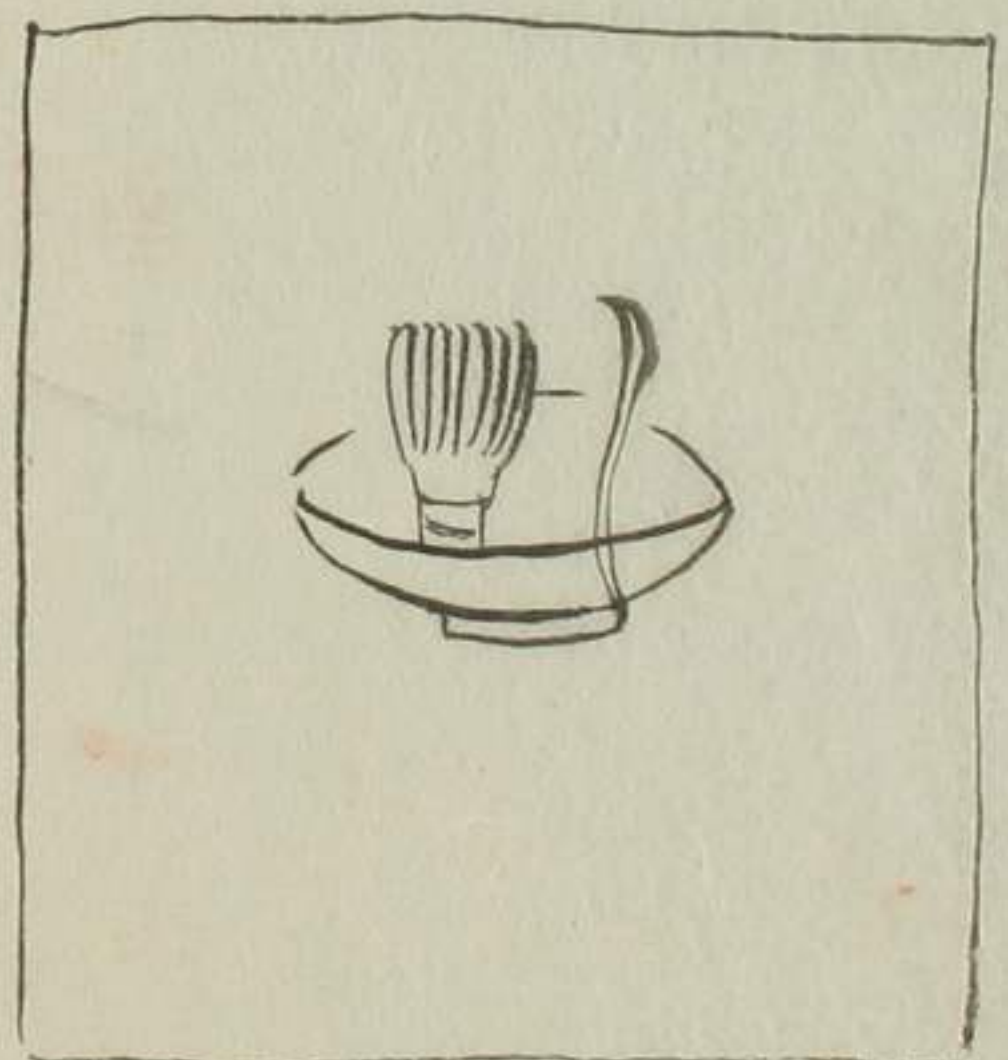
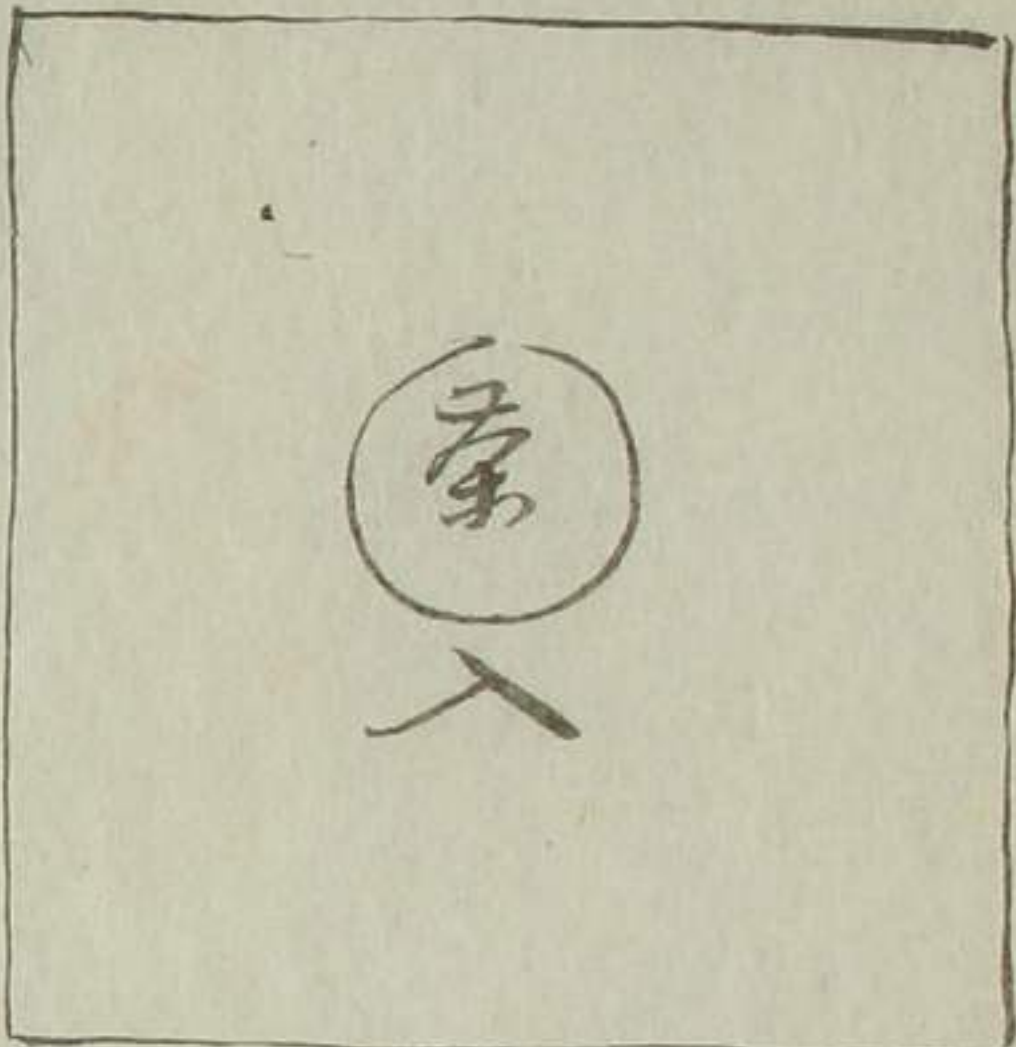
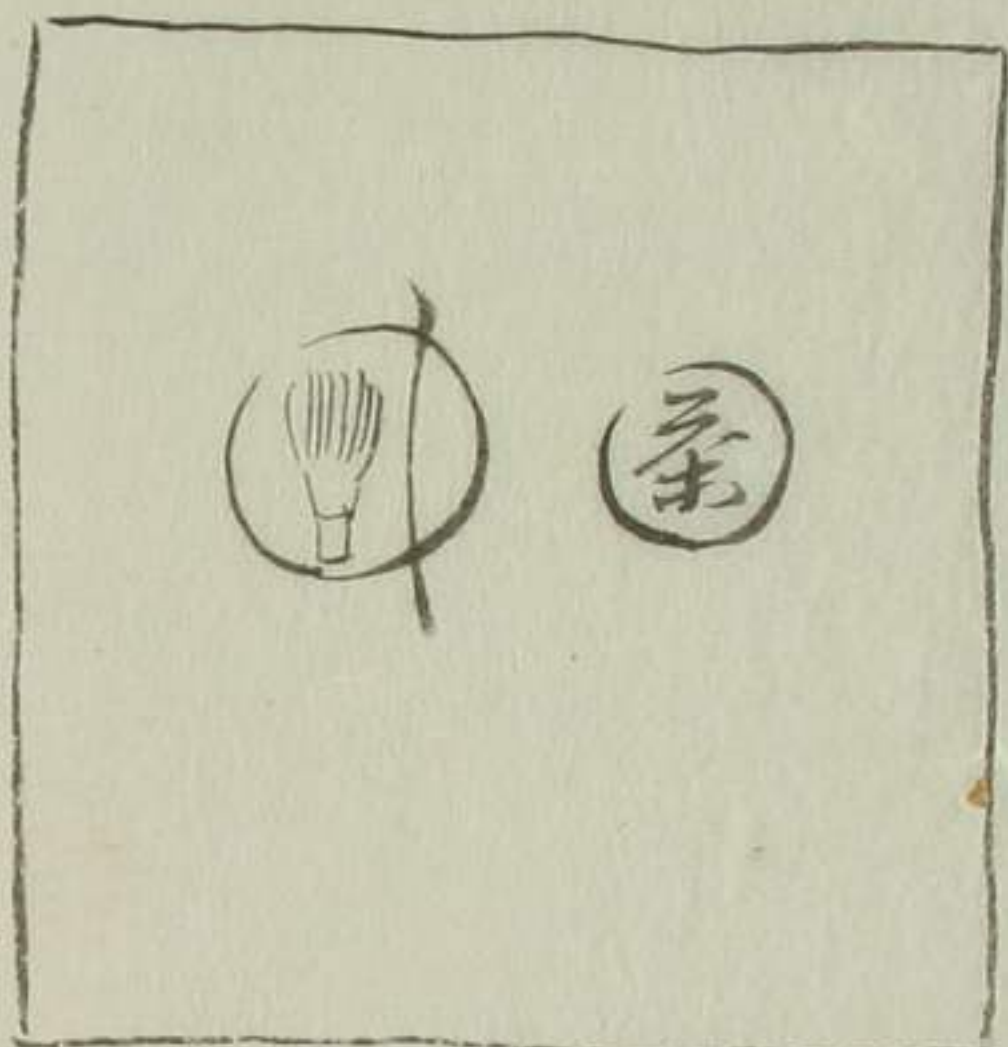
三寸廿五寸五分六分  
 上五寸中五寸下五寸五分  
 枿深一尺五分八寸五分  
 右寸廿四寸五分  
 八寸五分六分  
 柱大廿五寸五分  
 千一五分  
 口長廿五寸九分  
 寸廿三分



三重棚 素

覚：齋  
 力心齋  
 一閑張

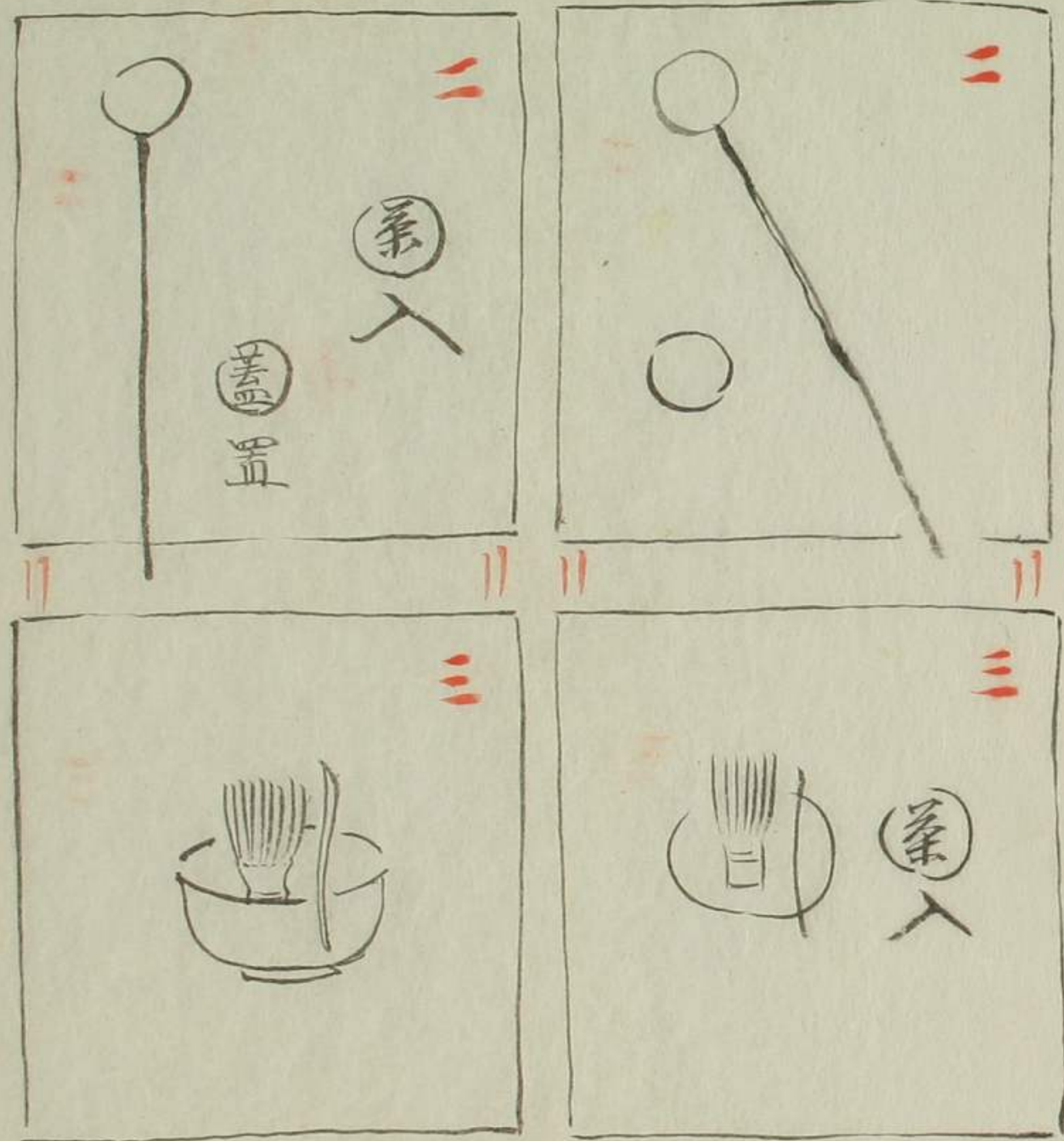
繪圖  
 天井  
 の飾  
 中記



△此竹極々  
 引出  
 素入

△引出  
 素入  
 何素入  
 時

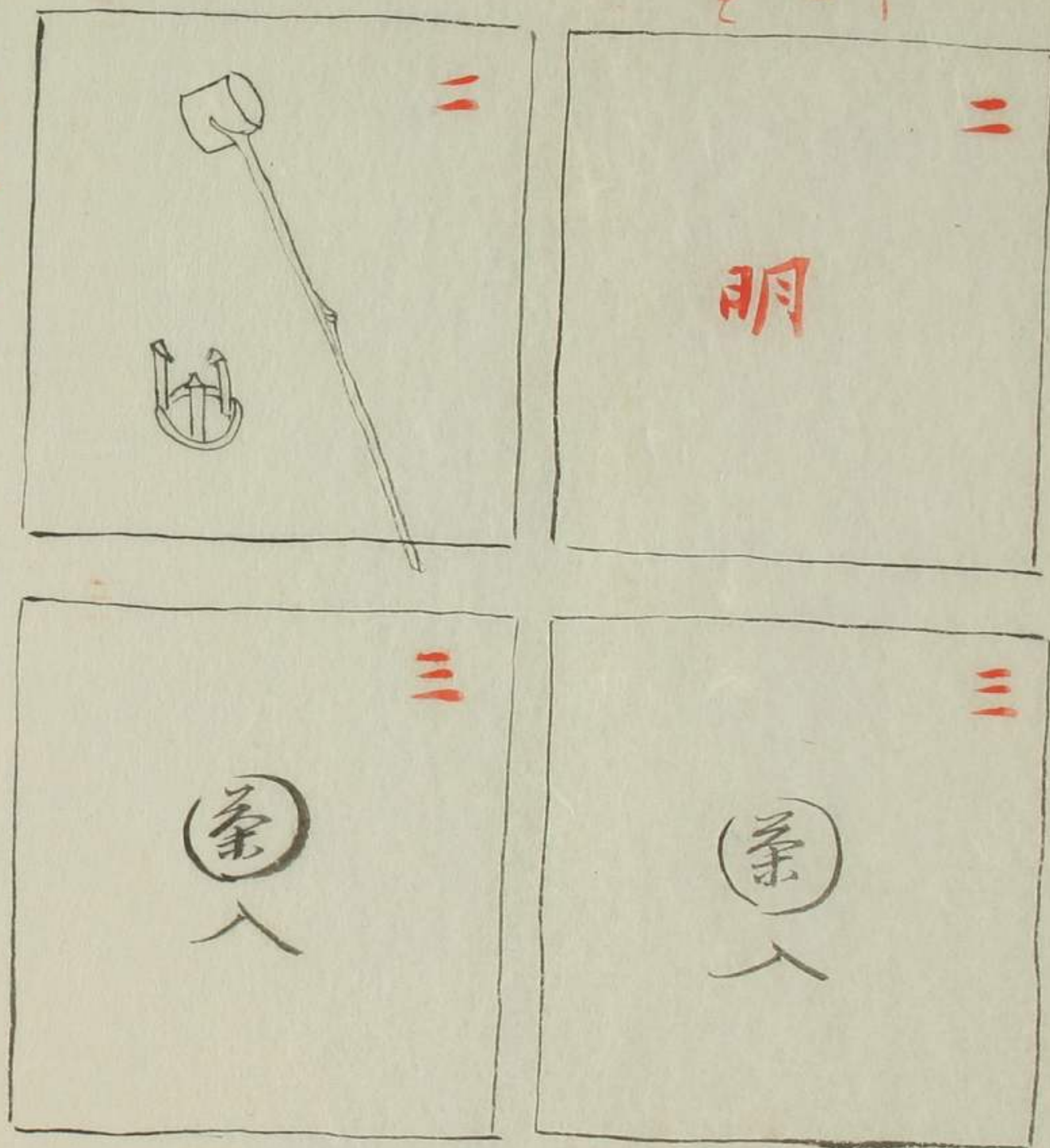




茶碗飾り  
極下柄

五井形  
丁二重  
目録記

板三割



地板畧

は時との柄  
飾り

三重棚と并飾品

炭汁

花入

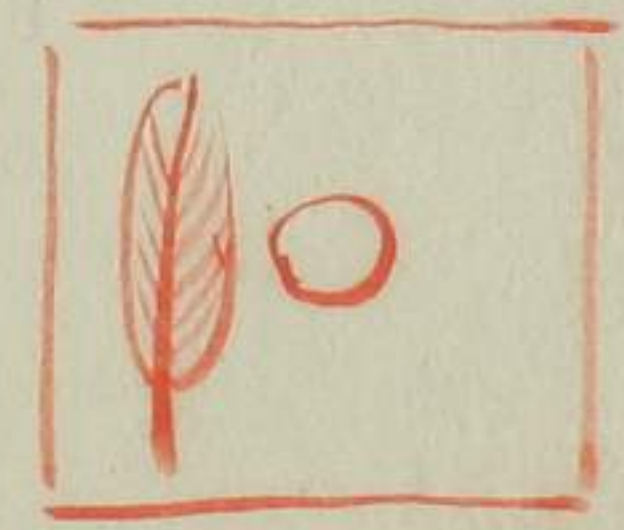
香合羽箒

香炉

料紙硯笥

石五通

○飾品と香合飾品は遠可飾



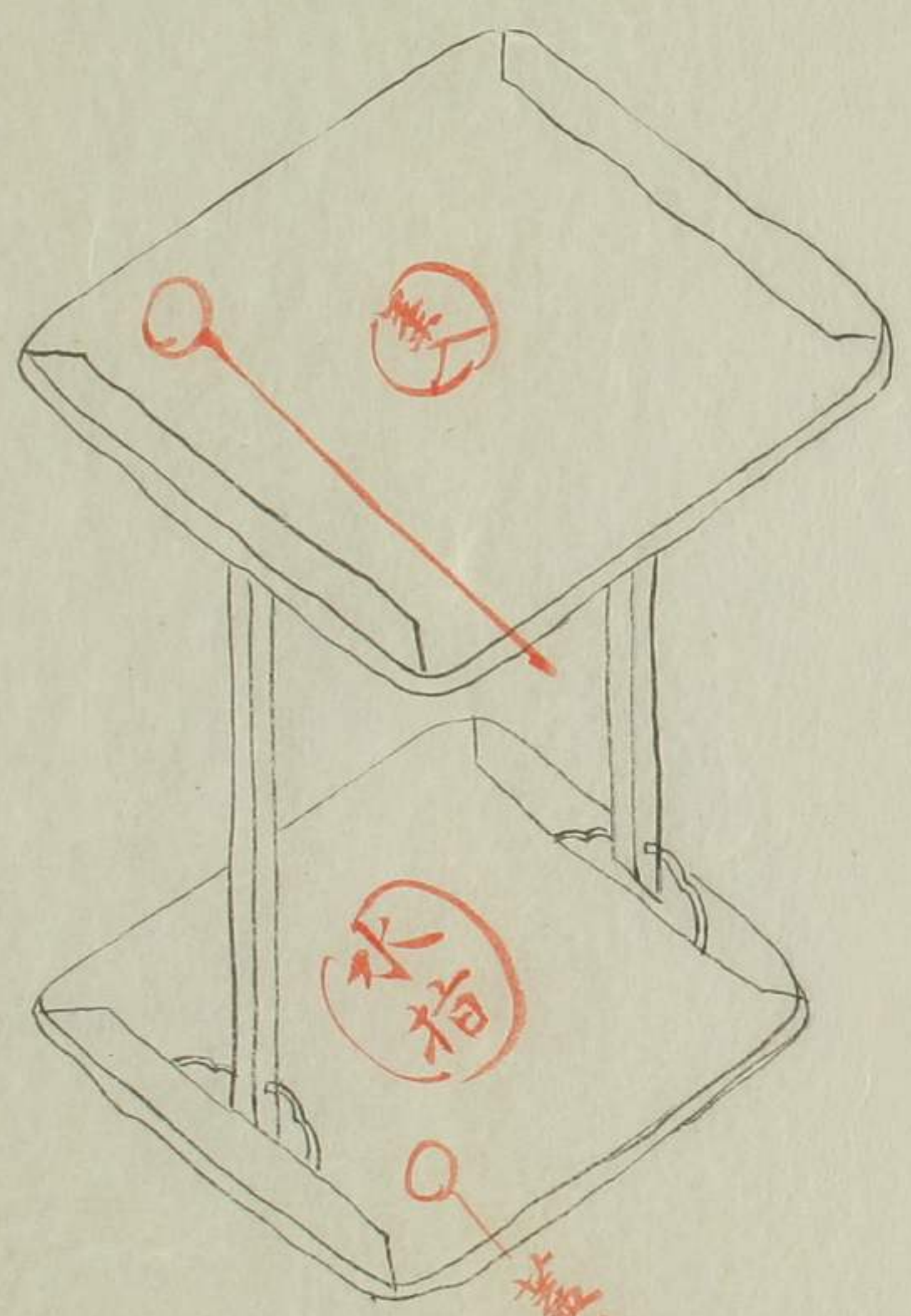
相の廣き  
方に香合  
を飾り



香合と  
飾り

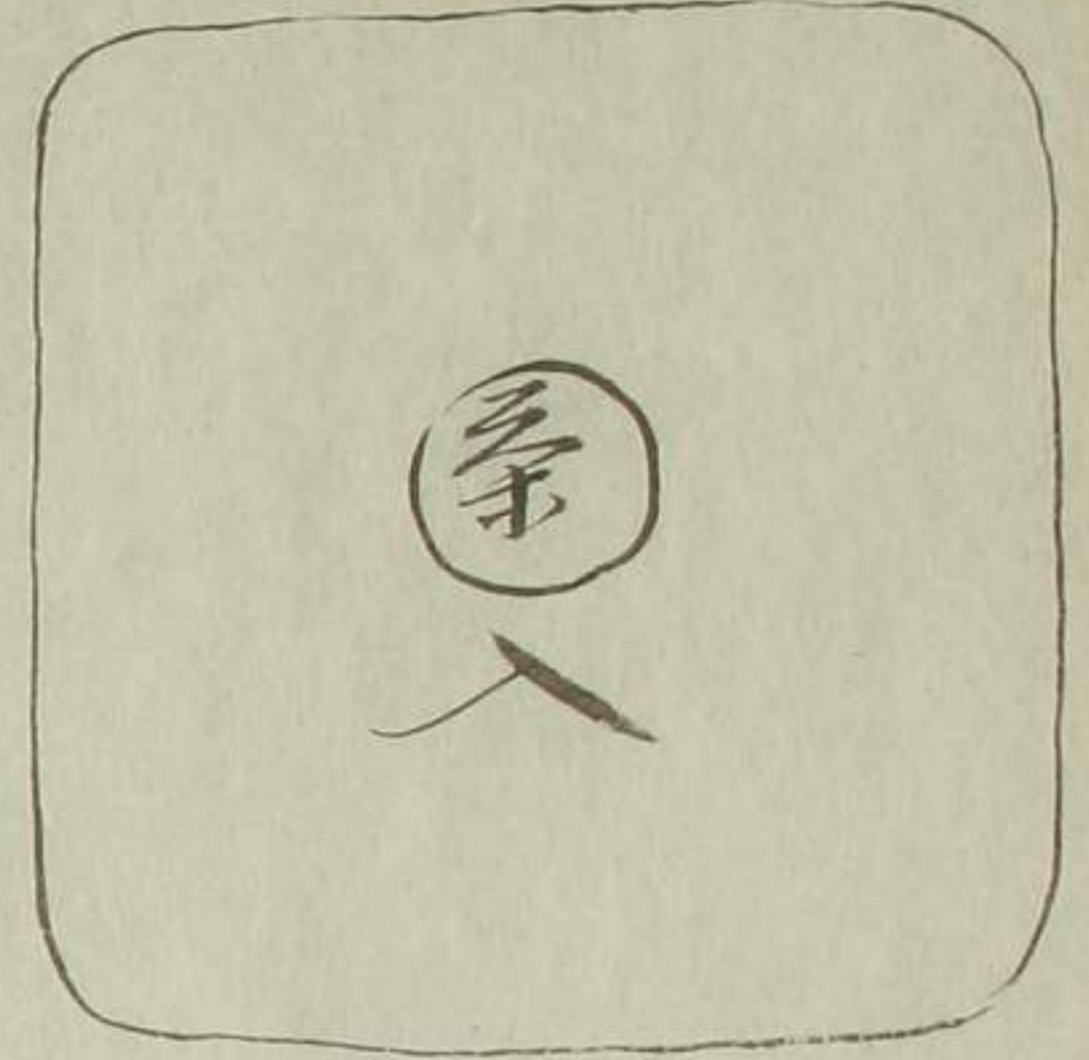
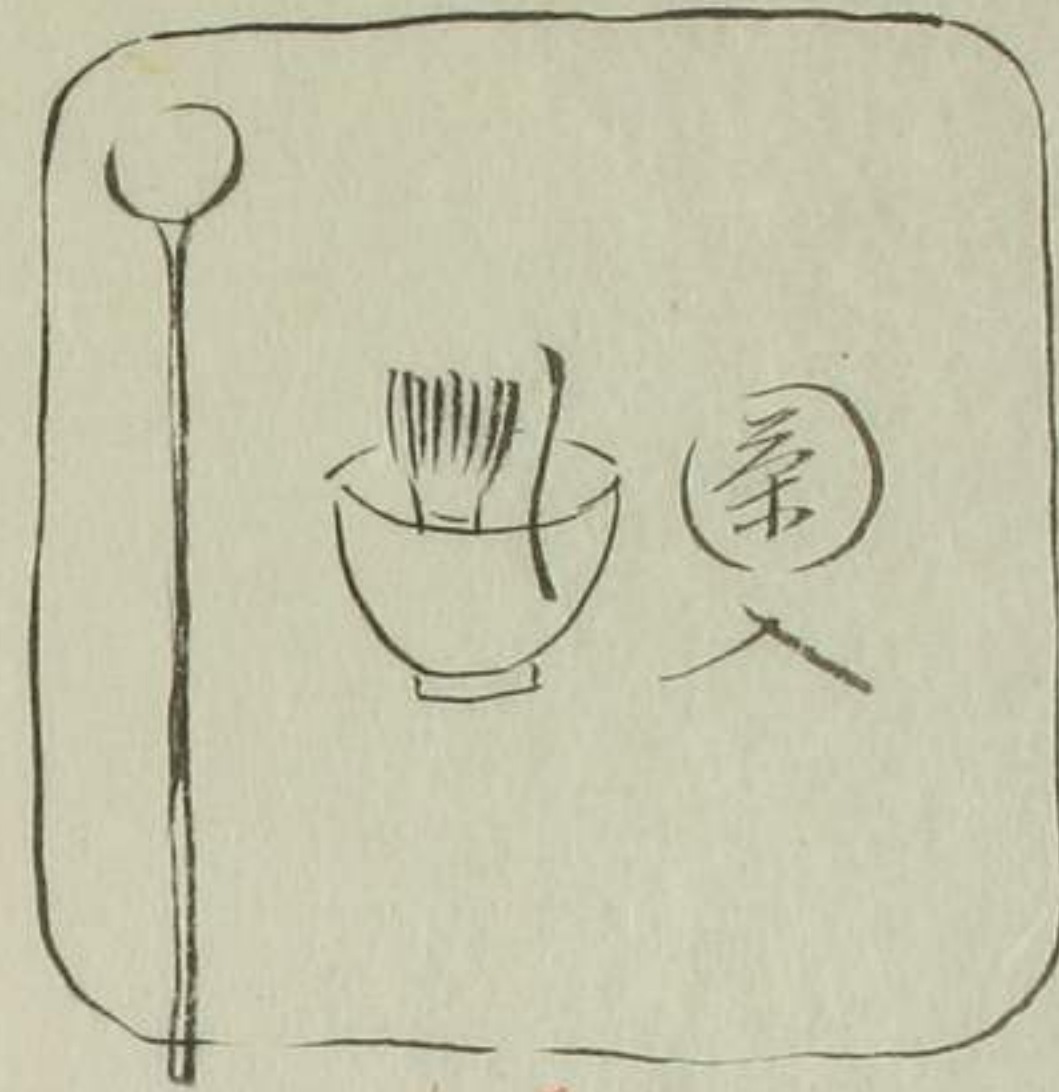
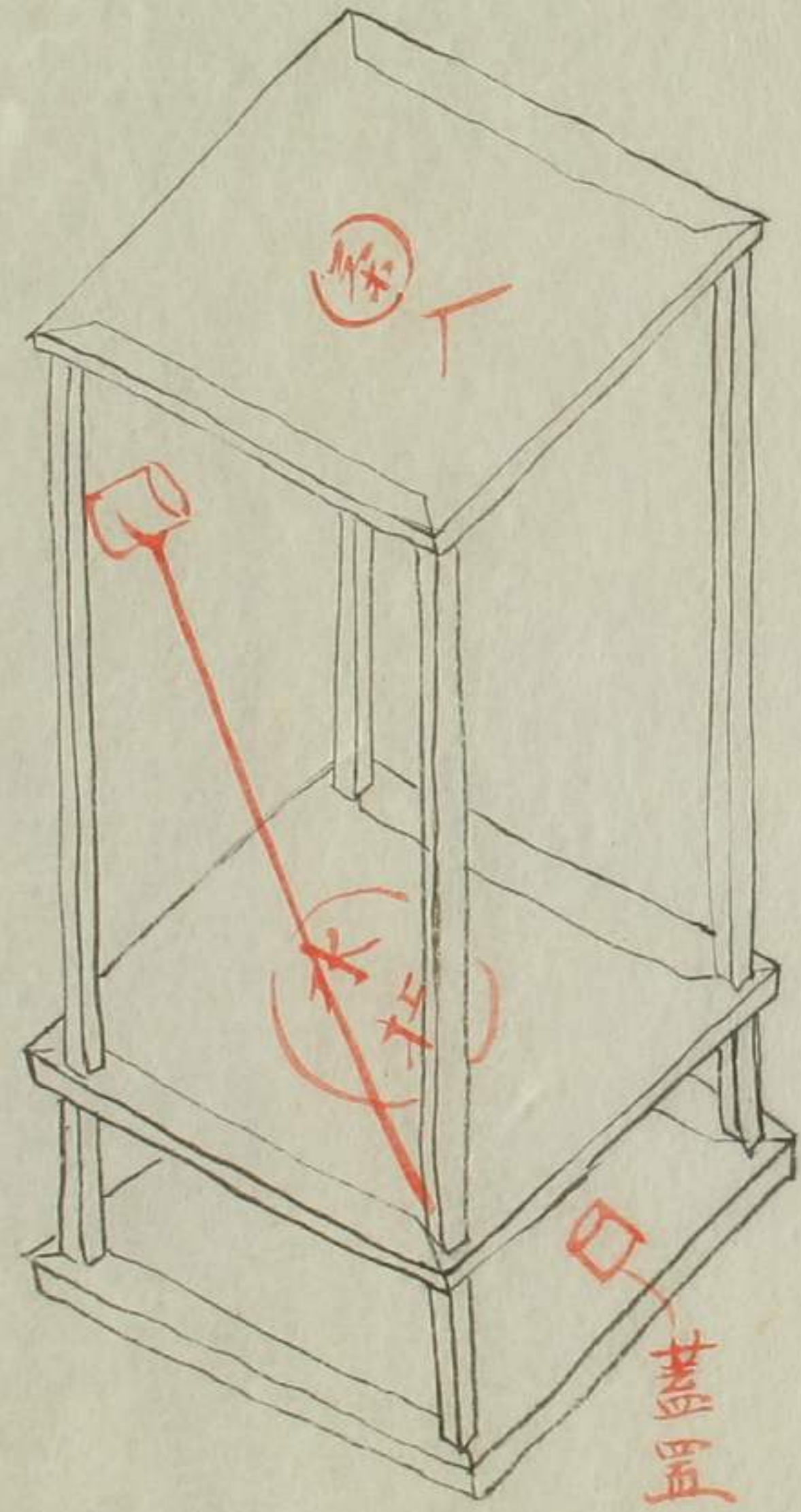
四方棚

○角棚は目移し物有る

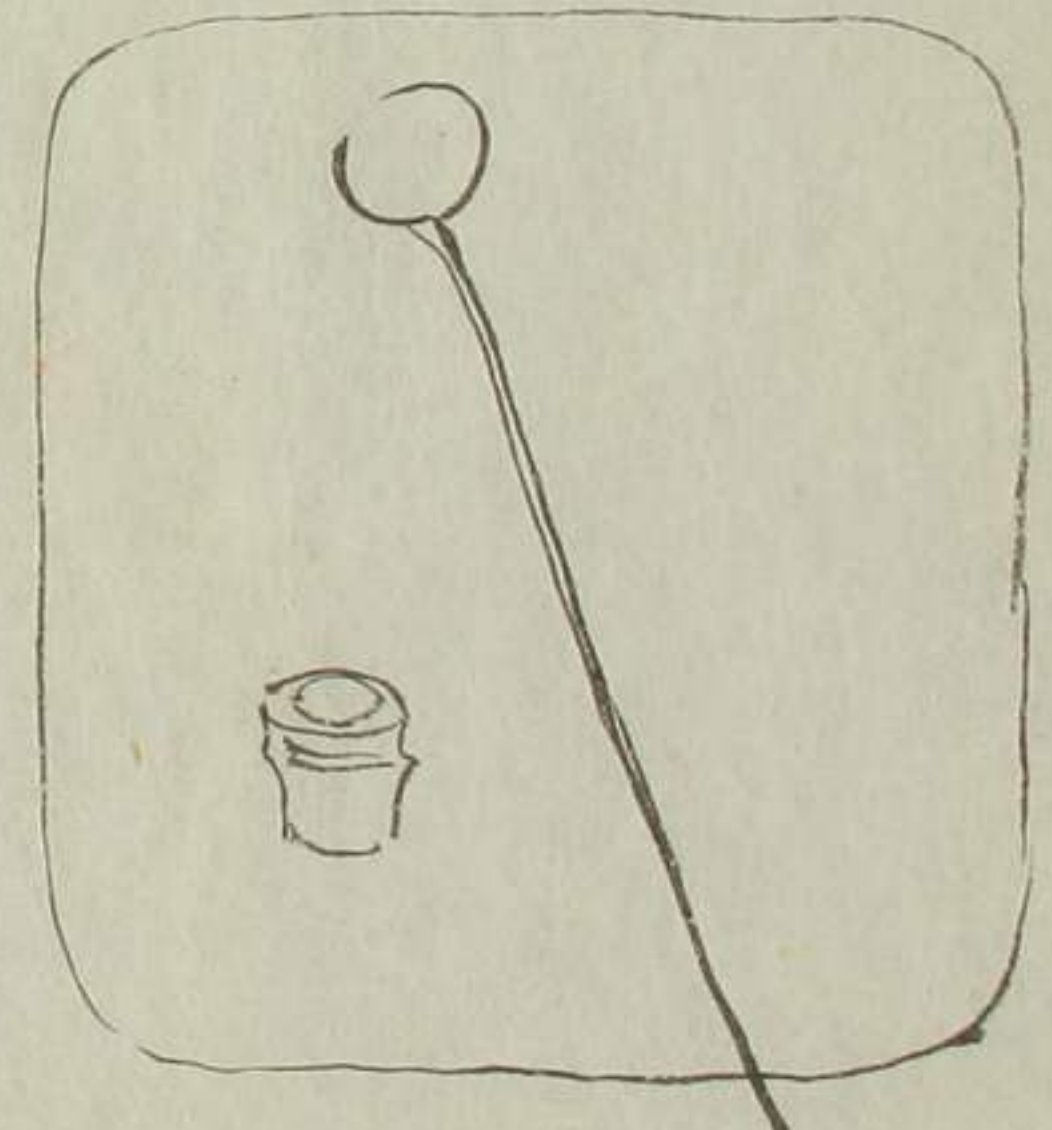
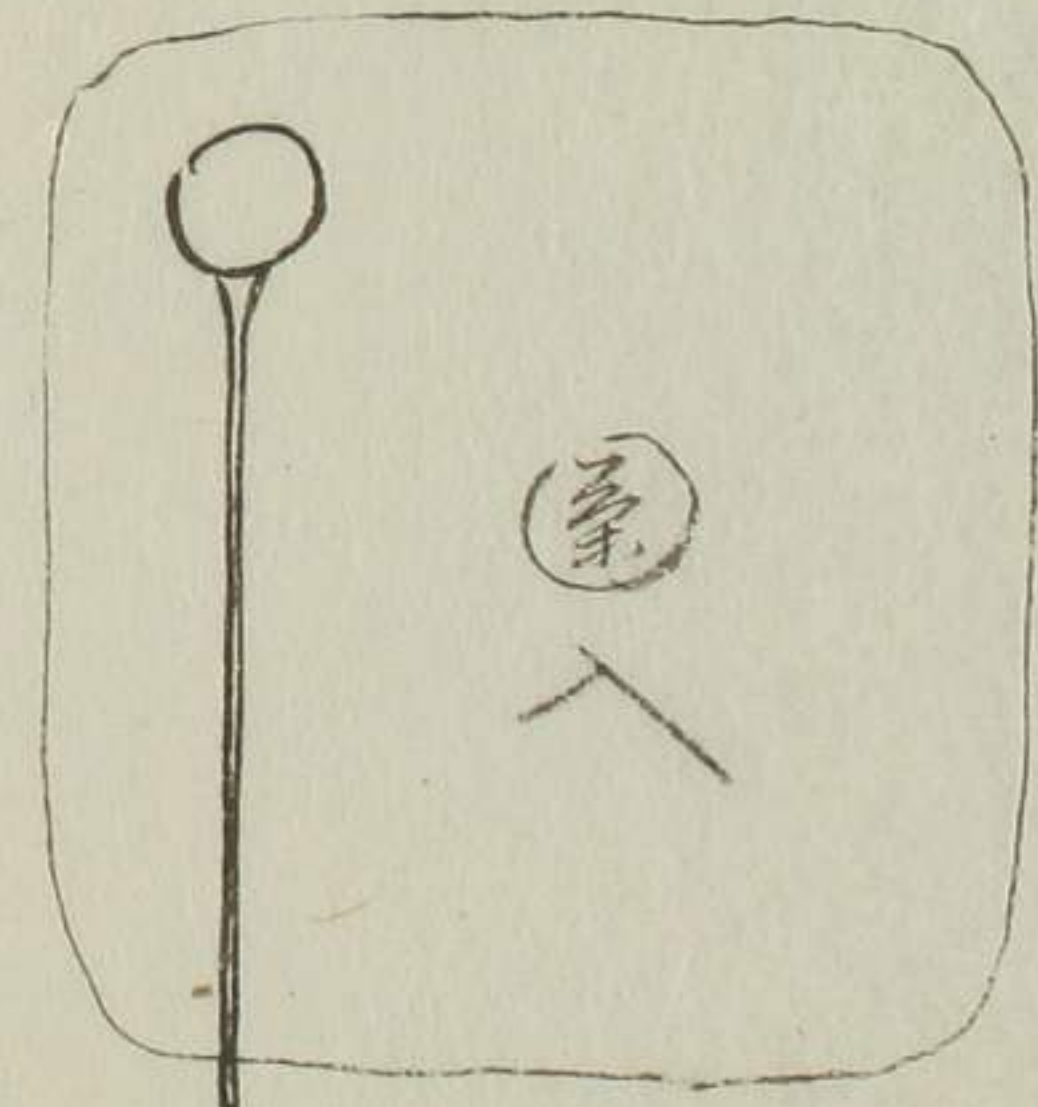


香合

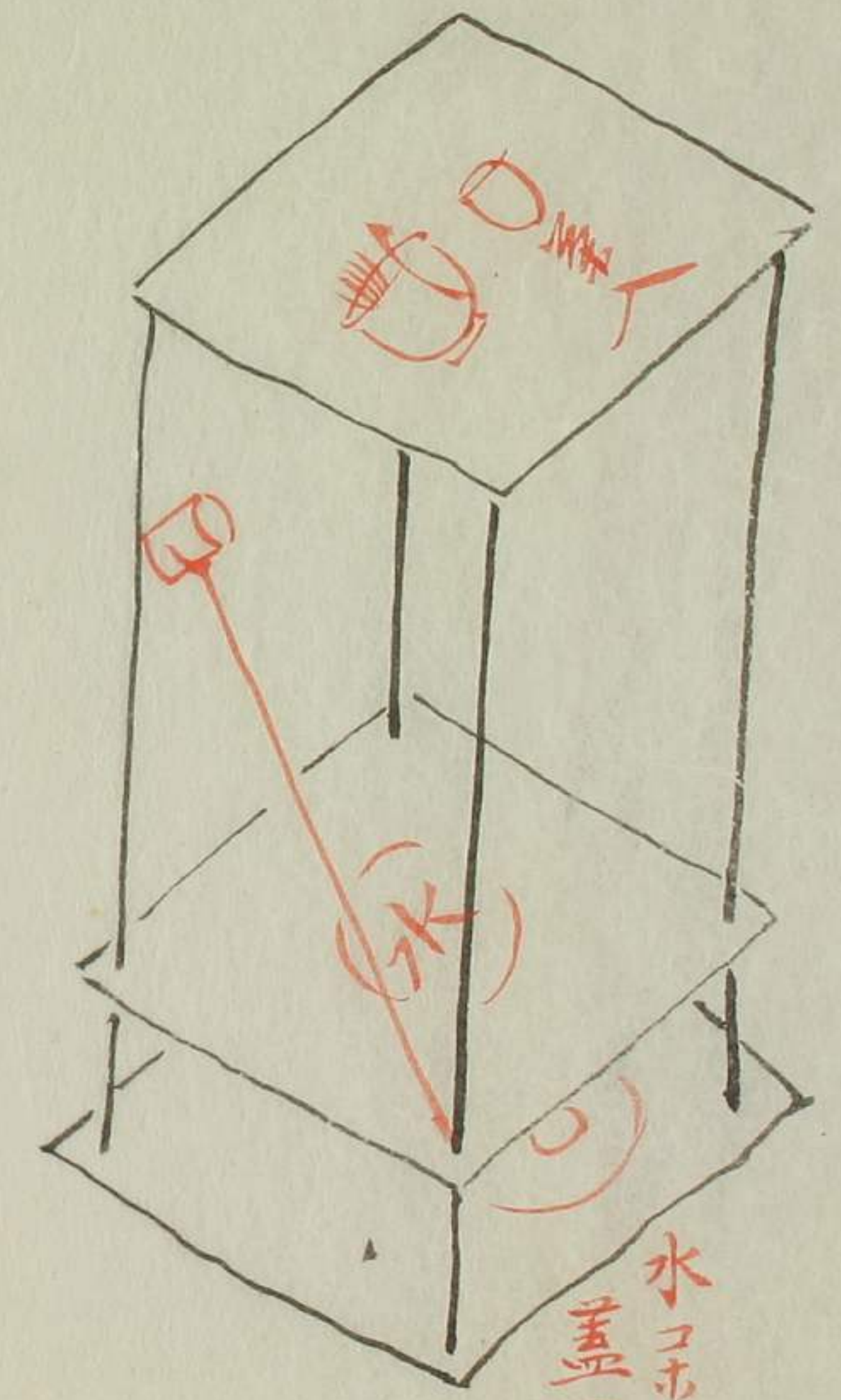
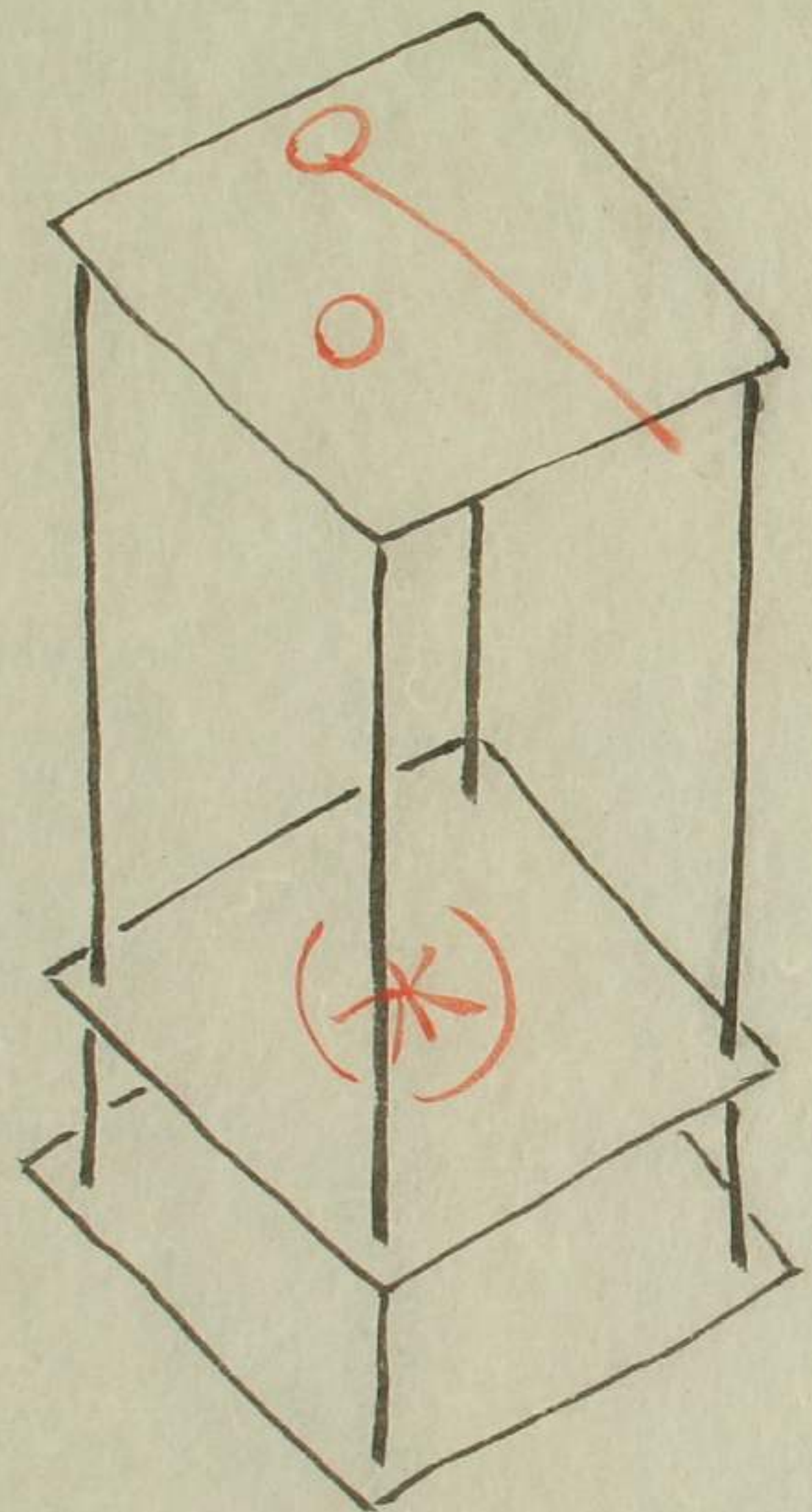
# 茶小卓



茶  
丁  
置



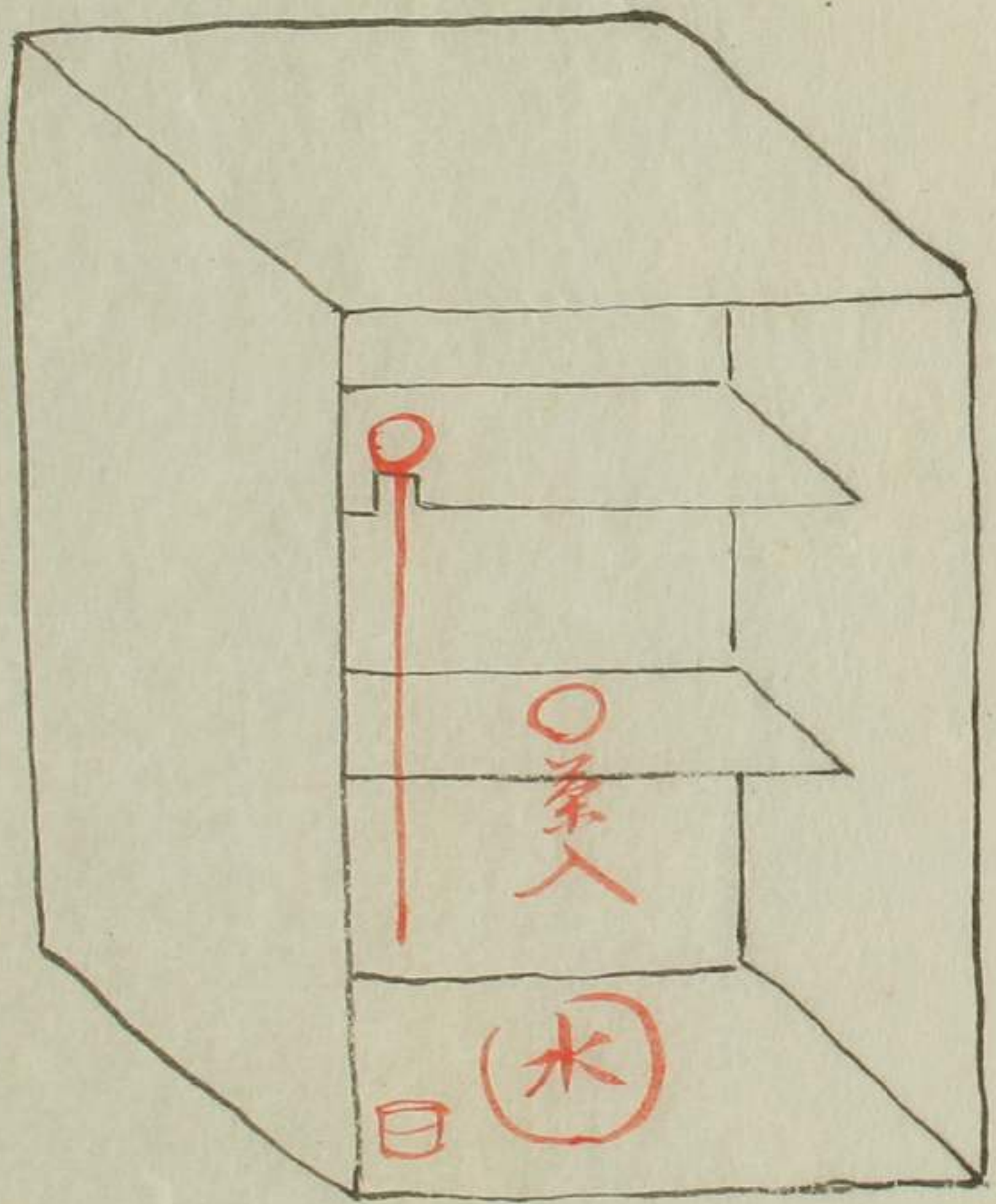
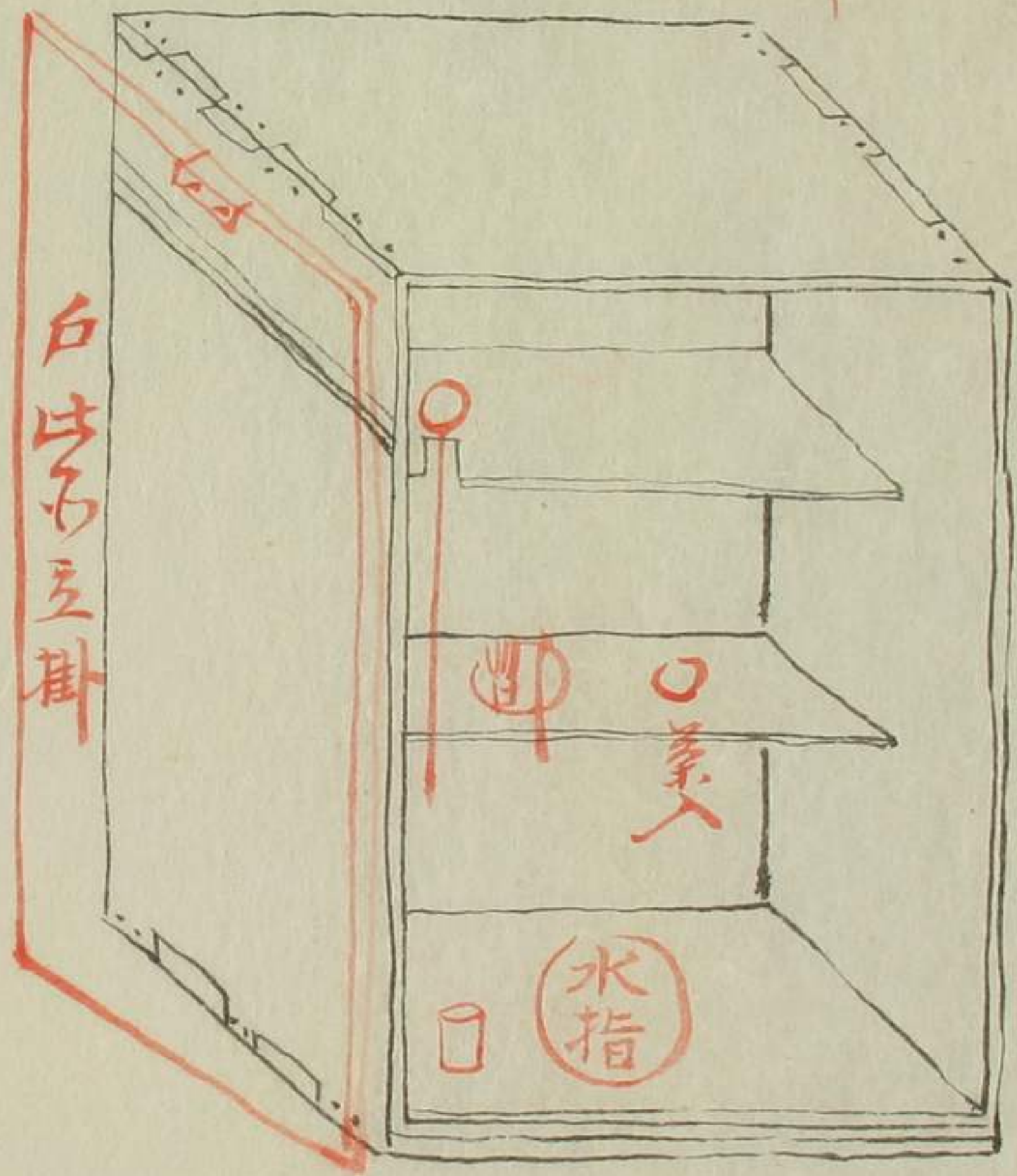
茶  
丁  
置



水子ホシ内  
蓋置仕込

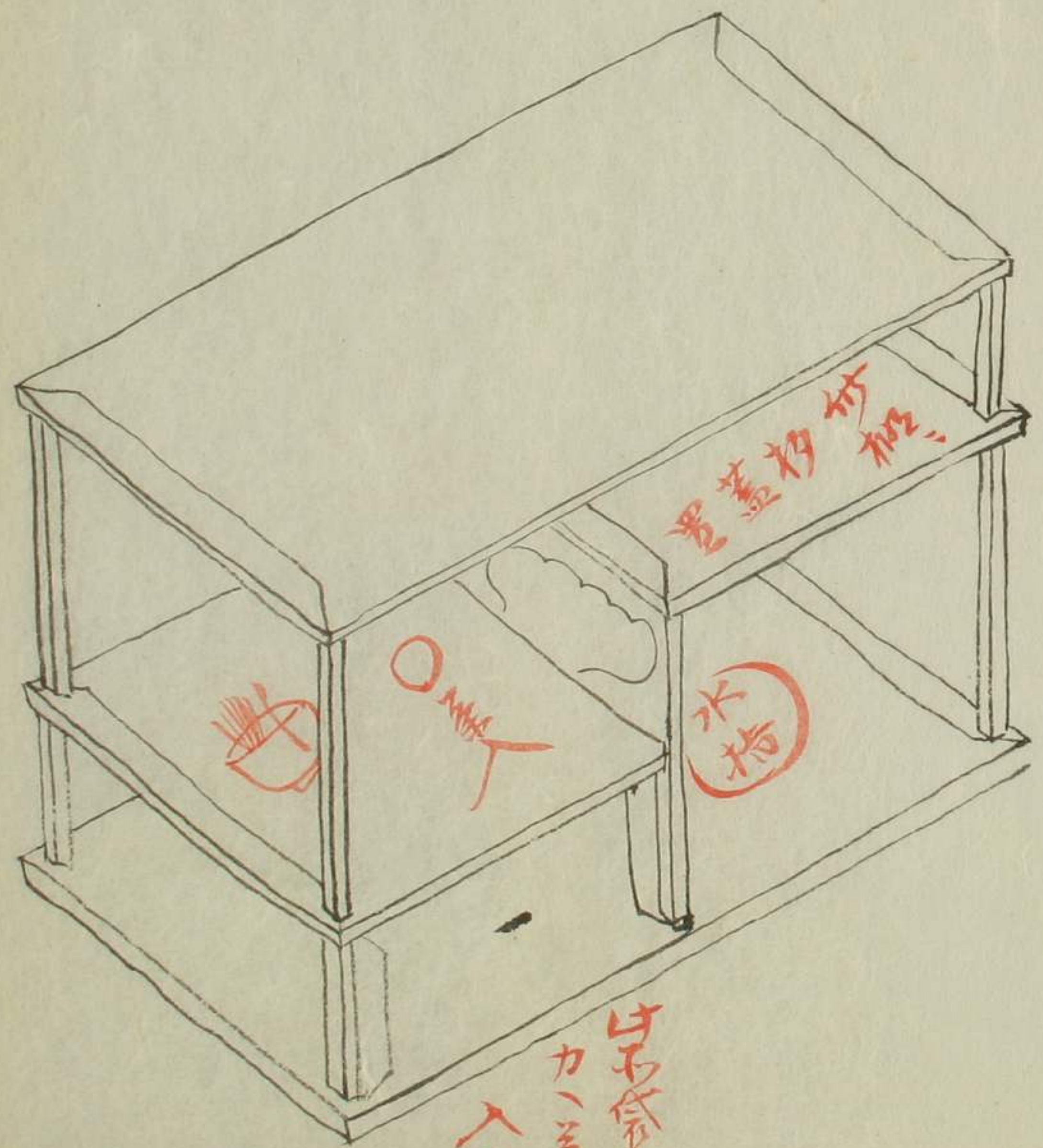
旅草笥 桐

点方水柄虫汁両手にて  
 出さ夫より雨笠をある  
 草草をさき舟柄杓をね  
 例のやくり  
 仕旦の例も色仕旦も  
 柄杓を圖の如く掛蓋  
 蓋を飾り蓋を上げ水  
 柄をえのめく入戸を  
 ノッはーと持入る  
 此條の飾り  
 考り知



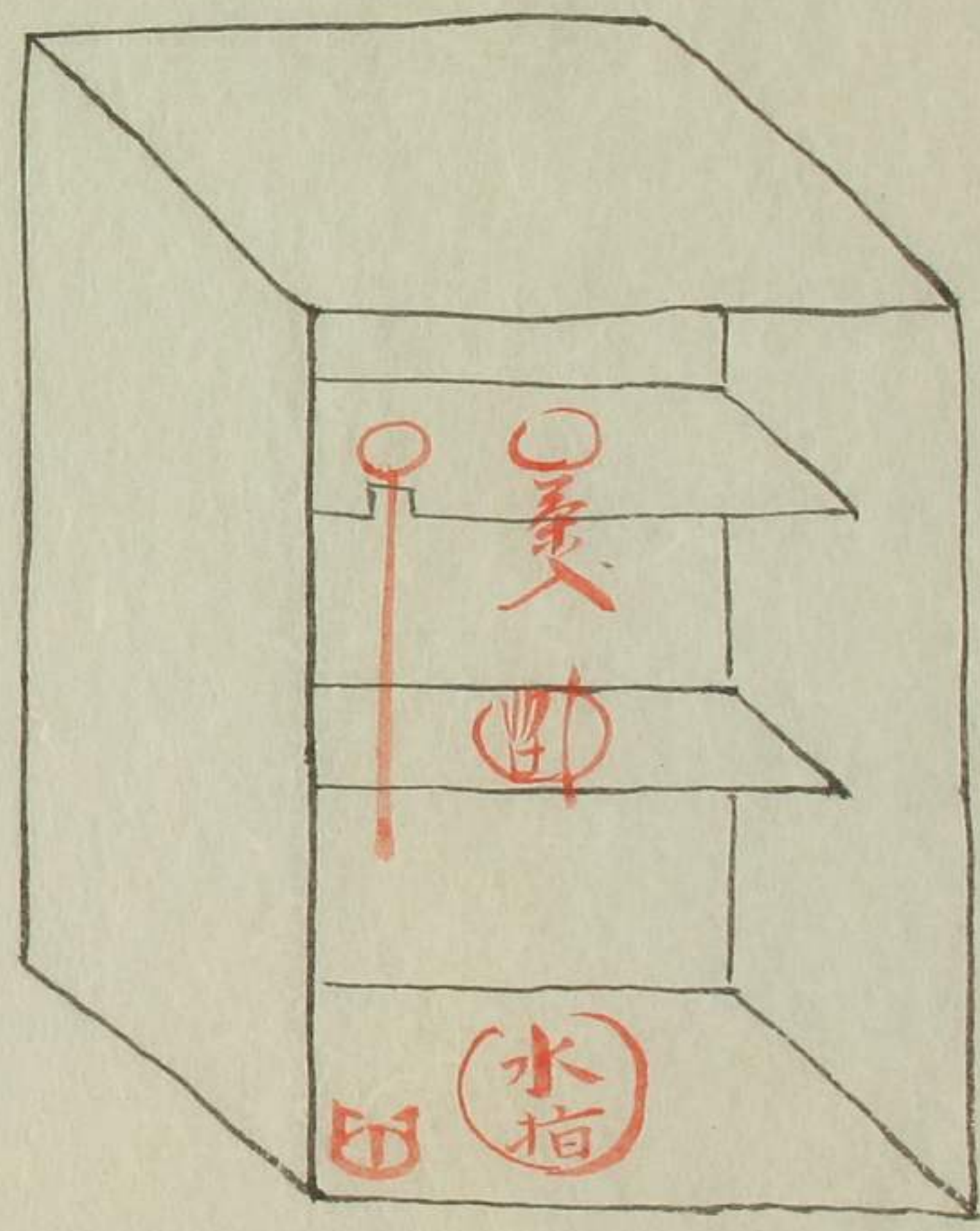
与方寸事  
 炉之汁用

袋  
 棚 桐

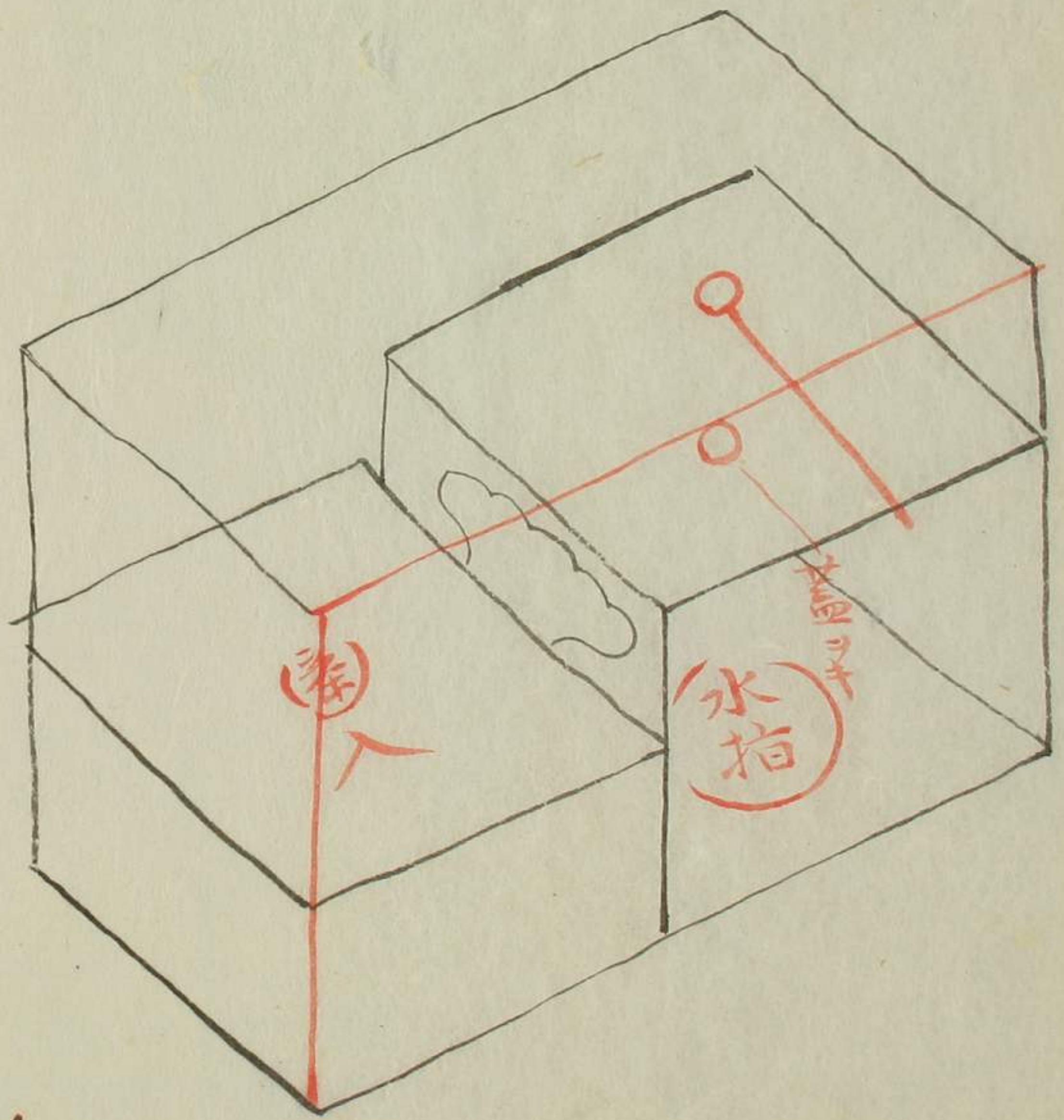


与方寸事  
 力之  
 入之

- △天井飾品
- 香合羽箒
- 花入
- 香炉
- 炭汁
- 料紙硯

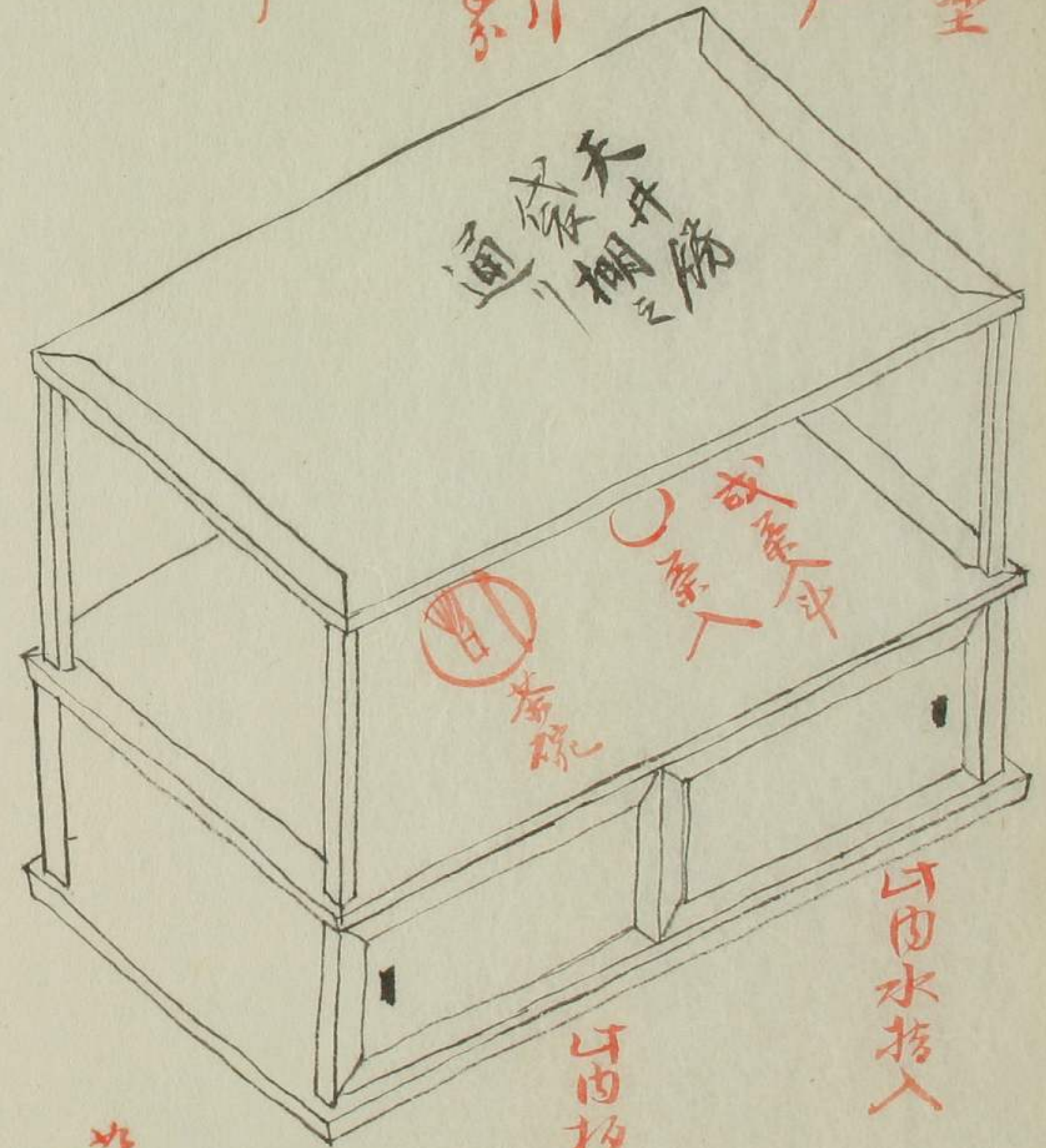


○天井飾品  
 ○花入。料紙硯。香炉  
 ○炭計。香合羽幕  
 ○袋戸之内  
 ○替茶座。又替茶入



紹鷗棚溜塗

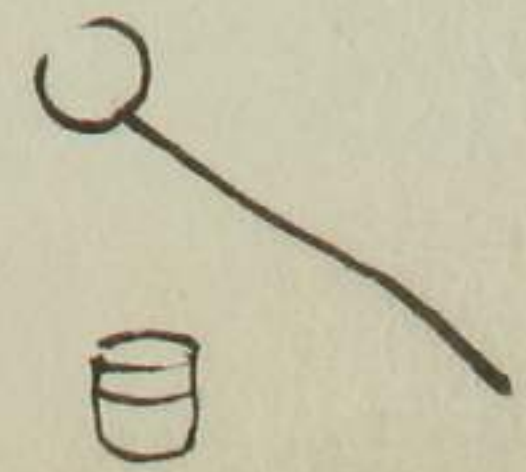
馬方先左方引戸  
 を取初蓋を  
 持出と海一の  
 内り使たまう  
 戸を右方引  
 戸を水扱を  
 程引中を  
 夫の上の蓋を  
 下飾付たまう  
 等と也



水扱入

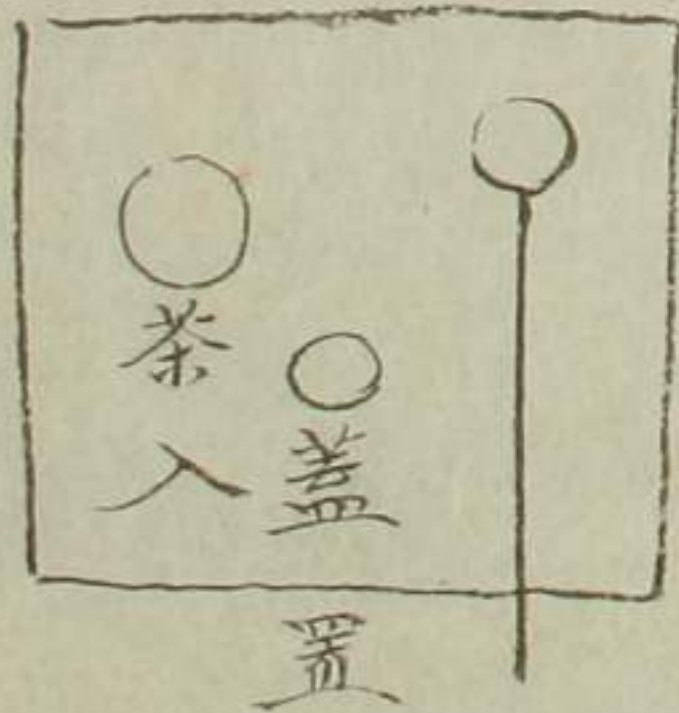
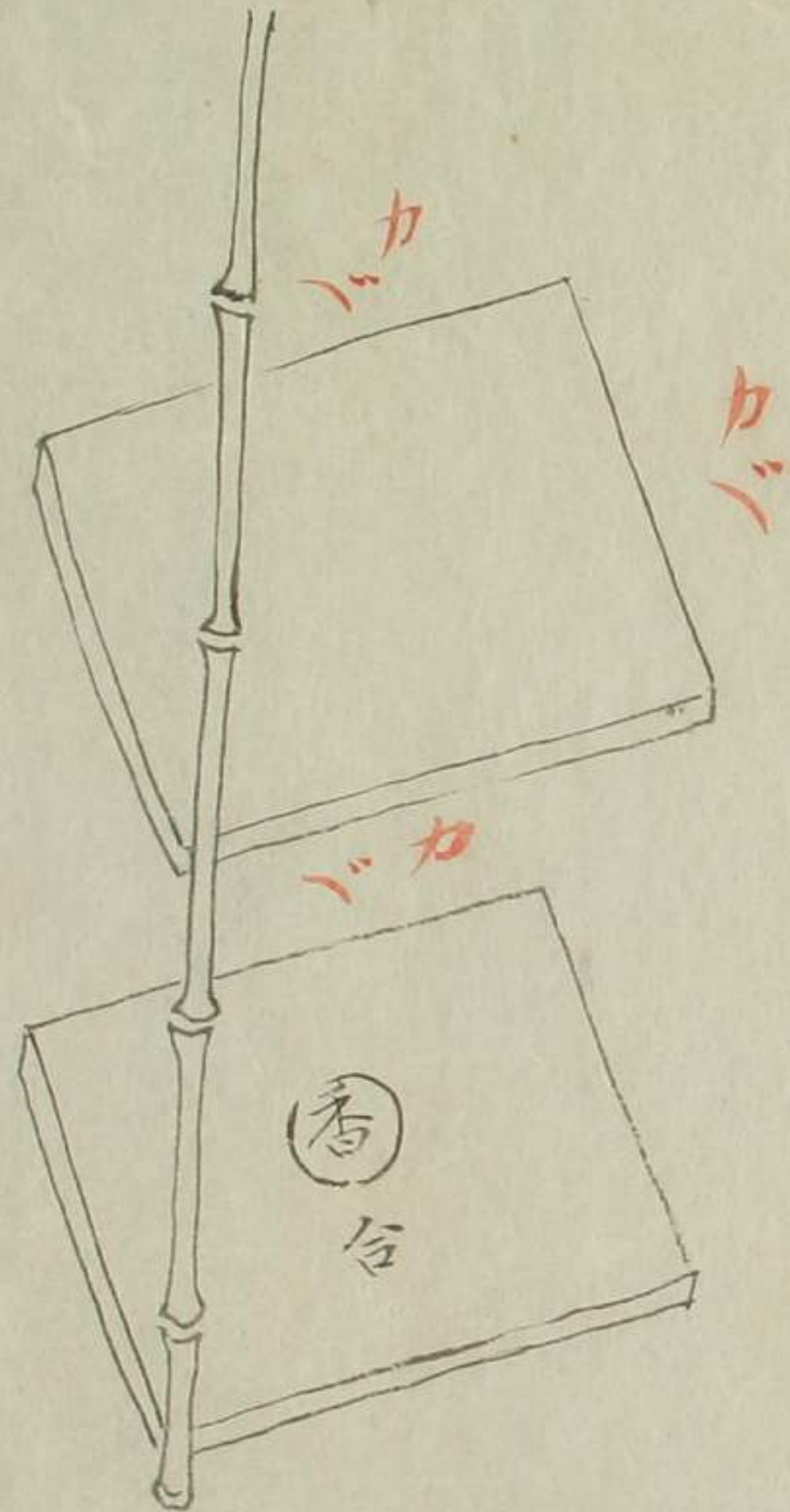
巾箱蓋入

巾箱飾



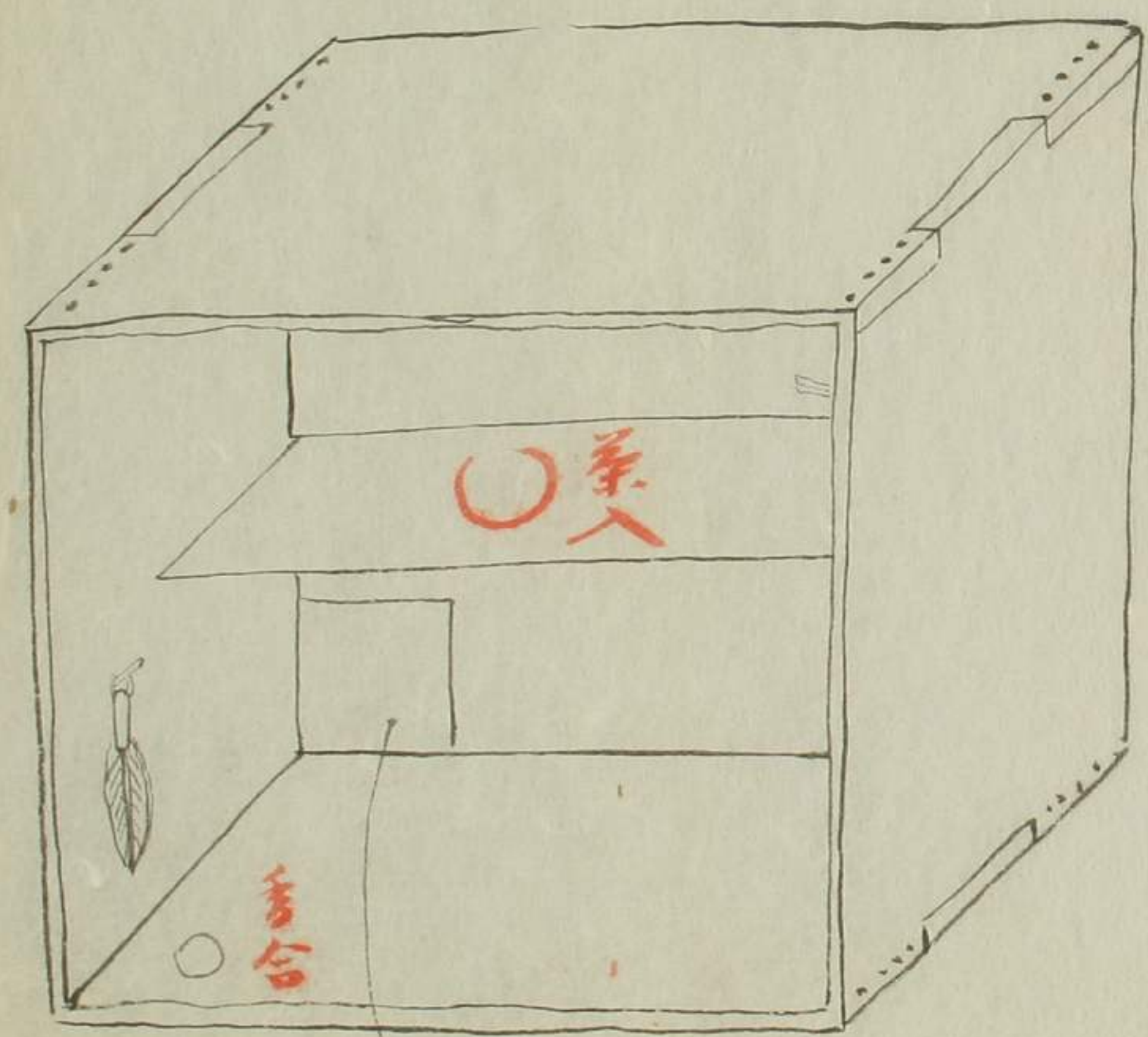
小中舗二重釣棚

上棚は香炉下飾奉  
 素入も上飾有り此飾  
 下之水き、是タルモ、



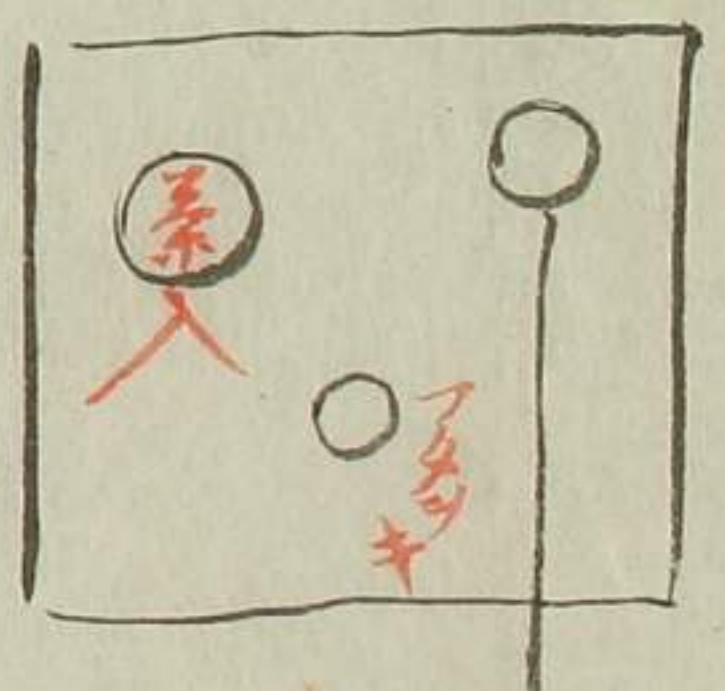
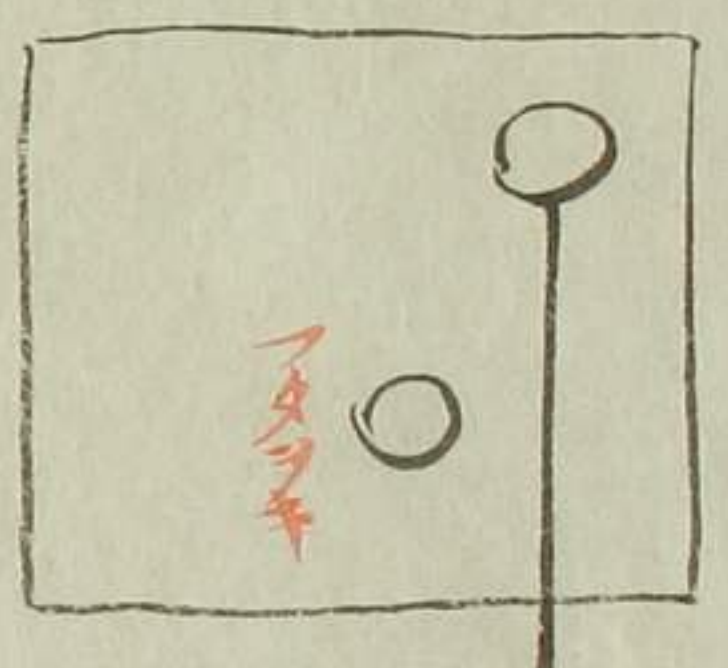
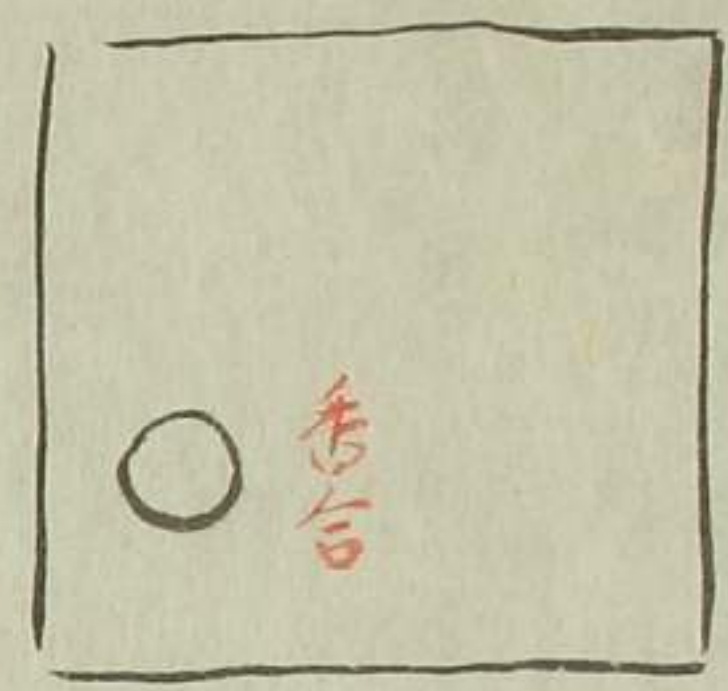


道幸  
杉

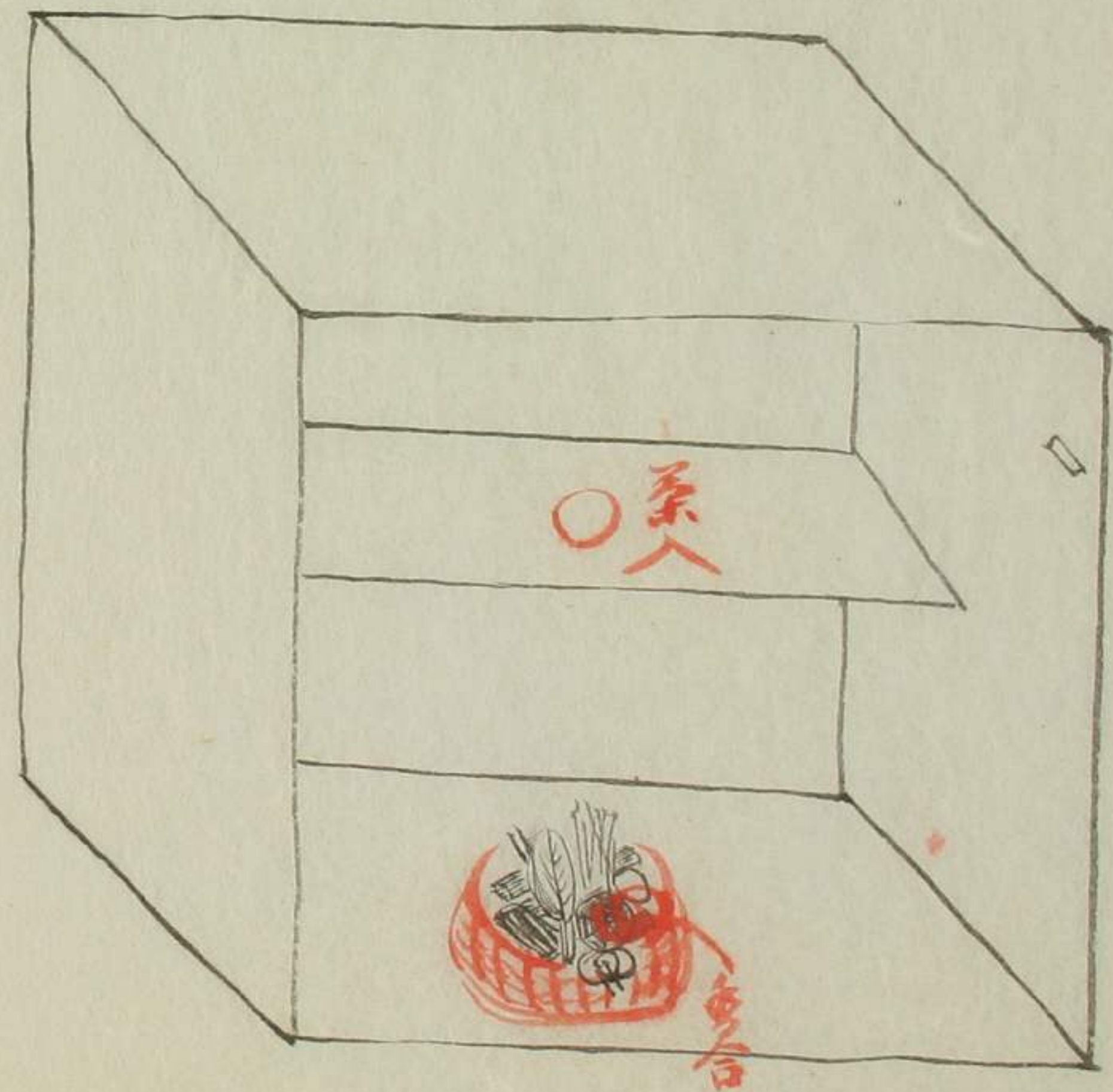
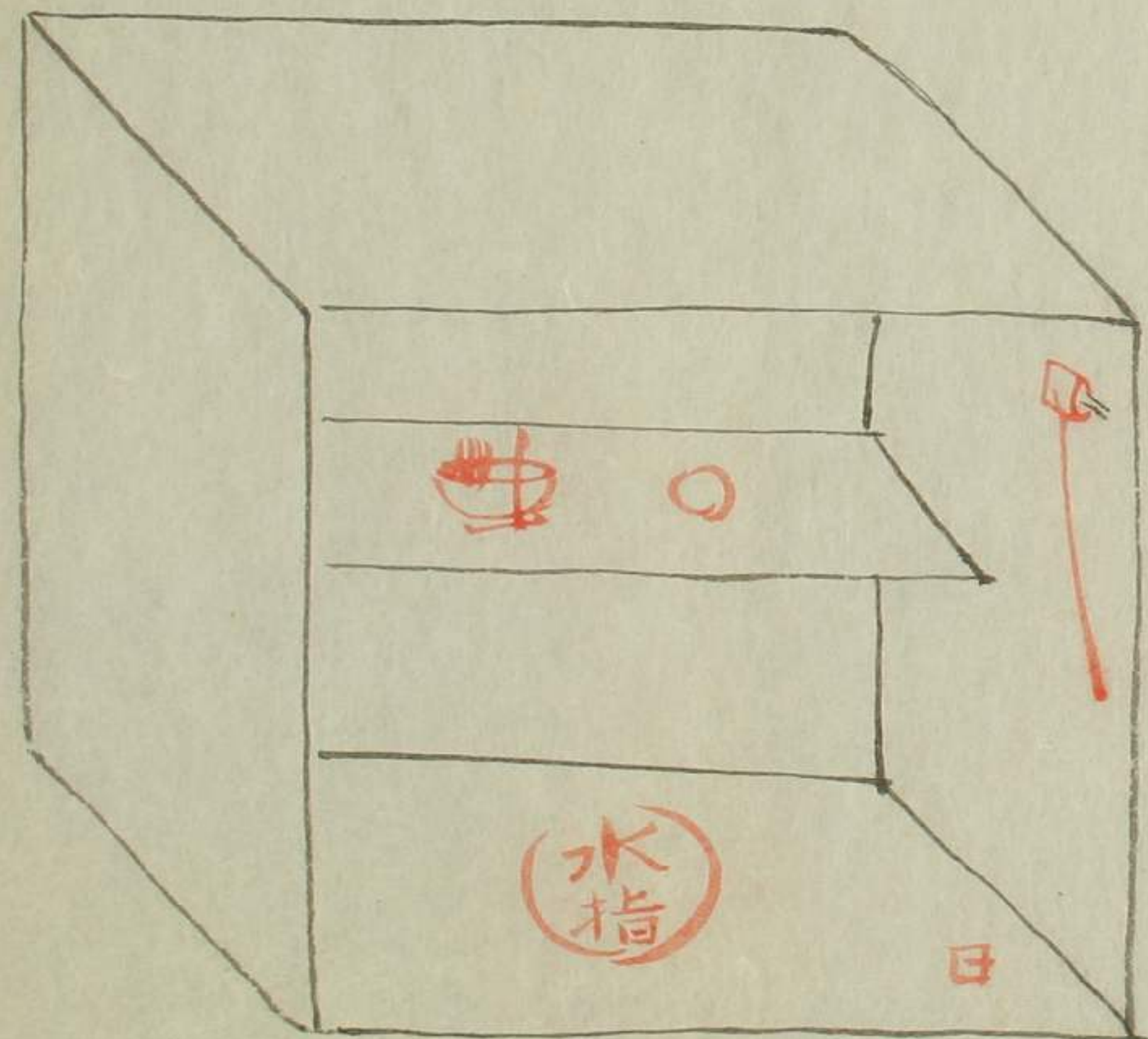


世所  
又  
は  
石

同一重釣柄



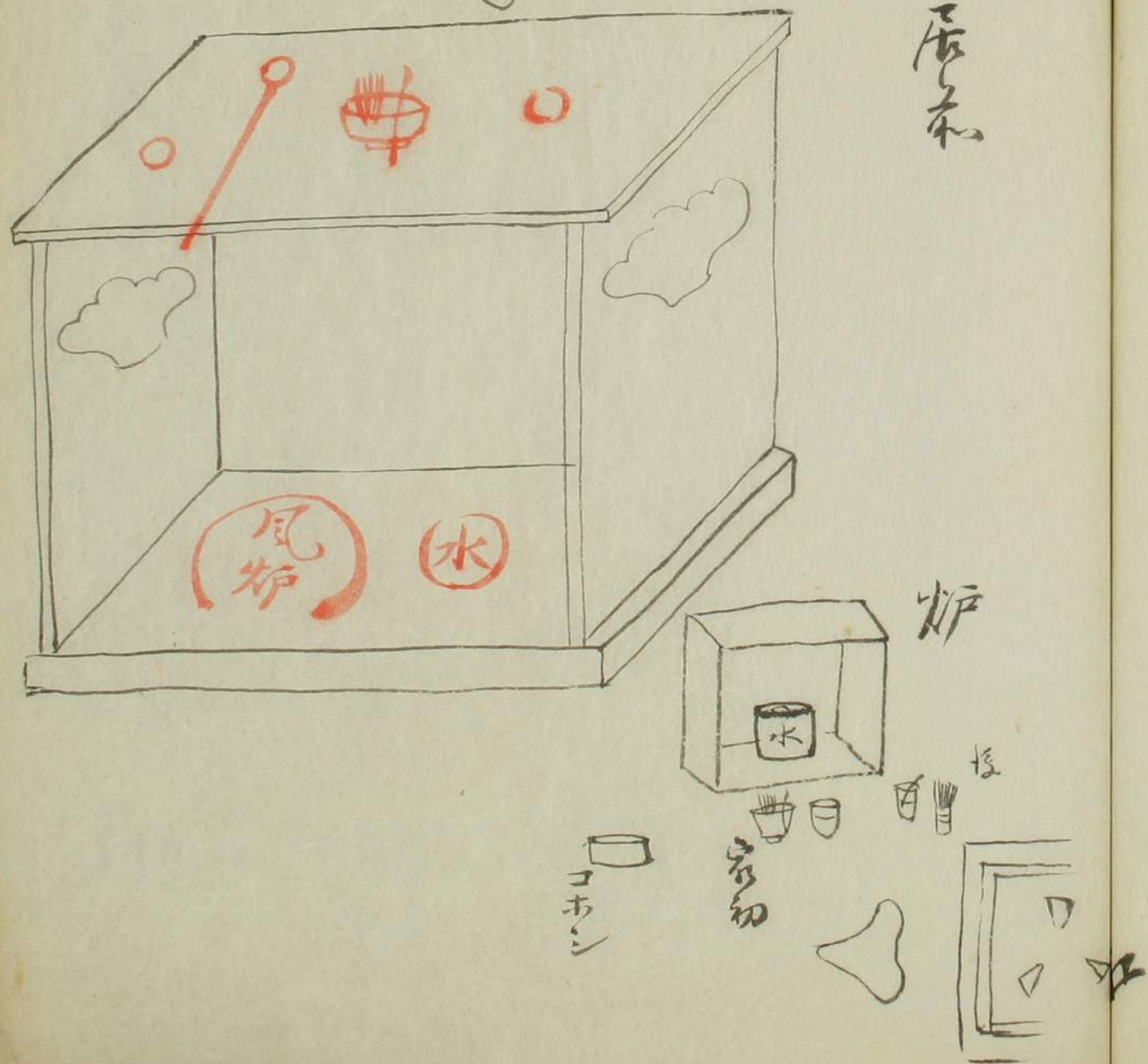
但  
柄  
柄  
柄  
柄



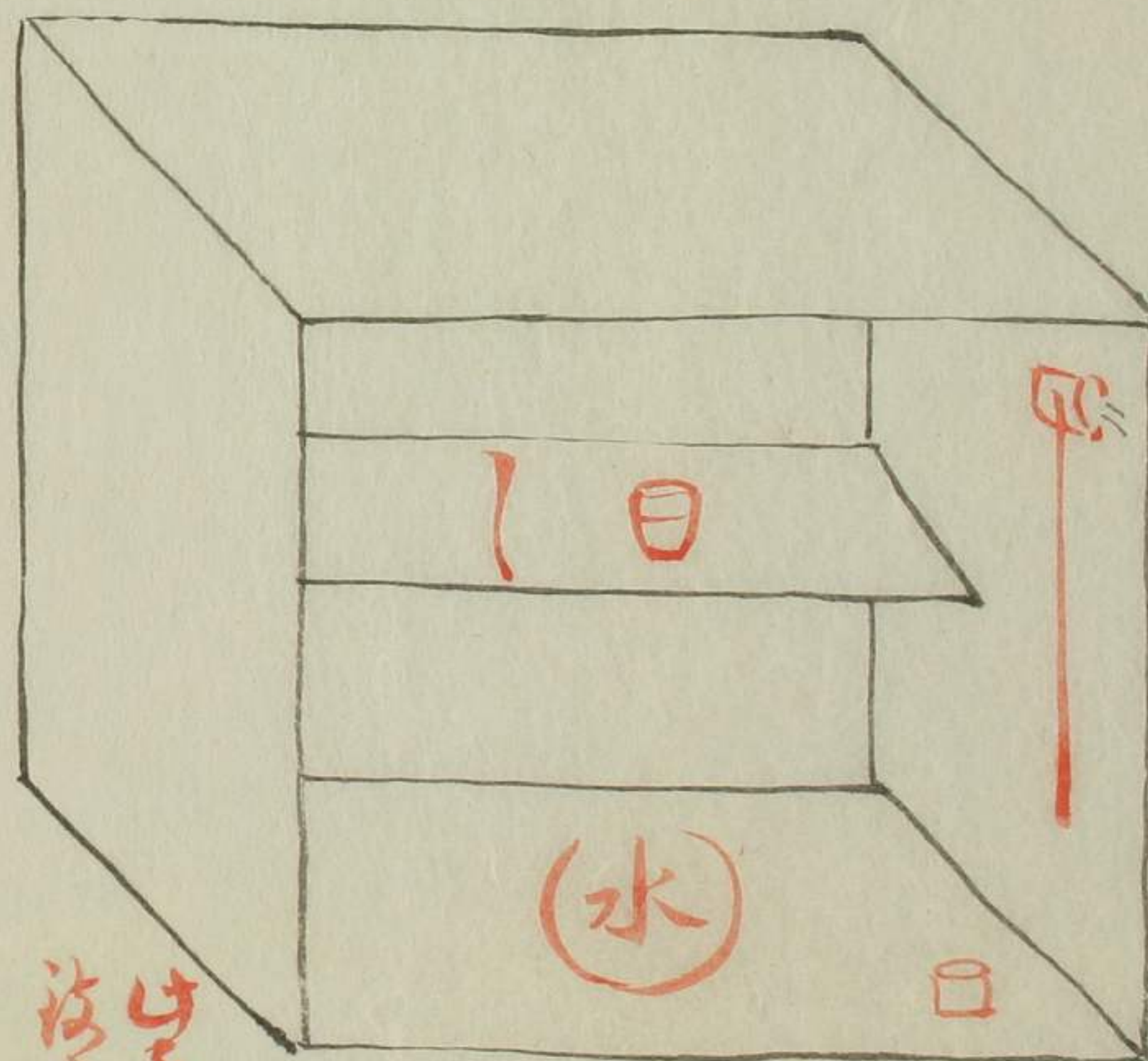
苗字  
重野  
字南棚  
桐

△兵方勢事あり  
△炉の時、さう中、  
水垢と、さう中、

爐の時、さう中、さう中、



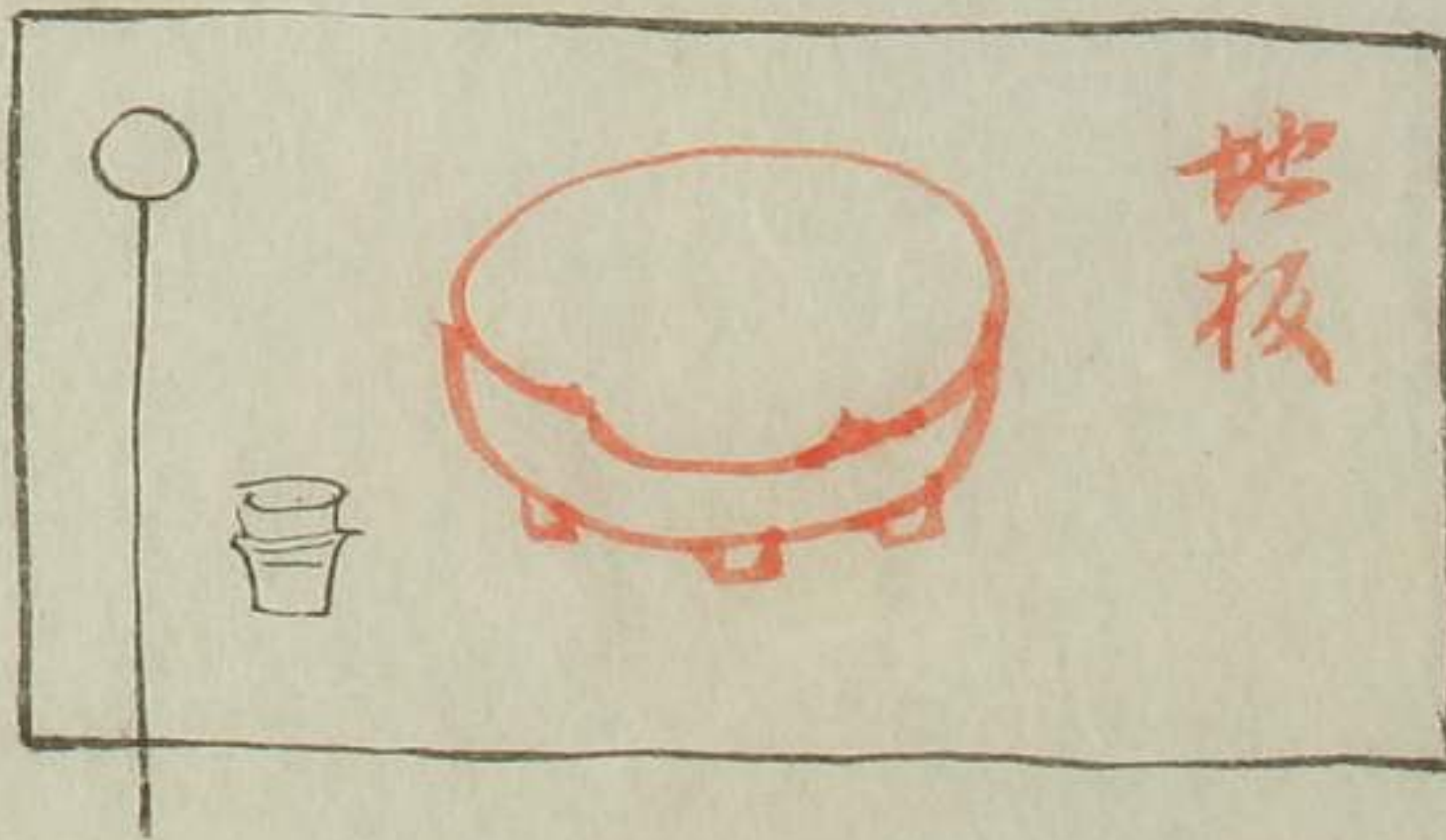
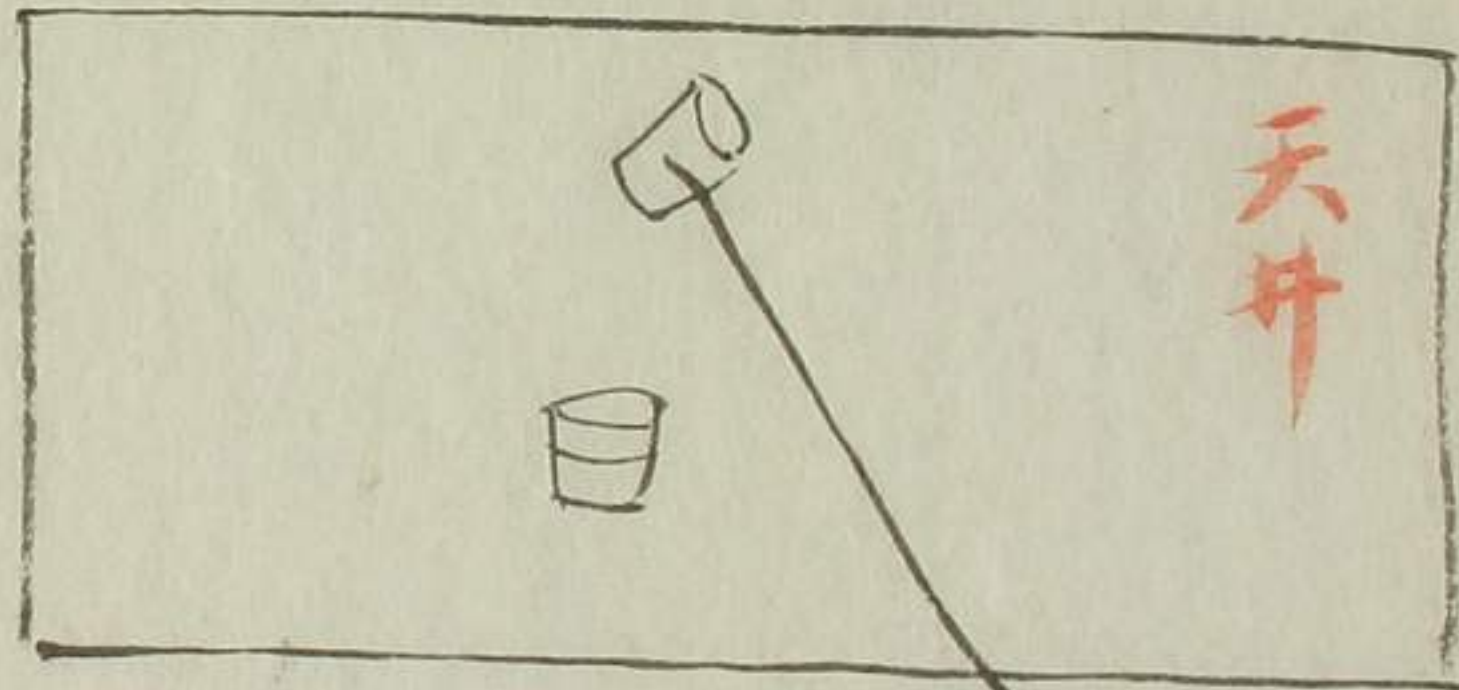
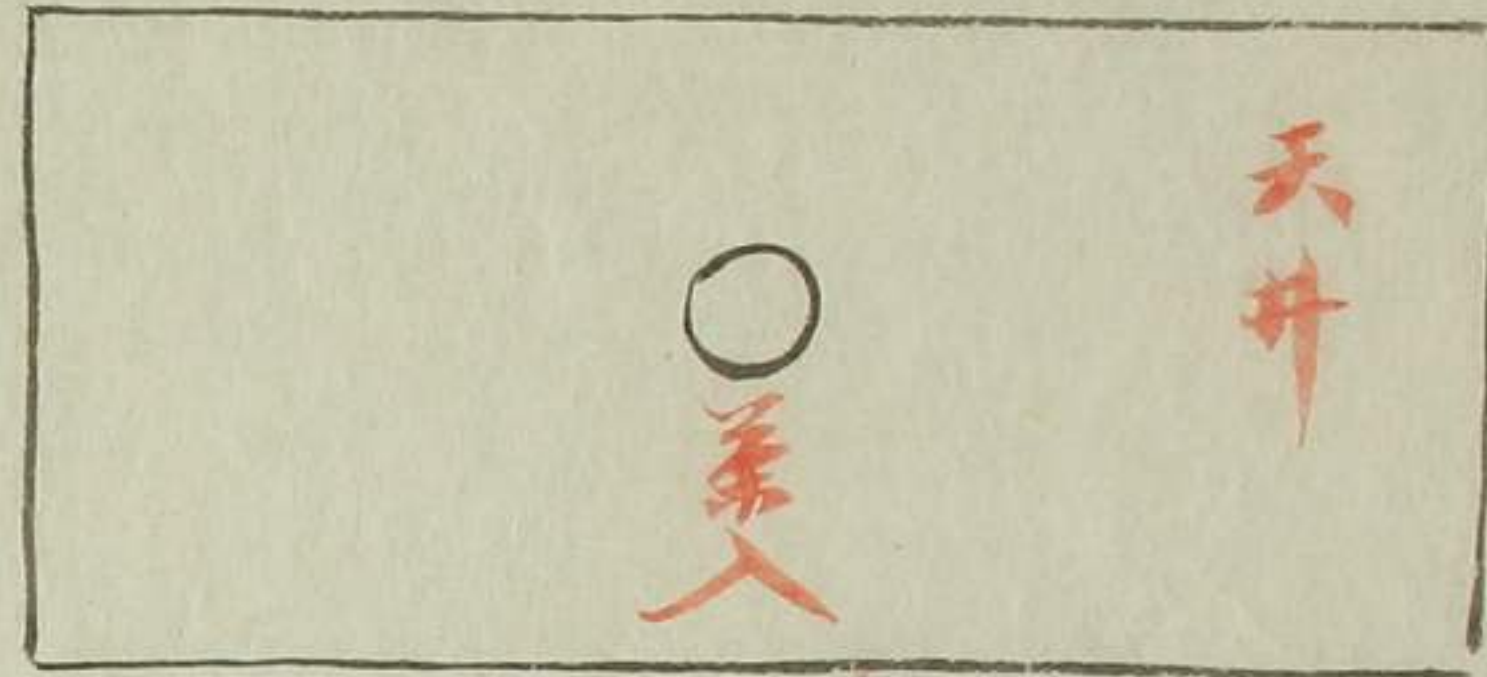
袋、灰の方  
ヒクキ釘掛



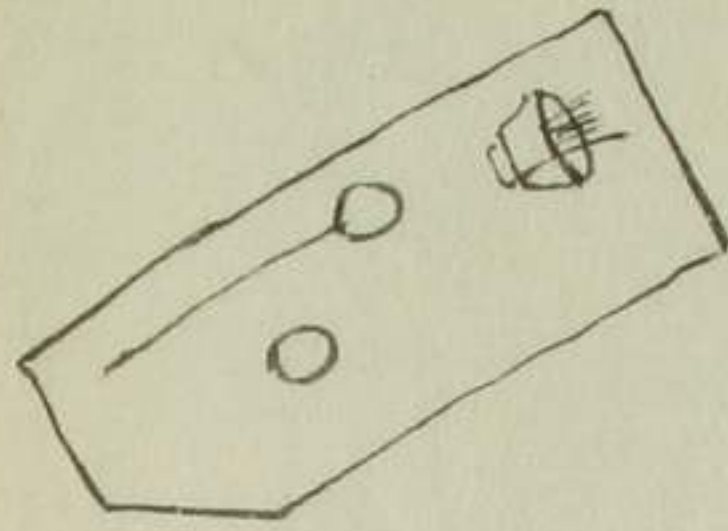
けり色  
法方方略

宗甫 柳 傍

略圖初の  
知國で可



訂箱 柳



上柳葉汁 下柳抄蓋 名汁もろろ

千り箸

フシミテ



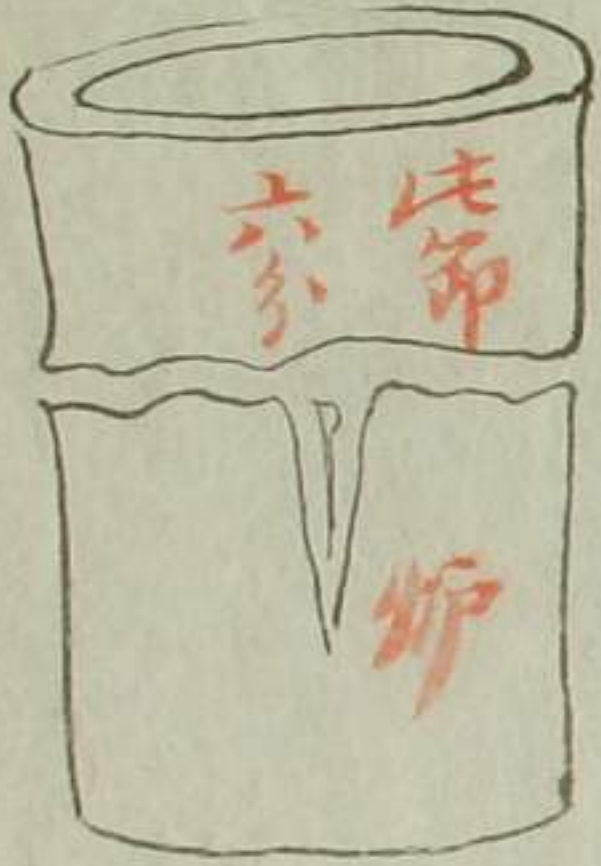
フシヨリ下  
一寸

柳七寸五分

サイ箸

柳長サ八寸五分

フシヨリ上四寸長九寸五分  
裏流



△ 灰吹 長サ五分

柳三寸サ五分八分

同柳



炉

木口一寸  
七六寸位

○胴炭

五寸

リク炭 上同

木口一寸二三分  
又六分

○毬抄

五寸五分

大  
○輪炭

五寸五分

〃  
○四方炭

胴炭の六寸木口一寸合切割し

風炉

炉ヨリホソク

○胴炭

四寸

リク炭 上同

○毬抄

五寸

○輪炭

五寸五分

○四方

五寸五分

○地心事

○短炭

五寸五分

長五寸五分

作し五寸五分と云く結し

○竹炭

五寸五分

五寸五分

掛炭

大

五寸五分

竹掛炭  
五寸五分  
角三寸五分  
穴上ヨリ五寸五分  
六寸五分





又玄三四好  
ツボ〜又八エホシ

初代  
長九寸  
中六寸  
言七寸  
七寸半  
板厚五分

石炭筆

木炭筆

金炭筆

腰掛筆

古〜多世人の之如 長寸 六七寸

初心集終

一筆庵

茶巾寸法 長七寸 横四寸

嘉永元年戊申四月上浣以六十二翁萬松亭  
和文之本為消日寫焉 雲葉

仁連

